DENON

ユニバーサル・オーディオ・ビデオプレーヤー

DBP-1611UD

取扱説明書

- お買い上げいただき、ありがとうございます。
- ご使用の前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。
- お読みになった後は、いつでも見られるところに「保証書」・「製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内」と共に大切に保管してください。
- この製品は持ち込み修理対象製品です。
  出張修理をご希望される場合は、別途出張料をご請求させていただくことになりますので、あらかじめご了承願います。
  詳しくは、「保障と修理について」（☞61 ページ）をご覧ください。

ご使用になる前に

安全上のご注意

正しく安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずよくお読みください。

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その絵表示と意味は次のようになっています。
内容をよく理解してから本文をお読みください。

絵表示の例

図の中や近傍に具体的な禁止内容が描かれています。

感電注意

△記号は注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。

分解禁止

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。

電源プラグをコンセントから抜く

●記号は行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。

⚠ 警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

電源プラグをコンセントから抜く

万一異常が発生したら、電源プラグをすぐに抜く

- 煙や異臭、異音が出たとき
- 落としたり、破損したりしたとき
- 機器内部に水や金属類、燃えやすいものなどが入ったとき

そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本体と接続している機器の電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、安全を確認してから販売店にご連絡ください。
お客様による修理などは危険ですので絶対におやめください。

必ず実施

ご使用は正しい電源電圧で

表示された電源電圧以外で使用しないでください。
火災・感電の原因となります。

必ず実施

電源コードは大切に

電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したりしないでください。また、重いものをのせたり、加熱したり、引っ張ったりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。
電源コードが傷んだら、すぐに販売店に交換をご依頼ください。

必ず実施

電源プラグの刃および刃の付近にほこりや金属物が付着しているときは

電源プラグをコンセントから抜いて、乾いた布で取り除いてください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

火気禁止

火や炎を近づけない

本機の上でろうそくを灯す・タバコの灰皿を使用するなどの火や炎の発生しているものを置かないでください。
火災の原因になります。

禁止

内部に水などの液体や異物を入れない

機器内部に水などの液体や金属類、燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。
火災・感電の原因となります。
特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

水ぬれ禁止

水滴や水しぶきのかかるところに置かない

雨天・降雪中・海岸・水辺での使用は特にご注意ください。
水がかかったり、濡れた状態で使用すると火災、感電の原因になります。

分解禁止

ねじを外したり、分解や改造したりしない

内部には電圧の高い部分がありますので、火災・感電の原因となります。
内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。

接触禁止

雷が鳴り出したら

機器や電源プラグには触れないでください。
感電の原因となります。

接触禁止

高温注意

使用中、使用直後に高温となる部分には触らない

使用中、使用直後は上面や高温注意マークの付近には触れないでください。
機器の放熱のために高温となっており、触れた場合にやけどをする恐れがあります。

禁止

乾電池は充電しない

電池の破裂・液漏れにより、火災・けがの原因となります。

水場での使用禁止

風呂・シャワー室では使用しない

火災・感電の原因となります。

水ぬれ禁止

この機器の上に花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品や水などが入った容器、および小さな金属物を置かない

こぼれたり、中に入ったりした場合、火災・感電の原因となります。

⚠注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、
人が軽傷を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

注意

付属の電源コードを使用する

他の機器の電源コードを本機に使用しないでください。
また、付属の電源コードは本機以外には使用しないでください。
電流容量などの違いにより火災・感電の原因となることがあります。

禁止

電源コードは確実に接続し、束ねたまま使用しない

必ず実施

電源コードを接続するときは接続口に確実に差し込んでください。差し込みが不完全な場合、火災・感電の原因となることがあります。
根元まで差し込んでもゆるみがあるコンセントには接続しないでください。その場合、販売店や電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。

禁止

また、電源コードは束ねたまま使用しないでください。発熱し、火災の原因となることがあります。

電源コードを熱器具に近付けない

禁止

コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

電源プラグを抜くときは

禁止

電源コードを引っ張らずに必ずプラグを持って抜いてください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

濡れた手で電源プラグを抜き差ししない

ぬれ手禁止

感電の原因となることがあります。

レーザー光源をのぞき込まない

禁止

レーザー光が目に当たると視力障害を起こすことがあります。

すぐにコンセントから電源プラグを抜くことができるように設置する

電源プラグをコンセントから抜く

電源のスイッチを切ってもコンセントからは完全に遮断されていません。
万一の事故防止のため、本機をコンセントの近くに置き、すぐにコンセントから電源プラグを抜くことができるようにしてください。

機器の接続は説明書をよく読んでから接続する

必ず実施

テレビ・オーディオ機器・ビデオ機器などの機器を接続する場合は、電源を切り、各々の機器の取扱説明書に従って接続してください。
また、接続には指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したり、コードを延長したりすると発熱し、やけどの原因となることがあります。

電源を入れる前には音量を最小にする

必ず実施

突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。

長時間音が歪んだ状態で使用しない

禁止

スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

電池を交換するときは

必ず実施

- 極性表示に注意し、表示通りに正しく入れる
- 指定以外の電池は使用しない
- 新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない

禁止

間違えると電池の破裂・液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

ディスク挿入口に手を入れない

手の挟み込み注意

指のけがに注意

特に幼いお子様にご注意ください。けがの原因となることがあります。
万一手を挟まれた場合は、すぐに本体の電源をスタンバイにして、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。

ヘッドホンを使用するときは音量を上げすぎない

禁止

耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

不安定な場所に置かない

禁止

ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

次のような場所には置かない

禁止

火災・感電の原因となることがあります。

- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるようなところ
- 湿気やほこりの多いところ
- 直射日光の当たるところや暖房器具の近くなど高温になるところ

壁や他の機器から少し離して設置する

必ず実施

放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面や背面から少し隙間をあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

この機器に乗ったり、ぶら下がったりしない

禁止

特に幼いお子様のいるご家庭では、ご注意ください。倒れたり、壊れたりして、けがの原因となることがあります。

通風孔をふさがない

禁止

内部の温度上昇を防ぐため、通風孔が開けてあります。次のような使いかたはしないでください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

- あお向けや横倒し、逆さまにする
- 押し入れ・専用のラック以外の本箱など風通しの悪い狭い場所に押し込む
- テーブルクロスをかけたり、じゅうたん・布団の上に置いたりして使用する

重いものをのせない

禁止

機器の上に重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下したりして、けがの原因となることがあります。

移動させるときは

電源プラグをコンセントから抜く

まず電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外してからおこなってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

長期間の外出・旅行のとき、またはお手入れのときは

電源プラグをコンセントから抜く

安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災・感電の原因となることがあります。

5 年に一度は内部の掃除を

注意

販売店などにご相談ください。内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。
特に、湿気の多くなる梅雨期の前におこなうと、より効果的です。なお、内部の掃除費用については販売店などにご相談ください。

注意

3D 映像を視聴する際は、3D 映像対応テレビや 3D 対応メガネの取扱説明書などに記載の注意事項もあわせてご覧ください。

禁止

てんかんの可能性がある方、光過敏の既往症のある方、心臓に疾患のある方、体調の悪い方は、3D 映像を見ない

症状悪化の原因となることがあります。

必ず実施

3D の映画などを視聴する場合は、1 作品の視聴を目安に適度に休憩をとる

長時間の視聴は、目の疲れの原因となることがあります。

必ず実施

3D 映像の視聴年齢は、6 歳以上を目安にする

お子様の場合は、疲労や不快感などに対する反応が分かりにくいため、急に体調が悪くなることがあります。

お子様が 3D 映像を視聴する場合は、保護者の方が目の疲れがないかご注意ください。

必ず実施

3D 映像が二重の映像に見えたり、立体感が得られなかったりしたら、見るのをやめる

そのまま見続けると、目の疲れの原因となることがあります。

必ず実施

3D 映像を見ているときに、感覚に異常を感じたり、疲れを感じたり、気分が悪くなったりしたときは、見るのをやめる

そのまま見続けると、体調不良の原因となることがあります。適度な休憩をとってください。

注意

周囲の人や物に注意する

3D 映像で距離感を誤って手を伸ばしたり、3D 映像を実際の物と間違えて急に身体を動かしたりすると、周囲の人にけがをさせたり、周囲の物を壊してけがをしたりする原因となることがあります。周囲に壊れやすいものを置かないようにしてください。

必ず実施

近視の方、遠視の方、左右の視力が異なる方、乱視の方は、視力矯正メガネなどの着用で視力を矯正したうえで 3D メガネを着用する

視力を矯正しないで 3D 映像を視聴すると、目の疲れや視力がより低下する原因となることがあります。

必ず実施

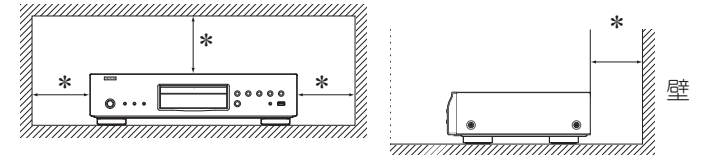
画面から適正な距離で視聴する

画面に近づいて視聴すると、目の疲れや視力低下の原因となることがあります。使用するテレビの取扱説明書などで推奨される距離で視聴するようにしてください。

目次

使用上のご注意

設置について

本機内部の放熱を良くするために、壁や他の機器との間は、十分に離して設置してください。

＊ 10cm 以上

携帯電話使用時のご注意

本機の近くで携帯電話をご使用になると、雑音が入る場合があります。携帯電話は本機から離れた位置で使用してください。

お手入れについて

- キャビネットや操作パネル部分の汚れは、柔らかい布で軽く拭き取ってください。化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きに従ってください。
- ベンジンやシンナーなどの有機溶剤および殺虫剤などが本機に付着すると、変質や変色の原因になりますので使用しないでください。

結露（つゆつき）について

本機を寒いところから急に暖かいところに移動させたり、本機を設置した部屋の温度を暖房などで急に上げたりすると、内部（動作部やレンズ）に水滴が付くことがあります（結露）。結露したまま本機を使用すると、正常に動作せず、故障の原因となることがあります。結露した場合は、本機の電源を切ったまま 1 ～2 時間放置してから使用してください。

残像現象（画像の焼きつき）について

ディスクメニューや本機のメニュー画面などの静止画を、テレビ画面に表示したまま長時間放置しないでください。画面に残像現象（画像の焼きつき）を起こすことがあります。

移動について

ディスクを取り出して電源をスタンバイにし、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続ケーブルを外してからおこなってください。

換気について

本機をたばこなどの煙が充満している場所に長時間置くと、光学式ピックアップの表面が汚れ、正しい信号の読み取りができなくなることがあります。

ステレオ音のエチケット

- 隣近所への配慮(おもいやり)を十分にいたしましょう。
- 特に静かな夜間は、小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には、特に気を配りましょう。

付属品を確認する

ご使用の前にご確認ください。

① 取扱説明書(本書)..1
② 保証書(梱包箱に貼り付けています)...............................1
③ 製品のご相談と修理･サービス窓口のご案内 1
④ 電源コード【本機専用】(長さ:約2.0m)...........................1
⑤ リモコン(RC-1151)..1
⑥ 単3形乾電池..2
⑦ 音声･映像ケーブル(長さ:約1.5m).................................1

本書について

❑操作説明のボタンについて

本書の操作説明は、リモコンの操作ボタンをメインに説明しています。

❑マークについて

☞ このマークは、関連情報を記載している参照先のページをあらわします。

このマークは、補足説明や操作上のアドバイスをあらわします。

ご注意 このマークは、操作時に留意していただきたい注意点や、機能の制約などをあらわします。

❑イラストについて

本書に使用しているイラストは、取り扱い方法を説明するためのもので実物と異なる場合があります。

本機の特長

スーパーオーディオ CD、DVD オーディオの再生をも実現したユニバーサルブルーレイディスクプレーヤー

再生する際、多彩なメディアに対応していますので、あなたの豊富なディスクライブラリーを高画質／高音質で楽しめます。

☞50 ページ「再生できるメディア」

ネットワーク対応

- 本機をインターネットに接続することで、YouTube のサービスが利用できます。
- ネットワーク接続した機器に保存した音楽･写真･動画ファイルを再生することができます。
- 本機をインターネットに接続し、本機の内蔵メモリーにコンテンツをダウンロードすることで、BD-LIVE を楽しむことができます。

☞31 ページ「ネットワークに接続する」

3D 映像の再生

3D 映像対応のテレビにハイスピード HDMI ケーブルで接続すると、3D 映像を楽しむことができます。

高品位な音質・画質に悪影響を及ぼす振動を抑えるダイレクト・メカニズム・グラウンド・コンストラクション

振動の元になるディスクメカニズムを本機の中央に配置することにより、不要な振動をフットからグラウンドへと効率よく逃がすことができ、高画質／高音質の再生をサポートしています。

映像信号および音声信号を忠実に再生するための独立したブロック構造

本機内部の様々な電気信号による電気・電磁ノイズの混入を防ぐため、各電気回路を分けて本機をレイアウトしています。

操作性と視認性に優れた GUI 搭載

本機には、メニュー表示や階層ディレクトリーを視覚的にわかりやすくした“グラフィカル･ユーザー･インターフェース”を搭載しています。階層を表示させることで、自分が何処にいて、何を設定しようとしているのかが分かりやすくなり、操作性を向上させています。

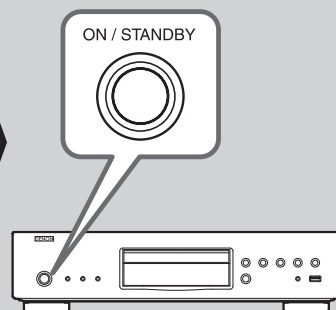
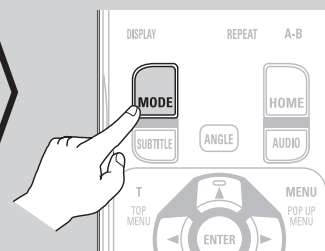
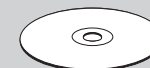
☞38 ページ「GUI メニュー操作」

HDMI コントロールに対応

HDMI コントロール機能をサポートしているテレビまたは AV レシーバーと本機を HDMI ケーブルを使って接続することにより、他の機器を操作することができます。

☞26 ページ「HDMI コントロール機能」

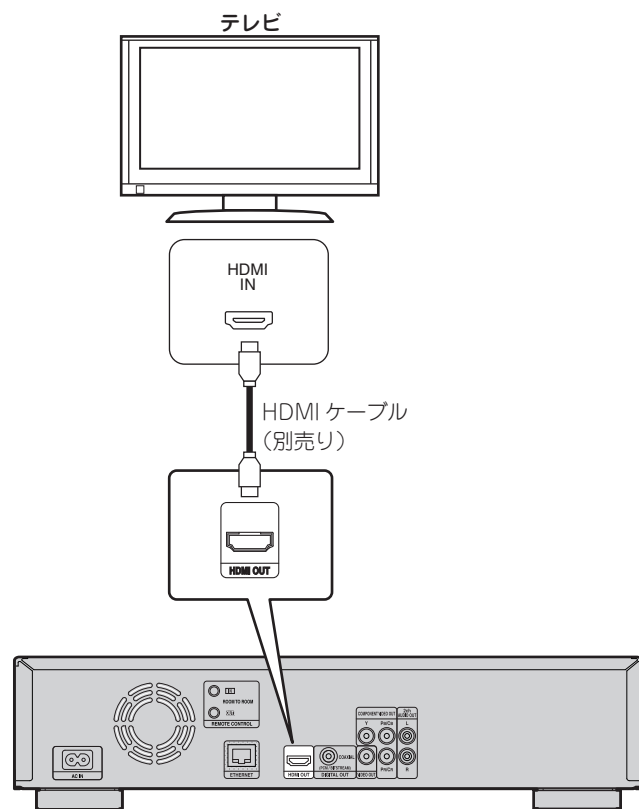
Simple version 入門編（かんたんセットアップガイド）

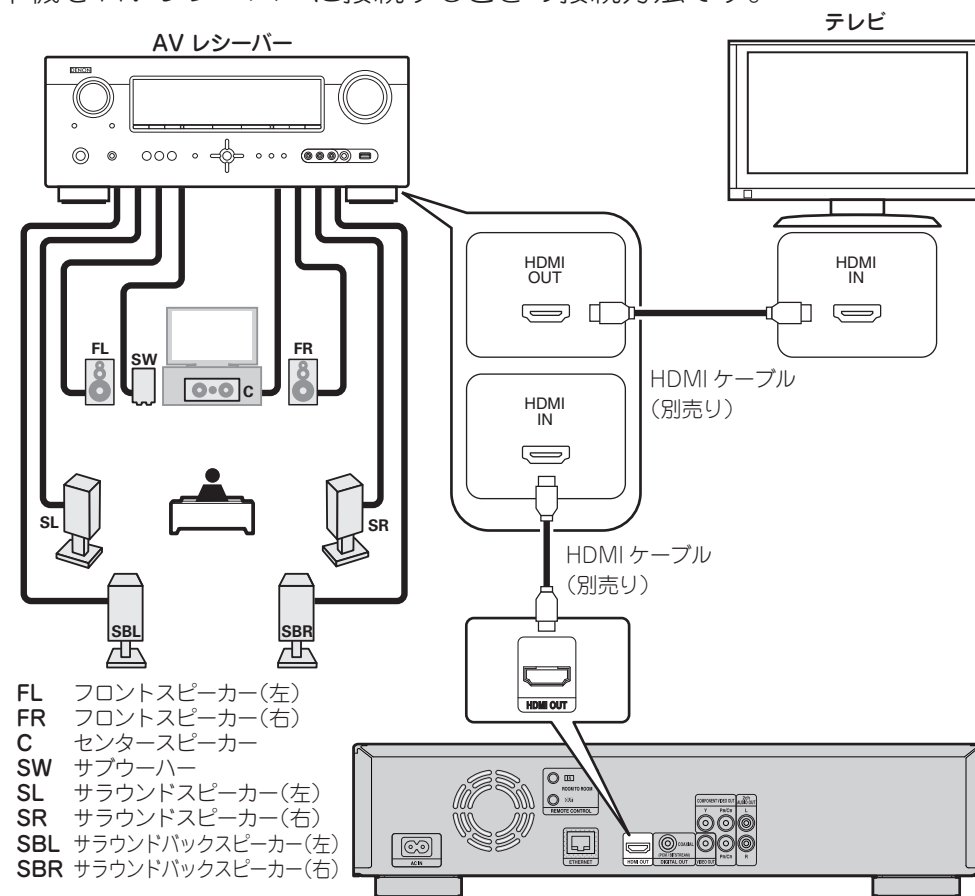
ここでは、梱包箱を開けた後、本機とテレビ、または本機と AV レシーバーを HDMI ケーブルを使って接続し、再生するまでの手順を簡単に説明します。

- ❑ **接続するときは、各機器の電源を切ってください。**
- ❑ **接続する各機器の取扱説明書もご覧ください。**

1 接続する

ここでは、本機を TV に直接接続する方法と、本機と AV レシーバーを経由して TV に接続する方法の 2 つを説明します。
お使いになる機器にあわせて接続してください。接続には HDMI ケーブル(別売り)を使います。

- 本機と接続する機器が HDMI 接続できないときは「基本接続」(☞14 ページ)をご覧になり、状況にあわせた接続をおこなってください。
- HDMI(High-Definition Multimedia Interface)ケーブルは HDMI ロゴのついたケーブル(HDMI 認証品)を使用してください。HDMI ロゴのないケーブル(HDMI 非認証品)を使用した場合、正常に再生ができない場合があります。
- ディープカラーや 1080p などの映像信号を出力する場合は、より高品質な再生のためにハイスピード HDMI ケーブルのご使用をおすすめします。

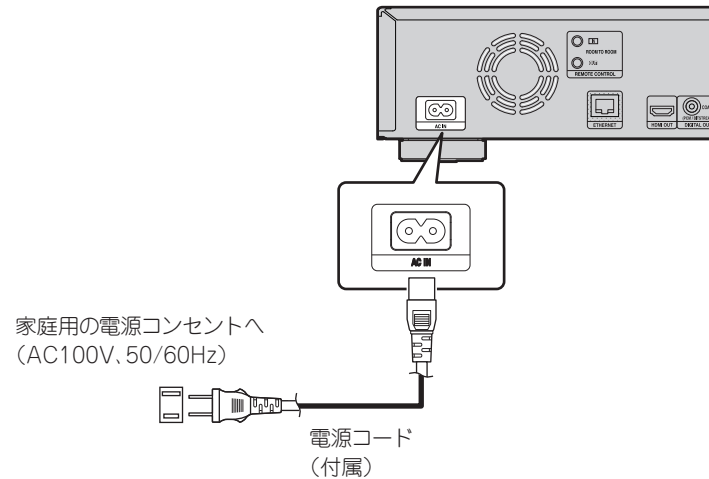
テレビ

本機と TV を直接接続するときの接続方法です。

AV レシーバーとテレビ

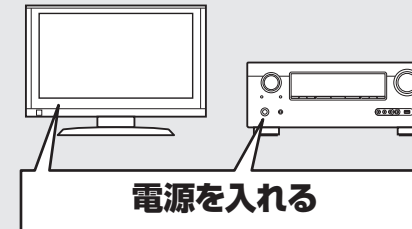
本機を AV レシーバーに接続するときの接続方法です。

FL フロントスピーカー(左)
FR フロントスピーカー(右)
C センタースピーカー
SW サブウーハー
SL サラウンドスピーカー(左)
SR サラウンドスピーカー(右)
SBL サラウンドバックスピーカー(左)
SBR サラウンドバックスピーカー(右)

2 電源を入れる

電源コード

付属の電源コードを本機に接続し、プラグをコンセントに差し込んでください。

ご注意

- **すべての接続が終わってから、電源コードを接続してください。**
- 電源プラグは確実に差し込んでください。不完全な接続は、雑音発生の原因になります。
- 接続ケーブルは、電源コードやスピーカーケーブルと一緒に束ねないでください。ハムや雑音の原因となることがあります。

1 テレビと AV レシーバーの電源を入れる。

2 テレビと AV レシーバーのファンクションを本機の入力に設定する。

3 **POWER ON または ON/STANDBY を押して、本機の電源を入れる。**

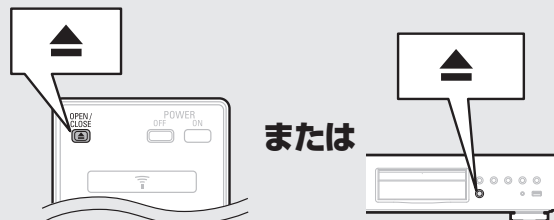
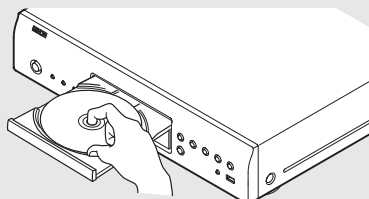
- 電源表示は緑色に点滅し、電源がオンになります。
- そのあと、電源表示は緑色の点灯に変わります。

- ディスプレイに"LOADING"を表示し、ディスク情報を読み込みます。
- ディスクが入っていないときは、"NO DISC"を表示します。

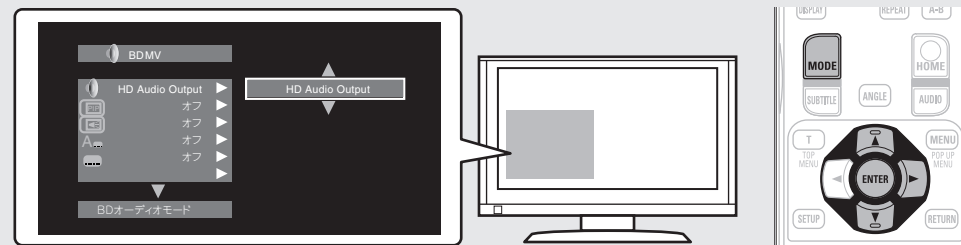
リモコンをお使いになる前に、電池を入れてください。「乾電池の入れかた」（☞49 ページ）

③ 音声の設定（HD Audio の設定）

ブルーレイディスクに収録されている音声フォーマットにはドルビーTrueHD、ドルビーデジタルプラス、DTS-HD などの HD 音声(High Definition Audio)フォーマットがあります。
HD 音声フォーマットの音声を再生するには、本機を接続する AV レシーバーが HD 音声の再生に対応している必要があります。
ここでは、接続する AV レシーバーにあわせて HD 音声フォーマットをそのまま出力するか、通常のデジタル音声に変換して出力するかの設定をおこないます。

1 ⏏ を押す。
ディスクトレイがひらきます。

2 レーベル面を上にして、ディスクをトレイにのせる。

3 ⏏ を押す。
ディスクトレイは閉まり、ディスクの再生を開始します。

ご注意
- ディスクトレイは手で押し込まないでください。故障の原因になります。
- ディスクによっては、▶ を押さないと再生しないことがあります。このとき、▶ を押して、再生を開始させてください。

4 MODE を押す。
設定できる項目のメニューを表示します。

再生中に音声の設定をします。

5 △▽ で "BD オーディオモード"を選択し、ENTER または ▷ を押す。

6 △▽ で "HD Audio Output" または "Mix Audio Output" を選択し、ENTER を押す。

ブルーレイディスクを高音質で聴きたいとき

"BD オーディオモード"の設定を"HD Audio Output"に選択してください。
- 本機からはブルーレイディスクの HD 音声を出力します。

- HD 音声で収録されているメインの音声のみを出力します。
- 本機を AV レシーバーに接続する前に、レシーバーが HD 音声の再生に対応していることを確認してください。対応していない場合、本機の HDMI 出力端子から LPCM に変換された信号を出力し、HD 音声は出力しません。

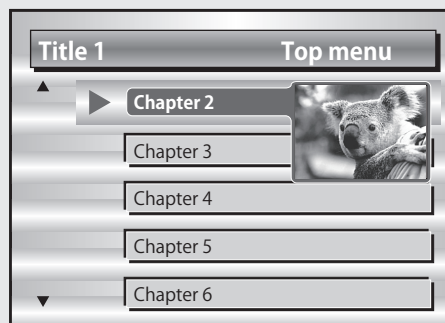
ブルーレイディスクのサブ音声(インタラクティブオーディオや第２音声)を聴きたいとき

"BD オーディオモード"の設定を"Mix Audio Output"に選択してください。
- 本機からはブルーレイディスクの HD 音声を通常のデジタル音声に変換して出力します。

インタラクティブオーディオや第２音声はブルーレイディスクによって仕様が異なります。
詳しくはブルーレイディスクのパッケージや付属の説明書をご覧ください。

4 ディスクを再生する

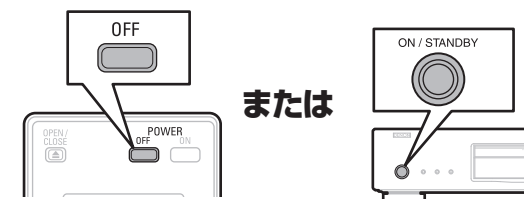
1 **TOP MENU** または **MENU** を押す。
ディスクに収録されたメニューを表示します。

2 トップメニューで再生するタイトルやチャプターを選択し、再生する。

電源をスタンバイ状態にするとき

リモコンの **POWER OFF**、または 本機の **ON/STANDBY** を押す。

- 電源表示は緑色の点滅します。そのあと消灯し、本機の電源はスタンバイ状態になります。

【 スタンバイモード時の電源表示 】

- 低消費電力スタンバイ：消灯
- 通常スタンバイ：赤色に点灯

GUI メニューの“システム” ⇨“自動パワーモード” を“オン” (☞39 ページ)に設定している場合、次の状態が約 30 分間続くと、自動的に電源をスタンバイにします。

- ディスクを読み込んでいない
- 再生が停止している
- レジューム機能により停止している

ご注意

電源がスタンバイ状態のときは、微量な電力を消費します。すべての電力を完全に遮断するときは、電源コードをコンセントから抜いてください。

Basic version

基本編

この章ではディスクの映像、音声を楽しむための操作方法を説明します。

❑それぞれのメディアや外部機器の接続と再生のしかたは、以下のページをご覧ください。

音声および映像	接続のしかた	再生のしかた
ブルーレイディスク／DVD ビデオ	☞14 ～ 17 ページ	☞19 ページ
DVD オーディオ	☞14 ～ 17 ページ	☞21 ページ
音声	**接続のしかた**	**再生のしかた**
スーパーオーディオ CD	☞14 ～ 17 ページ	☞20 ページ
CD	☞14 ～ 17 ページ	☞21 ページ

基本接続

知っておいてほしいこと

- **ご使用になる前に接続する機器に合わせて、いずれかの接続方法を選んでください。**
- **接続方法によっては、本機の設定が必要なものもあります。詳しくは、各接続項目の説明をご覧ください。**
- **ご使用になる機器に合わせて、別売りのケーブルをご用意ください。**

ご注意

- すべての接続が終わるまで、電源プラグをコンセントに差し込まないでください。
- 接続するときは、接続する機器の取扱説明書も必ずお読みください。
- 左右のチャンネルを確かめてから、正しく L と L、R と R を接続してください。
- 接続ケーブルは、電源コードやスピーカーケーブルと一緒に束ねないでください。ハムや雑音の原因となることがあります。

接続に使用するケーブル

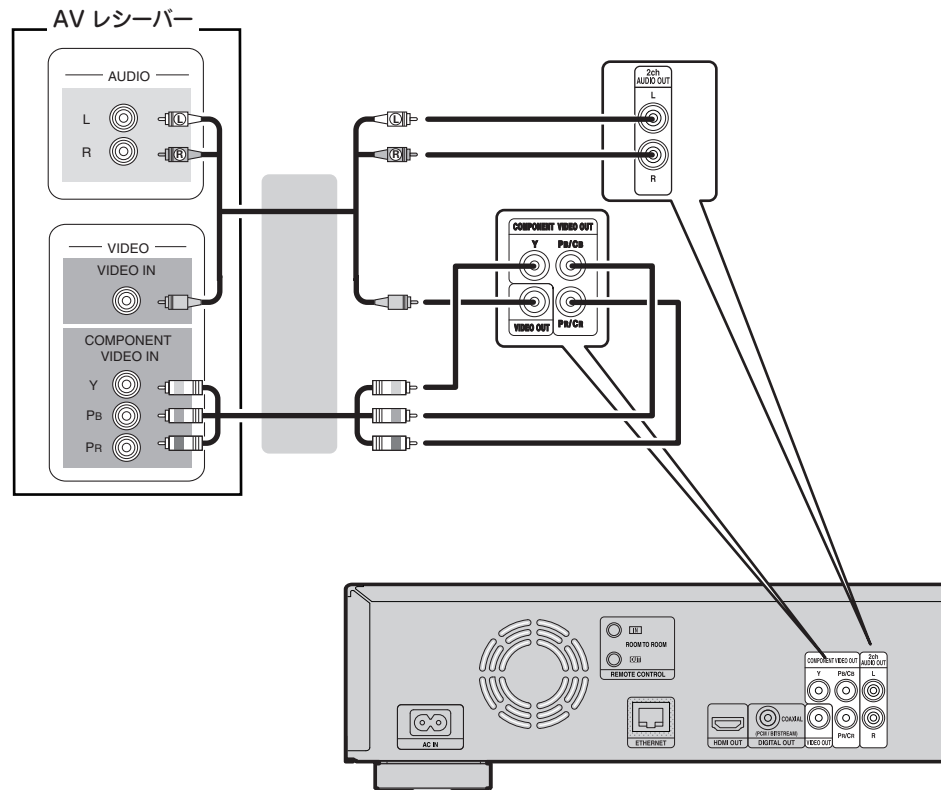
AV レシーバーと接続する

HDMI ケーブルを使って接続にするときは「接続する」（☞9 ページ）をご覧ください。ここでは HDMI 接続以外の接続を説明します。

アナログ 2 チャンネル音声入力端子がある AV レシーバーと接続する

- 本機に接続する AV レシーバーが以下の仕様のときにこの接続をおすすめします。
  - HDMI の入力に対応していない。
  - デジタル音声（同軸）入力に対応していない。
- 接続する機器に合わせて端子を選び、接続してください。

ご注意

- コンポーネント映像ケーブルを接続するときは、Y と Y　Pb/Cb と Pb　Pr/Cr と Pr を正しく接続してください。
- D 端子対応のテレビをご使用の場合は D 端子／コンポーネント映像ケーブルをご使用ください。

デジタル音声入力端子がある AV レシーバーと接続する

- 本機に接続する AV レシーバーが以下の仕様のときにこの接続をおすすめします。
  - HDMI の入力に対応していない。
  - デジタル音声(同軸)入力に対応している。
- デジタル端子と接続することで、5.1 チャンネルの出力に対応しているディスクの再生信号を忠実に再生できます。
- 接続する機器に合わせて端子を選び、接続してください。

接続に使用するケーブル

音声ケーブル	
同軸デジタルケーブル(別売り)	(黒)
音声・映像ケーブル	
音声・映像ケーブル(付属)	(白) L (赤) R (黄)
映像ケーブル	
コンポーネント映像ケーブル(別売り)	(緑) (青) (赤)

ドルビーデジタルプラス/ドルビー TrueHD / DTS-HD の音声が収録されたブルーレイディスクを再生するときは、本機のデジタル音声出力端子からドルビーデジタルまたは DTS のビットストリームを出力します。

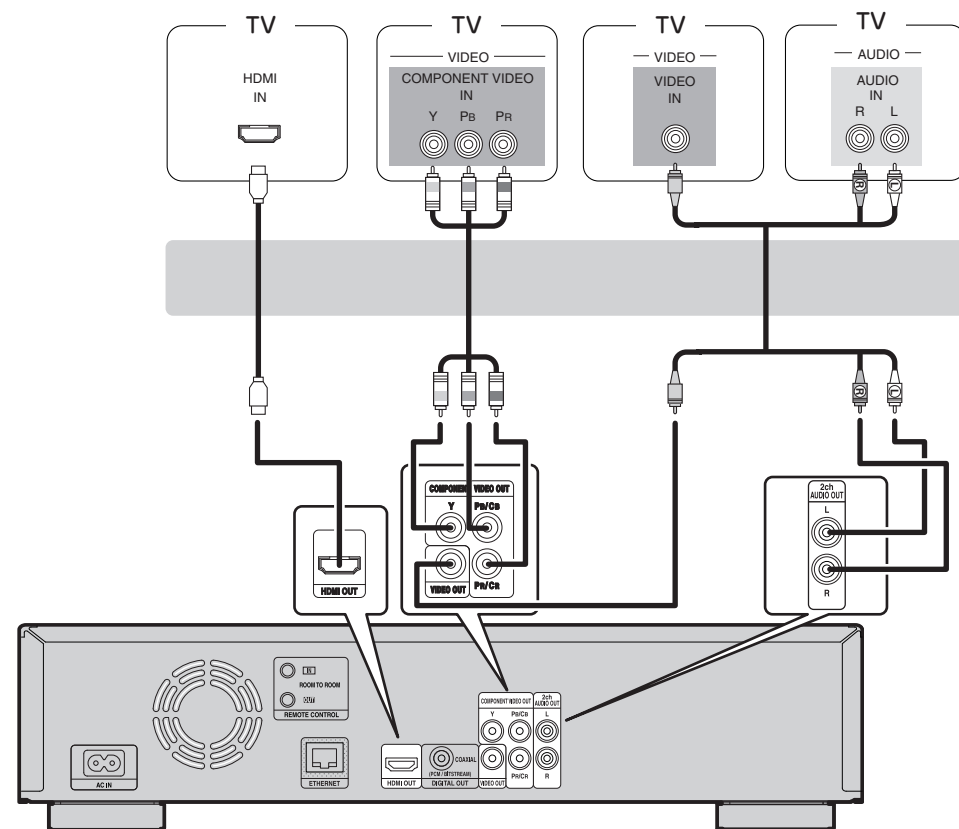
ご注意

- この接続ではドルビー TrueHD /ドルビーデジタルプラス/ DTS-HD の音声信号は出力できません。ドルビー TrueHD /ドルビーデジタルプラス/ DTS-HD の音声信号を出力する場合は、HDMI 接続でおこなってください (☞9 ページ)。
- スーパーオーディオ CD の DSD 信号は出力できません。また、CD レイヤー再生時には、44.1kHz / 16bit リニア PCM を出力します (☞54 ページ)。
- スーパーオーディオ CD の再生において、マルチエリアまたはステレオエリアで再生するときはデジタル音声端子から音声は出力されません。アナログ音声の接続をおこなってください。(☞54 ページ)。
- DVD オーディオ再生のときは、2ch リニア PCM を出力します (☞54 ページ)。
- DTS に対応していない AV レシーバーには、DTS の音声信号を出力しないでください。DTS で収録されたブルーレイディスク/DVD ディスクを再生すると耳を刺激するような雑音が発生し、スピーカーを破損する恐れがあります。

テレビと接続する

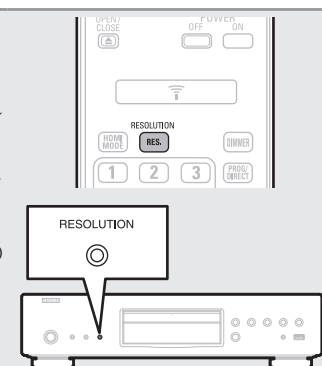
本機とテレビを直接接続する方法です。
テレビの音声、映像端子を確認してどれかひとつの端子と接続してください。

接続に使用するケーブル

音声・映像ケーブル	
HDMI ケーブル（別売り）	
音声・映像ケーブル(付属)	（白）（赤）（黄）
映像ケーブル	
コンポーネント映像ケーブル（別売り）	（緑）（青）（赤）

ご注意
- 本機の映像出力を VTR(ビデオテープレコーダー)経由でテレビに接続しないでください。メディアによってはコピー禁止信号が入っているものがあり、その場合画面が乱れることがあります。
- 本機は NTSC ディスクまたは PAL ディスクの両方ともに再生することができます。
- 本機は NTSC ディスクおよび PAL ディスクを自動で判別します。また、NTSC を PAL に変換する機能、および PAL を NTSC に変換する機能は搭載しておりません。

❏ コンポーネント映像端子があるテレビに接続するとき

接続したテレビに対応している解像度に合わせて、RESOLUTION を押す（☞27 ページ）。

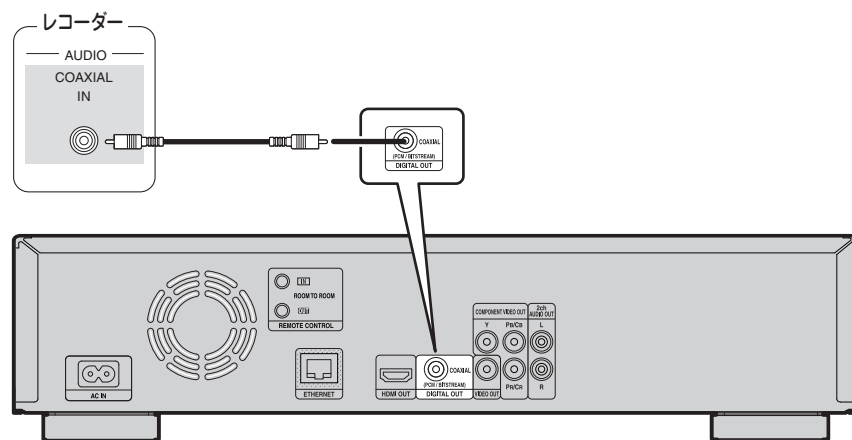
- 本機のコンポーネント映像出力は、480i／576i／480p／576p／720p／1080i 出力に対応しています。
- テレビの解像度と本機の出力解像度が一致しないと画像が正しく映りません。
- 著作権保護されている DVD は、480i／576i または 480p／576p で出力します。

❏ DVI-D 端子付きの機器に接続するとき

HDMI DVI-D 変換ケーブルをご使用ください。
- この場合、音声信号を出力しません。ご使用の機器にあった音声接続をおこなってください。
- 映像信号は RGB 形式になります。
- HDCP(著作権保護)非対応の DVI-D 機器には出力できません。
- 機器の組み合わせによっては映像が出力されない場合があります。

デジタル録音機器と接続する

同軸デジタル音声入力端子がある音声機器を使用し、本機の音声を録音するときの接続です。

接続に使用するケーブル

音声ケーブル	
同軸デジタルケーブル（別売り）	（黒）

マルチチャンネル音声を 2 チャンネルに変換して出力する場合、接続した Coaxial デジタル出力をビットストリームから PCM に設定を変更し（☞43 ページ“Coaxial”）、機器に合わせてデジタル音声出力のサンプリングレートの設定をおこなってください（☞44 ページ“ダウンサンプリング”）。

ご注意

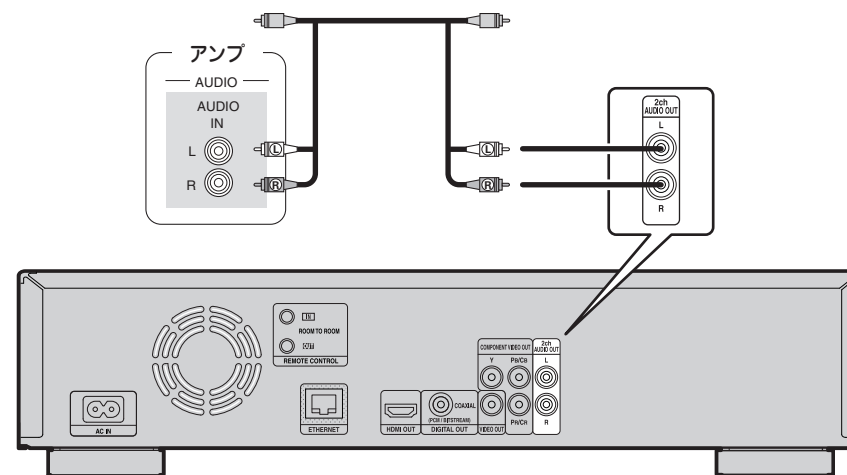
正しく設定せずにブルーレイディスク／ DVD ディスクなどを再生すると、耳を刺激するような雑音が発生し、スピーカーを破損する恐れがあります。

2 チャンネル音声を再生したい

本機の音声をアナログ 2 チャンネル音声入力端子がある機器で再生するときの接続です。

マルチチャンネルで収録されているソフトを再生すると、 2チャンネルにダウンミックスしたアナログ音声を出力します。

接続に使用するケーブル

音声・映像ケーブル	
音声・映像ケーブル（付属）	（白） （赤） （黄）

再生のしかた（基本操作）

ここでは、各メディアの表示画面と再生するまでの手順を説明します。

アイコンはそれぞれの操作に対して対応しているコンテンツのカテゴリーを示します。

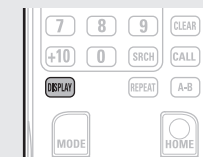
	映像：ブルーレイディスク , DVD ビデオ , DivX plus HD, MPEG, AVI, WMV, AVCHD, AVCREC
	音声：スーパーオーディオ CD, CD, DVD オーディオ , MP3, WMA, AAC, LPCM
	写真：JPEG

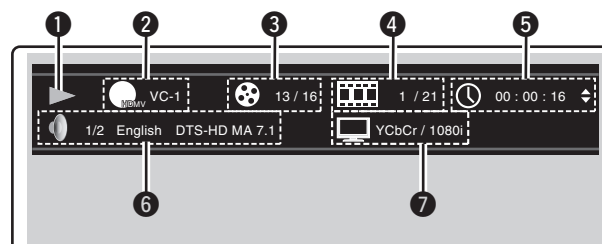
ご注意

- 操作中にテレビ画面の左上に“⊘”（禁止マーク）が表示されることがあります。禁止されている操作がおこなわれていることをあらわします。
- ディスクによっては、本書の説明どおりに動作しないものがあります。詳しくは、ディスクの説明書をご覧ください。
- 2 層ディスクの場合、レイヤーの変わり目で一瞬画像が静止することがありますが、故障ではありません。

再生情報の表示について

DISPLAY を押すと、情報バー、メディアプレーヤーの表示を表示します。

- 表示を消すときは、消えるまでくり返し **DISPLAY** を押してください。
- 再生中のメディアによって、表示内容は異なります。
  再生中と停止中で表示される情報が異なります。

情報バーの表示

この画面はブルーレイディスク、DVD ビデオなど、映像データを再生したときに表示します。

❶ 再生情報
- 再生（▶）
- 停止（■）
- 一時停止（❚❚）
- スキップ戻し（❙◀◀）／スキップ送り（▶▶❙）
- 早戻し（◀◀）／早送り（▶▶）
- スロー戻し（◀❙）／スロー送り（❙▶）

❷ 映像フォーマット表示

❸ タイトル／グループ表示

❹ チャプター／トラック表示

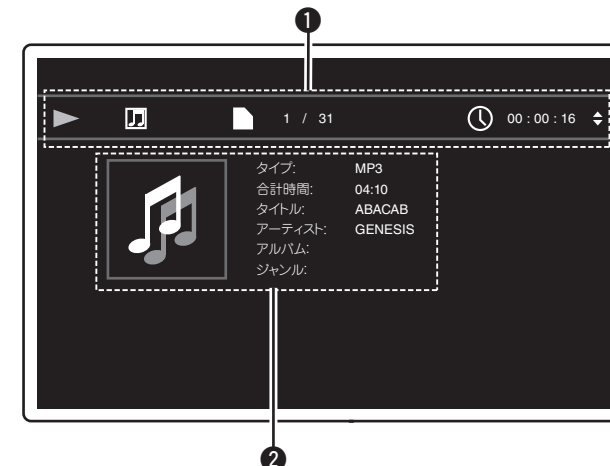
❺ 時間表示
- タイトル 経過時間／残り時間
- チャプター 経過時間／残り時間
- グループ 経過時間／残り時間
- トラック 経過時間／残り時間

❻ 音声フォーマット表示

❼ HDMI出力信号の表示
（HDMI デバイス接続時）

メディアプレーヤーの表示

この画面はスーパーオーディオ CD、CD など、音楽データを再生したときに表示します。

❶ 再生情報
- 再生（▶）
- 停止（■）
- 一時停止（❚❚）
- スキップ戻し（❙◀◀）／スキップ送り（▶▶❙）
- 早戻し（◀◀）／早送り（▶▶）
- スロー戻し（◀❙）／スロー送り（❙▶）

❷ メディア情報
- タイプ
- 合計時間
- タイトル
- アーティスト
- アルバム
- ジャンル
- アートワーク

アイコンはそれぞれの操作に対して対応しているコンテンツのカテゴリーを示します。 映像 音声 写真

それぞれのアイコンに対応したメディアの詳細は“再生できるメディア”（☞50 ページ）を参照。

BD や DVD ビデオを再生する

1 **POWER ON を押して、本機の電源を入れる。**

2 **フロントパネルの SOURCE を押して、“DISC MODE” を選択する。**

3 **DISC LAYER を押して、“BD” を選択する。**

• **DISC LAYER** を 2 秒間押すごとに、次の様にメディアが切り替わります。

→ Multi → Audio → BD →

Multi	スーパーオーディオ CD
Audio	DVD オーディオ
BD	ハイブリッド BD

4 **DISC LAYER を押して、再生するハイブリッド BD ディスクの“BD レイヤー”または“DVD レイヤー” を選択する (☞52 ページ)。**

→ BD → DVD →

BD	ハイブリッド BD ディスクの“BD レイヤー” を再生する。
DVD	ハイブリッド BD ディスクの“DVD レイヤー” を再生する。

• 上記の設定はハイブリッド BD ディスクのみ必要です。

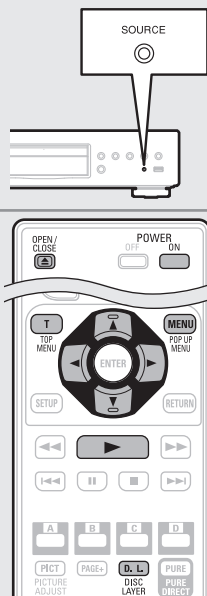
ご注意

ディスクレイヤーの設定はディスクを本機に挿入する前におこなってください。

5 **ディスクを挿入する。**

⏏ を押してディスクトレイを開閉します。

6 **▶ を押す。**

再生を開始します。

7 **DVD ビデオを再生中に、TOP MENU または POP UP MENU を押して、メニュー画面を表示する。**

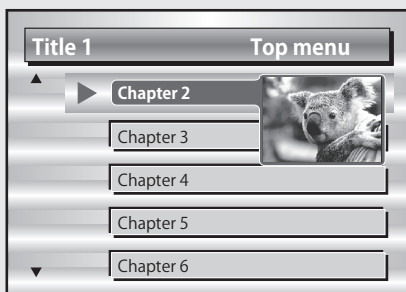
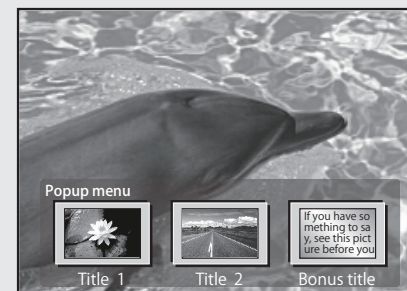
• メニュー画面の続きがある場合、△▽◁ ▷ を押すとメニュー画面の続きを表示します。
• ブルーレイディスクではディスクによっては、ポップアップメニューからタイトルやチャプターを選ぶことができます。

8 **ご使用の状況にあわせて、ディスクメニューで下記の設定をおこなう。**

• 字幕の言語
• 音声の言語
• 音声フォーマットなど

【 例 】

❑ **ディスクメニュー**

❑ **トップメニュー**

❑ **ポップアップメニュー**

❑ **再生を一時停止する (☞22 ページ)**
❑ **再生を停止する (☞22 ページ)**
❑ **見たいチャプター / トラック / ファイルにスキップする (☞22 ページ)**
❑ **早送り / 早戻しをする (☞22 ページ)**
❑ **サーチモードを使って、見たい / 聴きたい場所を探す (☞23 ページ)**
❑ **再び再生したい箇所を記憶させる (マーカー機能) (☞23 ページ)**
❑ **くり返し再生をする(リピート再生) (☞24 ページ)**
❑ **指定した部分をくり返し再生する (A-B リピート再生) (☞24 ページ)**
❑ **画面をコマ送り再生する (☞24 ページ)**
❑ **画面をスローで再生する (☞24 ページ)**
❑ **第 1 音声を切り替える (☞24 ページ)**
❑ **第 1 字幕を切り替える (☞25 ページ)**
❑ **アングル(角度)を切り替える (☞25 ページ)**

ボーナスビュー対応の BD ビデオを再生する

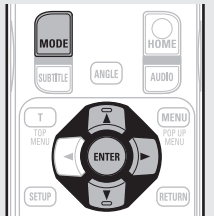
ボーナスビュー（ピクチャー・イン・ピクチャー）対応のディスクでは、ディスクに収録されたメイン画像（プライマリービデオ）以外に、映画監督のコメントや同時進行のサブストーリーの再生や、別アングル映像などのサブ映像（セカンダリービデオ）の再生ができます。

メイン画像
（プライマリービデオ）

サブ画像
（セカンダリービデオ）

【例】ボーナスビュー

1 **MODE** を押す（☞29 ページ）。

2 △、▽ を押して、セカンダリービデオを選択し、**ENTER** または ▷ を押す。

3 △、▽ を押して、お好みのセカンダリービデオを選択する。

オフ ←→ 1/X ←→ 2/X ←→ X/X

オフ	セカンダリービデオを表示しません。
1/X	一番目のセカンダリービデオを表示します。
2/X	二番目のセカンダリービデオを表示します。
X/X	X 番目のセカンダリービデオを表示します。

- X は収録されているセカンダリービデオの数で、ディスクにより異なります。

✎

- ボーナスビューを使用する際、ブルーレイディスクによっては、内蔵メモリーまたは外部メモリーが必要な場合があります。
- 本機はメモリーを内蔵しています。Bonus View で使用するメモリー容量が本機に内蔵しているメモリーの空き容量を超える場合は、1GB 以上の容量の USB メモリーのご使用をおすすめします。
- 再生方法などはディスクによって決められており、ディスクによって異なります。ディスクに添付の説明書をご覧ください。

BD-LIVE™ を楽しむ

本機をインターネットに接続し、BD-LIVE™ 対応ディスクを使うと、BD-LIVE™ を楽しむことができます。
BD-LIVE の詳しい機能や動作については、画面上に表示される説明をご覧ください。

1 GUI メニュー操作において、“BD データ管理”-“BD-Live メモリー”を“内部”に設定する（☞39 ページ）。

2 インターネットを接続し、設定の確認を完了する（☞41 ページ「接続テスト」）。

3 本機に BD-LIVE™ 対応ディスクを挿入する。

4 ディスクメニューから“BD-LIVE™”を選択する。

✎

- BD-LIVE を使用する際、ダウンロードしたコンテンツは本機の内蔵メモリーに保存します。
- 本機はメモリーを内蔵しています。BD-LIVE で使用するメモリー容量が本機に内蔵しているメモリーの空き容量を超える場合は、1GB 以上の容量の USB メモリーのご使用をおすすめします。
- ご使用のネットワーク環境によっては、ネットワーク接続に時間がかかる、または接続ができない場合があります。

ご注意

USB メモリーについて（☞ 31、50 ページ）

- USB メモリーを使用する際、GUI メニュー設定の“BD データ管理”-“BD-Live メモリー”を“外部”にしてください（☞39 ページ）。
- USB メモリーを使用する際、USB メモリーの初期化をおこなってください。（“BD データ管理”-“BD データ情報”（☞39 ページ）
- 本機から USB メモリーを抜き差しするときは、本機の電源がスタンバイ状態のときにおこなってください。電源がオンのときに USB メモリーを差し込むと、USB メモリーを読み込むことができない場合があります。

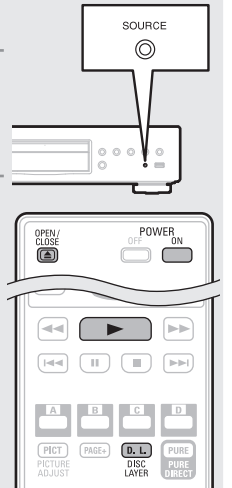
スーパーオーディオ CD を再生する

1 **POWER ON** を押して、本機の電源を入れる。

2 フロントパネルの **SOURCE** を押して、“DISC MODE” を選択します。

3 **DISC LAYER** を押して、“Multi” を選択する。

- **DISC LAYER** を 2 秒間押すごとに次のようにメディアが切り替わります。

Multi	スーパーオーディオ CD
Audio	DVD オーディオ
BD	ハイブリッド BD

4 **DISC LAYER** を押して、再生するディスクのエリアおよびレイヤーを選択する（☞52 ページ）。

Multi → Stereo → CD

Multi	HD レイヤーのマルチチャンネルエリアを再生します。
Stereo	HD レイヤーの 2 チャンネルエリアを再生します。
CD	CD レイヤーを再生します。

ご注意

ディスクレイヤーの設定はディスクを本機に挿入する前におこなってください。

5 ディスクを挿入する。
▲ を押してディスクトレイを開閉します。

6 ▶ を押す。
選択したエリア／レイヤーの再生を開始します。

✎

- ディスクをマルチチャンネルで再生する際、AV レシーバーとの接続は HDMI ケーブルをご使用ください。
- **DISC LAYER** で選択したエリア／レイヤーは、電源をオフにしても本機に記憶しています。

 映像 音声 写真

それぞれのアイコンに対応したメディアの詳細は“再生できるメディア”（☞50 ページ）を参照。

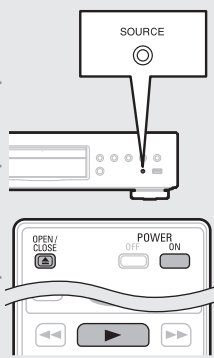
- ❑ 再生を一時停止する（☞22 ページ）
- ❑ 再生を停止する（☞22 ページ）
- ❑ 見たいチャプター / トラック / ファイルにスキップする（☞22 ページ）
- ❑ 早送り / 早戻しをする（☞22 ページ）
- ❑ サーチモードを使って、見たい / 聴きたい場所を探す（☞23 ページ）
- ❑ くり返し再生をする（リピート再生）（☞24 ページ）
- ❑ 指定した部分をくり返し再生する（A-B リピート再生）（☞24 ページ）
- ❑ 第 1 音声を切り替える（☞24 ページ）
- ❑ 順不同に再生する（ランダム再生）（☞25 ページ）
- ❑ お好みの順に再生する（プログラム再生）（☞25ページ）

CD を再生する

1 **POWER ON** を押して、本機の電源を入れる。

2 フロントパネルの **SOURCE** を押して、"DISC MODE"を選択します。

3 ディスクを挿入する。
▲ を押してディスクトレイを開閉します。

4 ▶ を押す。
再生を開始します。

- ❑ 再生を一時停止する（☞22 ページ）
- ❑ 再生を停止する（☞22 ページ）
- ❑ 見たいチャプター / トラック / ファイルにスキップする（☞22 ページ）
- ❑ 早送り / 早戻しをする（☞22 ページ）
- ❑ サーチモードを使って、見たい / 聴きたい場所を探す（☞23 ページ）
- ❑ くり返し再生をする（リピート再生）（☞24 ページ）
- ❑ 指定した部分をくり返し再生する（A-B リピート再生）（☞24 ページ）
- ❑ 第 1 音声を切り替える（☞24 ページ）
- ❑ 順不同に再生する（ランダム再生）（☞25 ページ）
- ❑ お好みの順に再生する（プログラム再生）（☞25 ページ）

DVD オーディオを再生する

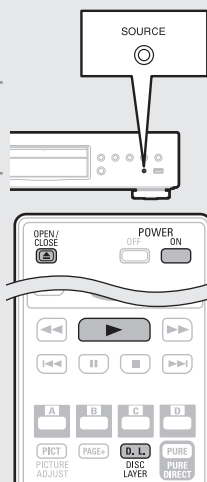
1 **POWER ON** を押して、本機の電源を入れる。

2 フロントパネルの **SOURCE** を押して、"DISC MODE"を選択する。

3 **DISC LAYER** を押して、"Audio"を選択する。

- **DISC LAYER** を 2 秒間押すごとに次のようにメディアが切り替わります。

→ Multi → Audio → BD →

Multi	スーパーオーディオ CD
Audio	DVD オーディオ
BD	ハイブリッド BD

4 **DISC LAYER** を押して、再生するパートを選択する。（☞52 ページ）.

→ Audio → Video →

Audio	オーディオパートを再生する。
Video	ビデオパートを再生する。

ご注意
ディスクレイヤーの設定はディスクを本機に挿入する前におこなってください。

5 ディスクを挿入する。
▲ を押してディスクトレイを開閉します。

6 ▶ を押す。
選択したパートの再生を開始します。

❑ボーナスグループを再生する

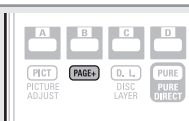
DVD オーディオには、パスワードを入力すると、再生できるボーナスグループをもつディスクがあります。

パスワードを間違えて入力したとき

ボーナスグループを再度選択し、正しいパスワードを入力してください。

❑静止画を選択する

静止画付きの DVD オーディオを再生する際、表示する画像を選択することができます。

再生中に PAGE + を押す。
収録された静止画の次の静止画を表示します。

- ❑ 再生を一時停止する（☞22 ページ）
- ❑ 再生を停止する（☞22 ページ）
- ❑ 見たいチャプター / トラック / ファイルにスキップする（☞22 ページ）
- ❑ 早送り / 早戻しをする（☞22 ページ）
- ❑ サーチモードを使って、見たい / 聴きたい場所を探す（☞23 ページ）
- ❑ くり返し再生をする（リピート再生）（☞24 ページ）
- ❑ 指定した部分をくり返し再生する（A-B リピート再生）（☞24 ページ）
- ❑ 第 1 音声を切り替える（☞24 ページ）
- ❑ 順不同に再生する（ランダム再生）（☞25 ページ）
- ❑ お好みの順に再生する（プログラム再生）（☞25ページ）

再生中にできる操作

ここでは、各メディアで再生中にできる操作を説明します。
アイコンはそれぞれの操作に対して対応しているコンテンツのカテゴリーを示します。

	映像：ブルーレイディスク, DVD ビデオ, DivX plus HD, MPEG, AVI, WMV, AVCHD, AVCREC
	音声：スーパーオーディオCD, CD, DVDオーディオ, MP3, WMA, AAC, LPCM
	写真：JPEG

再生を一時停止する

再生中に ❚❚ を押す。
ディスプレイの ❚❚ 表示が点灯します。

- ▶ を押すと、通常の再生に戻ります。

再生を停止する

再生中に ■ を押す。
再生を停止します。

レジューム機能について

再生を停止すると停止した位置を記憶します。

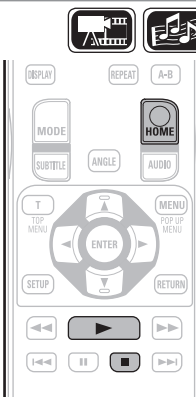
- ディスプレイの ▶ 表示が点滅します。停止した位置から再生するときは、停止中に ▶ を押します。

レジューム機能を解除するには

次のいずれかの操作をしてください。

- 停止中にもう一度 ■ を押す。
- ディスクトレイを開ける。
- **HOME** で再生メディアモードを切り替える。

✎

- メニューの再生中や BD-J（Blu-ray Disc Java）対応のディスクでは、レジューム機能は動作しません。
- 電源コードを抜いて本機の電源をオフにする、または本機をスタンバイ状態にすると、レジューム機能は解除します。
- ディスクによっては、レジューム機能が動作しない場合があります。

見たいチャプター / トラック / ファイルにスキップする

再生中に ⏮ または ⏭ を押す。

⏮ 再生中のチャプター／トラック／ファイルの先頭から再生します。

⏭ 次のチャプター／トラック／ファイルの先頭から再生します。

- ボタンを続けて押すと、押した回数だけチャプター／トラック／ファイルをスキップします。

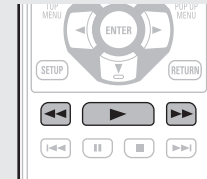
ご注意

ディスクによっては、タイトルやグループをまたぐスキップできない場合があります。

早送り / 早戻しをする

再生中に ⏮ または ⏭ を押す。

- ボタンを押すごとに、早送り／早戻しのスピードが x1、x2、x3、x4、x5、通常のスピードに戻る、の順番で切り替わります。
- 速度は、ディスクやファイルによって異なります。
- ▶ を押すと、通常の再生に戻ります。

✎

- プログラム再生中、ランダム再生中にトラックやファイルをまたぐ早送り／早戻しはできません。
- DivX® ファイルによっては、早送り／早戻しができない場合があります。
- BD、DVD の早送り／早戻し中は音声を出力しません。

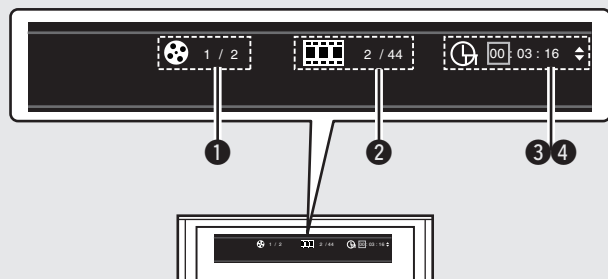
アイコンはそれぞれの操作に対して対応しているコンテンツのカテゴリーを示します。   映像 音声   写真

それぞれのアイコンに対応したメディアの詳細は"再生できるメディア"（☞50 ページ）を参照。

サーチモードを使って、見たい / 聴きたい場所を探す

1 SRCH を押して、サーチモードを選択する。
画面上部にサーチモード設定バーを表示します。

- ボタンを押すたびに、サーチモードが切り替わります。
  → サーチ → マーカーサーチ → オフ

2 画面上部のサーチモード設定バーにおいて、◁ ▷ でサーチしたいモードに青いカーソルを移動し、ENTER を押す。

❶ **タイトル／グループ／トラック サーチ 表示**

❷ **チャプター／トラック サーチ 表示**
- 数字ボタン、または ◁ ▷ を押して時間を入力し、**ENTER** を押します。
- 指定した部分から再生を開始します。

❸ **タイトル／チャプタータイム サーチ 表示**

❹ **トラック／ディスクタイム サーチ 表示**
- △▽ を使って、タイトルタイム サーチ、またはチャプタータイム サーチのどちらかを選択し、**ENTER** を押します。
- そのあと、数字ボタンまたは ◁ ▷ を押して時間を入力し、**ENTER** を押します。
- 指定した部分から再生を開始します

3 サーチモード設定バーに、サーチ条件の入力または設定をおこなう。
入力が完了すると指定した箇所をサーチします。

0 〜 9, +10 ······ 数字の入力
△▽ ······ 選択
ENTER ······ 再生
CLEAR ······ クリア

- 数字の入力のしかた
  3 の入力 ······ **3, ENTER***
  26 の入力 ······ **2, 6, ENTER*** または **+10, +10, 6**
  138 の入力 ······ **1, 3, 8, ENTER***
  * 収録されている曲やチャプターの数によっては、**ENTER** で確定できない場合があります。
- タイムサーチは、タイトルやトラックの再生時間に対応します。
- 間違えて入力したとき、**CLEAR** を押すと、一つ前の状態に戻ります。

【 サーチモードに対応しているメディアやファイル 】

サーチモード ＼ コンテンツ	映像	音声
タイトル／グループ／トラックサーチ	○	○*
チャプター／トラックサーチ	○	○
タイトル／チャプタータイムサーチ	○	○*
トラック／ディスクタイムサーチ	○	○

* DVD オーディオのみ有効

ご注意
- プログラム再生やランダム再生中にサーチ操作をすると、プログラム再生やランダム再生モードを解除します。
- ディスクによってはサーチモードが動作しない場合があります。

- 操作をおこなわない状態が約 5 秒間続くと、チャプター／タイトル／トラック／グループ サーチの入力は解除します。
- 電源をスタンバイにしたり、ディスクを取り出したりすると、設定したマーカーは消えます。

再び再生したい箇所を記憶させる（マーカー機能）

再び見たい場面や聴きたい箇所にマークを付けておくと、そこから再生をはじめることができます。

1 SRCH を押して、“マーカーサーチ”を選択する。
画面上部にサーチモード設定バーを表示します。

2 再生中に、ENTER を押す。
- 場面を選択した番号に登録します。
- マーカー番号は "01" から "12" まで順番に登録できます。
- すでに登録している番号は白い文字で表示します。

- 設定した場面の再生経過時間を表示します。

記憶した場面を再生するには

◁ ▷ でマーカー番号を選択し、**ENTER** を押す。

マーカーを消去するには

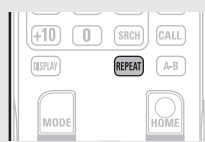
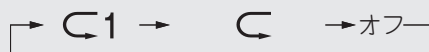
CLEAR を押すごとに、登録した最新のマーカー番号から順番に消去します。

- 記憶させた場面によっては、字幕が表示されないことがあります。
- 設定したマーカーは、電源をスタンバイにしたり、ディスクを取り出したりすると消去されます。
- タイトルやグループをまたぐマーカー機能はできません。
- マーカーサーチは再生中のみおこなえます。
- ディスクによってはマーカーサーチが動作しない場合があります。

アイコンはそれぞれの操作に対して対応しているコンテンツのカテゴリーを示します。 映像 音声 写真

それぞれのアイコンに対応したメディアの詳細は“再生できるメディア”（☞50 ページ）を参照。

くり返し再生をする（リピート再生）

再生中に REPEAT を押す。
画面上部にリピートモードのアイコンを表示します。

- ボタンを押すたびにリピートモードが切り替わります。

- 通常の再生に戻すときは、**REPEAT** を押して、“リピートオフ”を選んでください。

【リピートモードについて】
再生するディスクやファイルによって、設定できるリピートモードが異なります。

メディア／ファイル モード				ディスプレイ
タイトルリピート	○			⊂
オールリピート		○	○	
チャプターリピート	○			⊂1
トラックリピート		○	○	

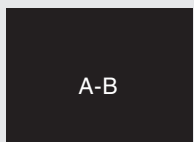
- ディスクによっては、リピート再生ができないものがあります。
- ディスクによっては、リピートモードを設定しても、タイトルやチャプターの先頭に戻らず、次の場面に移るものがあります。
- A-B リピート再生中は、上記のリピート再生ができません。

指定した部分をくり返し再生する（A-Bリピート再生）

1 再生中に A – B を押して、開始点(A)を指定する。
ディスプレイの“A-”表示が点灯します。

- 開始点(A)をキャンセルする場合、**CLEAR** を押します。

2 もう一度、A – B を押して、終了点(B)を指定する。
ディスプレイの“B”表示が点灯し、A-B 間をくり返し再生します。

- A-B リピートのアイコンは画面上部に表示します。
- 通常の再生に戻すときは、**A – B** を押して、“リピートオフ”を選んでください。

- A-B リピート再生中にタイトル／ファイルのスキップはできません。
- A-B リピート再生中にサーチ動作をおこなうと A-B リピート再生を解除します。
- 場面によっては、A-B リピート再生ができないものがあります。
- DivX® ファイルによっては、A-B リピート再生ができない場合があります。
- BD-J(Blu-ray Disc Java) に対応するディスクでは A-B リピート再生ができません。

画面をコマ送り再生する

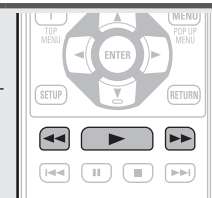
一時停止中に ❚❚ を押す。
ボタンを押すごとに 1 コマずつ再生します。

- ▶ を押すと、通常の再生に戻ります。

本機ではコマ戻し再生はできません。

画面をスローで再生する

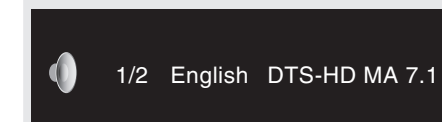
一時停止中に ◀◀、▶▶ を押す。
ボタンを押すごとにスピードは 1／16、1／8、1／4、1／2、そして通常のスピードの順番に切り替わります。

- ▶ を押すと、通常の再生に戻ります。

スロー再生（送り／戻り）中は音声は出力しません。

第 1 音声を切り替える

複数の音声が収録されているディスクやファイルでは、再生中に音声を切り替えることができます。

再生中に AUDIO を押す。

- 現在再生中の音声番号を表示します。
- **AUDIO** を押すごとにディスクがサポートしている音声言語が切り替わります。

- 複数の音声が収録されている場合は、“現在の音声番号／収録されている音声数”を表示します。

- ディスクによっては音声の切り替えをディスクメニュー操作のみに限定しているものがあります。その場合はディスクメニューで音声を切り替えてください。
- DivX® ファイルの場合は、音声フォーマット「MP3」または「Dolby Digital」と収録音声モード数が表示されます。それ以外の音声の場合は、「- - -」と表示されます。
- 二ヵ国語（二重音声）で記録された DVD-R/-RW では、“メイン”（主音声）、“サブ”（副音声）または“メイン / サブ”（主音声＋副音声）に切り替えることができます。
- DTS-CD（5.1ch 音声ディスク）では、オーディオモードを切り替えることができません。

アイコンはそれぞれの操作に対して対応しているコンテンツのカテゴリーを示します。 映像 音声 写真

それぞれのアイコンに対応したメディアの詳細は“再生できるメディア”（☞50 ページ）を参照。

第 1 字幕を切り替える

字幕が収録されているディスクやファイルの再生中に、字幕の表示／非表示や、字幕言語の切り替えができます。

再生中に SUBTITLE を押す。

• 現在再生中の字幕番号を表示します。
• **SUBTITLE** を押すごとにディスクがサポートしているサブタイトル言語が切り替わります。

• ディスクに字幕が含まれない場合は、禁止マークを表示します。
• ディスクによっては字幕の切り替えをディスクメニュー操作のみに限定しているものがあります。その場合はディスクメニューで字幕を切り替えてください。
• DivX® ファイルでは、現在再生中の字幕番号と収録されている字幕数を表示し、言語オプションは表示しません。

アングル（角度）を切り替える

複数のアングルが収録されている BD または DVD ビデオでは再生中にアングルを切り替えることができます。

再生中に ANGLE を押す。

• 現在のアングル番号が表示されます。
• **ANGLE** を押すごとにディスクがサポートしているアングルが切り替わります。

ご注意

ディスクによっては、アングル切り替えを制限しているものがあります。

順不同に再生する（ランダム再生）

停止中に RAND を押す。

ディスプレイの“RAND”表示が点灯し、画面に“ランダムモード”を表示します。

通常の再生に戻すとき

ランダム再生中に **RAND** を押す。
• ディスプレイの“RAND”表示が消灯します。

ディスクによって、ランダム再生ができない場合があります。

お好みの順に再生する（プログラム再生）

最大 15 曲までプログラムできます。

1 再生中に PROG/DIRECT を押す。

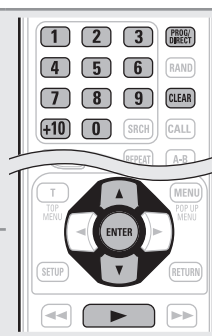
ディスプレイの“PROG”表示が点灯し、プログラム設定画面を表示します。

音楽ファイルおよび DVD オーディオを再生するとき、プログラム再生は動作しません。

2 プログラム設定画面でプログラムするトラック番号を入力する。

0 〜 9, +10 ………… 数字の入力
△▽ ………… 選択
ENTER ………… 入力を確定
CLEAR ………… クリア

3 ▶ を押す。

プログラムした順番に再生をはじめます。

プログラム内容を確認するとき

停止中に **CALL** を押す。
• ボタンを押すごとに本機のディスプレイにプログラムしたトラックを表示します。

• 本機のディスプレイ表示でプログラム内容を確認することができます。
• プログラム再生しているとき、本機はリピート再生が可能です。

通常再生に戻すとき

プログラム再生中に、**PROG/DIRECT** を押す。
プログラム設定画面を表示し、さらに **PROG/DIRECT** を押す。
• ディスプレイの“PROG”表示が消灯します。

プログラムしたトラックを 1 つずつ取り消すとき

プログラム設定画面を表示しているときに **CLEAR** を押す。
• 本機をスタンバイする、またはディスクトレイをオープン／クローズさせても、プログラムした内容は取り消されます。

基本設定

ここでは、リモコンで設定可能な基本的な設定操作を説明します。
アイコンはそれぞれの操作に対して対応しているコンテンツのカテゴリーを示します。

	映像：ブルーレイディスク , DVD ビデオ , DivX plus HD, MPEG, AVI, WMV, AVCHD, AVCREC
	音声：スーパーオーディオ CD, CD, DVD オーディオ , MP3, WMA, AAC, LPCM
	写真：JPEG

基本接続（☞14 ページ）

再生のしかた（基本操作）（☞18 ページ）

ディスプレイの明るさを切り替える（ディマー機能）

本機器のディスプレイの明るさを変えることができます。

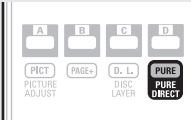
DIMMER を押す。
•ボタンを押すたびに、ディスプレイの明るさが切り替わります。

→ 通常 → 薄暗い → 暗い → 消灯 ─

高音質な音声を再生する（ピュアダイレクト機能）

映像信号などの出力を止め、アナログ音声信号のみを出力することで高音質な音声を再生できます。

停止中に PURE DIRECT を押す。
•ボタンを押すたびに、ピュアダイレクトモードが切り替わります。

→Pure Direct1 → Pure Direct2 → Off ─

Pure Direct 1	デジタル信号の出力、映像信号の出力およびディスプレイの表示をオフにします。
Pure Direct 2	デジタル信号の出力、映像信号の出力の表示をオフにします。
Off	ピュアダイレクトモード機能をオフにします。

•GUI メニュー表示中は **PURE DIRECT** を使用できません。
•本機をスタンバイ状態にすると、ピュアダイレクトの設定は "Off" に戻ります。

HDMI コントロール機能

本機と HDMI コントロール機能に対応しているテレビや AV レシーバーを HDMI 接続し、それぞれの機器の HDMI コントロール機能の設定をすると、次の操作ができます。
•**本機の操作でテレビや AV レシーバーの電源がオンになり、ファンクションが本機の入力に切り替わる。**
•**テレビの電源をオフにすると、本機の電源がスタンバイになる。**
•**テレビのリモコンで本機を操作する。（テレビのリモコンにプレーヤー操作用のボタンがある場合）**

1 **HDMI コントロール機能を"オン"に設定する。**
GUI メニュー "システム" – "HDMI コントロール"（☞39 ページ）.

2 **HDMI ケーブルで接続しているすべての機器の電源を入れる。**

3 **HDMI ケーブルで接続しているすべての機器の HDMI コントロール機能を有効にする。**
•接続機器の設定については、各機器の取扱説明書をご覧ください。
•いずれかの機器の電源コンセントを抜いた場合は、手順 2、3 をおこなってください。

4 **本機の HDMI 映像出力がテレビ画面に映るように、テレビと AV レシーバーの入力ファンクションを切り替える。**

5 **テレビの電源をスタンバイにすると、本機と AV レシーバーの電源もスタンバイになることを確認する。**

HDMI コントロール機能が正しく動作しない場合は、次の点をご確認ください。
•テレビや AV レシーバーが HDMI コントロール機能に対応しているか。
•すべての機器の HDMI コントロール機能の設定は正しいか。（手順３）
•設定したあとに、ほかの HDMI 機器の接続の追加など、接続に関する変更をしていないか。この場合は設定をやり直してください。

ご注意
•接続しているテレビや AV レシーバーによっては、動作しない機能があります。あらかじめ、各機器の取扱説明書をご覧ください。
•GUI メニュー の"HDMI パワーオフコントロール"（☞39 ページ）を "オフ" に設定している場合、接続している機器がスタンバイになっても、本機はスタンバイになりません。

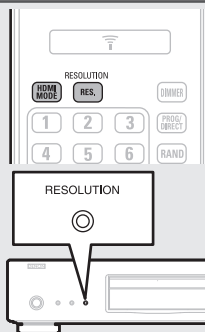
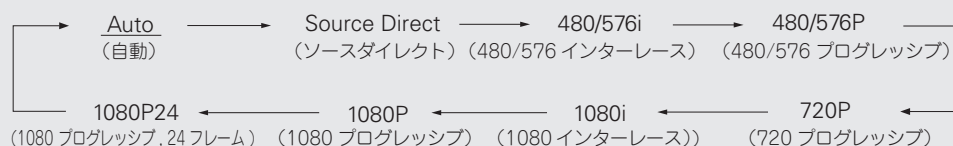
 映像 音声 写真

それぞれのアイコンに対応したメディアの詳細は "再生できるメディア"（50 ページ）を参照。

映像解像度

ここでは、接続したテレビ解像度を設定します。接続した機器に合わせて設定してください。

RESOLUTION を押す。

- **RESOLUTION** を押すごとに、解像度は下記のように切り替わります。

- お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です

- 本機のコンポーネントビデオ端子から 480i ／ 576i ／ 480p ／ 576p ／ 720p ／ 1080i を出力することができます。
- HDMI 映像解像度を “Auto” 以外に設定する場合は、お手持ちのテレビが対応している解像度に設定してください。
- テレビの解像度と本機の出力解像度が一致しないと画像が正しく映りません。
- 再生中に接続先機器の電源を切ったり、入力を切り替えたりすると、音声と映像が一時途切れることがあります。
- 本機の HDMI 映像解像度を変更すると、本機と接続先機器間の認証に数秒〜 10 秒程度かかります。この間は映像／音声を出力しません。

ご注意

下記の状況で設定しているとき、本機は HDMI 出力端子から 1080P24(1080 プログレッシブ , 24 フレーム) の解像度で出力します。

- 映像解像度の設定：Auto ／ Source Direct ／ 1080P24 のいずれかに設定している。
- HDMI モードの設定：24P ON に設定している。
- TV の解像度が 1080P24(1080 プログレッシブ , 24 フレーム) に対応している。

このとき、映像出力端子、コンポーネント映像出力端子から映像信号は出力されません。映像信号を出力させたい時は、**HDMI MODE** を押し、HDMI 出力を “24P OFF” に設定してください。

HDMI の映像出力を設定する

ブルーレイディスクの映画コンテンツの多くは、映画フィルムと同じ 1 秒あたり 24 コマの映像フレーム数で記録されています。
本機もこれと同じように設定すると、映画と同じ品質で映像を楽しむことができます。
ここでは、HDMI mode で映像フレーム数を 24 の信号を出力させるための設定をおこないます。
これにより 1080P24(1080 プログレッシブ , 24 フレーム) の映像を再生したとき、より動きの滑らかな画像を楽しみむことができます。

ご注意

GUI メニューが表示されているときは、HDMI モードは動作しません。

HDMI MODE を押す。

- 現在の HDMI 出力の状態がディスプレイに表示されます。
- **HDMI MODE** を押すごとに、“24P ON” または “24P OFF” が切り替わります。
- お買い上げ時は “24P OFF” です。

24P ON

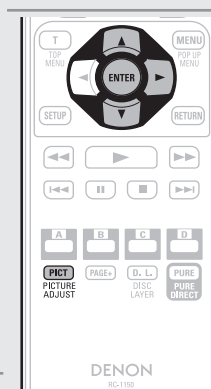
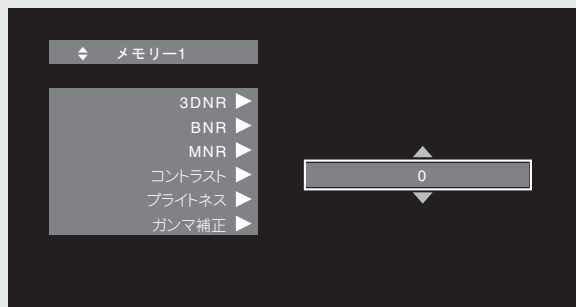
- 接続した TV が “1080P24” に対応している場合に設定してください。
- 設定後、映像解像度の設定を “1080P24” または “SourceDirect” にしてください。

24P OFF

- 接続した TV が “1080P24” に対応していない場合に設定してください。

画質を調整する（ピクチャーコントロール）

お好みに合わせて、画質の調整ができます。
メモリー 1 から 5 に記憶できます。

1 **PICTURE ADJUST を押す。**
現在の設定状態を表示します。

2 **△▽ で、記憶したい番号を選び、ENTER を押す。**

3 **△▽ で変更したい項目を選び、ENTER または ▷ を押す。**

4 **△▽ で設定を切り替える。**
• 設定できる項目と内容については、右の表をご覧ください。

画質調整を終了するとき

調整後、**PICTURE ADJUST** を押す。
• 画質調整のポップアップメニューは画面から消えます。

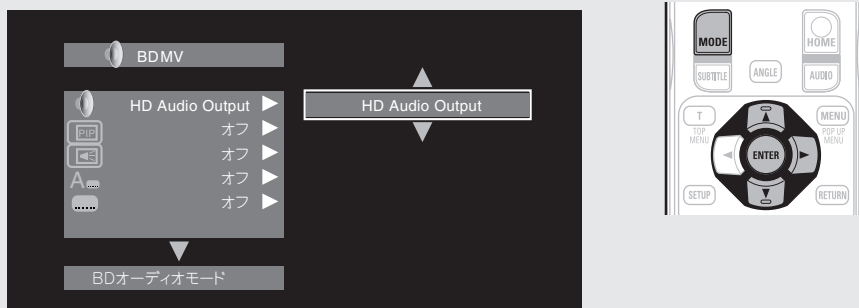
画質調整の各設定値は電源をオフにしても記憶しています。

設定項目	設定内容	初期値
3DNR 映像全体のノイズを軽減します。	0 ～ +3	0
BNR デジタル処理で発生するブロック状のノイズを軽減します。	0 ～ +3	0
MNR デジタル処理で映像物の輪郭周辺に発生するノイズを軽減します。	0 ～ +3	0
コントラスト 映像の明暗の差を調整します。	-6 ～ +6	0
ブライトネス 映像の明るさを調整します。	0 ～ +12	0
ガンマ補正 映像の明るさを詳細に調整します。 画像全体の明るさをさらに詳細に調整し、 明暗部のバランスを補正します。	-4 ～ +4	0
シャープネス 高域の周波数に対して、映像の鮮明度を調整します。	-6 ～ +6	0
色合い 緑色と赤色のバランスを調整します。	-6 ～ +6	0
クロマレベル 色の濃さを調整します。	-6 ～ +6	0
セットアップレベル * 黒い色の浮きを補正します。	0 IRE 7.5 IRE	0 IRE

* 映像出力端子からの 480i の映像信号にのみ有効です。

モード設定

再生中に各種のモードを設定できます。設定メニューは、画面上部に表示します。

1 **MODE を押す。**
現在設定できるメニューを表示します。

2 **△▽ で設定したい項目を選択し、ENTER または ▷ を押す。**

3 **△▽ で設定を選択し、ENTER で変更する。**

4 **MODE を押す。**
設定画面が消えます。

設定項目	設定内容
BD オーディオモード BD の音声再生モードを切り替えます。	**HD Audio Output**：ドルビー TrueHD、ドルビーデジタルプラス、DTS-HD など高品位な信号を高音質なビットストリームのまま出力し視聴できます。インタラクティブオーディオやセカンダリーオーディオを聴くことはできません。 **Mix Audio Output**：プライマリーオーディオ / インタラクティブオーディオ / セカンダリーオーディオをミックスした音声を出力します。 ご注意 "BD オーディオモード" を "Mix Audio Output" に設定すると、DTS-HD MA 192 kHz の音声は 96 kHz にデコードして出力します。
セカンダリービデオ	**オフ**：セカンダリービデオ（ピクチャー･イン･ピクチャー）を表示しません。 **1/Xz**：一番目のセカンダリービデオを表示します。 **2/Xz**：二番目のセカンダリービデオを表示します。 **X/Xz**：X 番目のセカンダリービデオを表示します。 ＊ "X" は収録されているセカンダリービデオの数で、ディスクにより異なります（"ボーナスビュー対応の BD ビデオを再生する"（☞20 ページ））
セカンダリーオーディオ	**オフ**：セカンダリーオーディオを選択しません。インタラクティブオーディオもオフします。 **1/Xz**：1 番目のセカンダリーオーディオを選択します。 **2/Xz**：2 番目のセカンダリーオーディオを選択します。 **X/Xz**：X 番目のセカンダリーオーディオを選択します。 ＊ "X" は収録されているセカンダリーオーディオの数でディスクにより異なります。 ご注意 "BD オーディオモード" を "Mix Audio Output" に設定すると、セカンダリーオーディオを出力します。
セカンダリーサブタイトル	**オフ**：セカンダリーサブタイトルを選択しません。 **1/Xz**：1 番目のセカンダリーサブタイトルを選択します。 **2/Xz**：2 番目のセカンダリーサブタイトルを選択します。 **X/Xz**：X 番目のセカンダリーサブタイトルを選択します。 ＊ "X" は収録されているセカンダリーサブタイトルの数でディスクにより異なります。
字幕スタイル	ディスクに収録されている字幕スタイルを切り替えます。

Advanced version

応用編

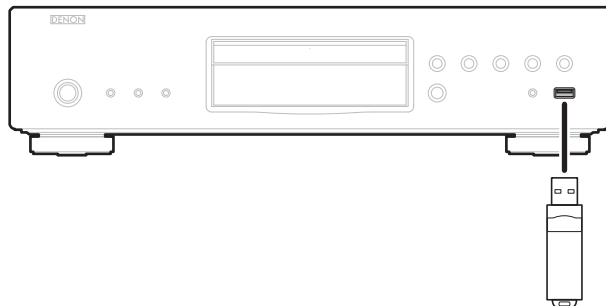
この章では USB メモリー に保存しているファイルおよびネットワーク接続しているサーバーのファイル、YouTube のコンテンツを楽しむための操作方法を説明します。

❑それぞれのメディアや外部機器の接続と再生のしかたは、以下のページをご覧ください。

ビデオファイル／音楽ファイル／写真ファイル	接続のしかた	再生のしかた
メディアプレーヤー （USB メモリー / DLNA サーバー）	☞ 31 ページ	☞ 33 ページ
インターネット	**接続のしかた**	**再生のしかた**
YouTube	☞ 31 ページ	☞ 36 ページ

応用接続

USB メモリーを接続する

USB メモリーに記録した MP3 や JPEG などのファイルを再生することができます。

❑USB メモリーを接続する

USB メモリーを USB ポートへしっかりと差し込みます。

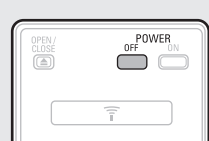
- USB メモリー差し込んだあと電源を入れると、本機のディスプレイの"USB"表示が点灯していることをご確認ください。

- 本機器で再生できるファイルについては51 ページをご参照ください。
- ディスプレイの"USB" 表示が点灯しない場合、本機の電源をオフにして、USB メモリーを再度差し込み、本機の電源をオンにしてください。

ご注意

- USB メモリーは USB ポートに向けてまっすぐ差し込んでください。無理に差し込んだ場合、本機と USB メモリーが破損する恐れがあります。
- USB メモリーによっては、USB ポートからはみ出すことがあります。USB ポートに無理やり押し込んだり、はみ出した部分に無理な力を加えないでください。
- USB メモリー以外のものを USB ポートに差し込まないでください。故障の原因となります。
- 小さなお子様のいるところに USB メモリーを放置しないでください。誤って飲み込んでしまう恐れがあります。
- USB メモリーを接続するとき、延長ケーブルを使用しないでください。
- 本機の USB 端子とパソコンを USB ケーブルで接続して使用することはできません。
- 携帯用オーディオプレーヤーまたは携帯電話などの充電用としてご使用しないでください。

❑USB メモリーを取りはずす

POWER OFF を押して本機の電源をオフにしたのち、USB ポートから USB メモリーを取りはずす。

ご注意

- USB メモリーを抜き差しするときは、必ず本機の電源を切ってからおこなってください。USB メモリーやメモリー内のデータが破損する恐れがあります。
- USB メモリー内のデータが破損・消滅した場合など、いかなる場合においても、記録内容の補償およびそれに付随するあらゆる損害について、当社にて記録内容の修復はいたしません。あらかじめご了承ください。
- 本機はすべての USB メモリーとの互換性を保証するものではありません。
- USB メモリーを再フォーマットする際、FAT16 または FAT32 でおこなってください。

ネットワークに接続する

本機をインターネットに接続すると、下記のことがお楽しみできます

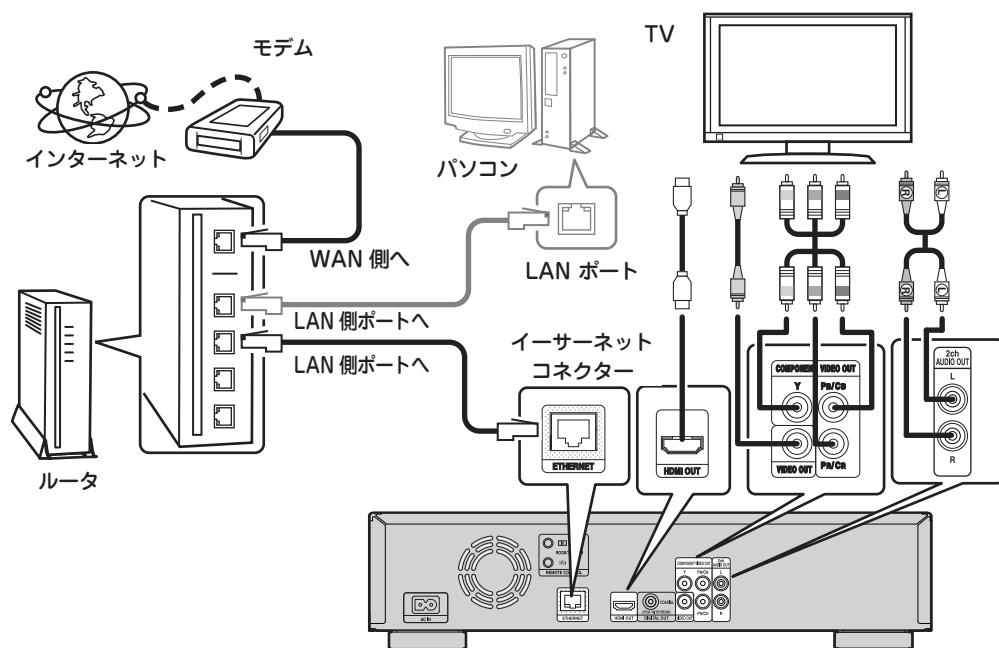
- BD-LIVE に対応した Blu-ray ディスクを再生。（☞20 ページ）
- ネットワーク接続した機器に保存した音楽・写真・動画ファイルを再生。（☞33 ページ）
- YouTube のコンテンツを再生。（☞36 ページ）
- インターネットで最新のファームウェアをダウンロードして、アップデート。（☞39 ページ）

接続終了後、メディアサーバー、YouTube をご使用になる前に、インターネット接続の設定および確認をおこなってください。

接続に使用するケーブル

音声・映像ケーブル	
HDMI ケーブル (別売り)	
音声・映像 ケーブル（付属）	（白）L （赤）R （黄）
映像ケーブル	
コンポーネント 映像ケーブル (別売り)	（緑） （青） （赤）
イーサーネットケーブル	
イーサーネット ケーブル (別売り)	

ご注意

- すべての接続が終わるまで、電源プラグをコンセントに差し込まないでください。
- 接続するときは、接続する機器の取扱説明書も必ずお読みください。
- 左右のチャンネルを確かめてから、正しく L と L、R と R を接続してください。
- 接続ケーブルは、電源コードやスピーカーケーブルと一緒に束ねないでください。ハムや雑音の原因となることがあります。

❑必要なシステム

ブロードバンド回線Mまたは光によるインターネット接続

モデム

ブロードバンド回線と接続して、インターネットと通信をおこなうための機器です。
ルータと一体型のものもあります。

ルータ

本機を使用するにあたって、次の機能が装備されているルータをおすすめします。

- DHCP(Dynamic Host Configuration Protocol)サーバー内蔵
  LAN 上の IP アドレスを自動的に割り振る機能です。
- 100BASE-TX スイッチ内蔵(100Mbps 以上の速度に対応するスイッチングハブを内蔵)

パソコン(推奨システム)

- OS
  Windows® XP Service Pack2 以上または Windows Vista
- ソフトウェア
  Windows Media Player ver.11 or DLNA 対応のサーバーソフトウェア

イーサネットケーブル(CAT-5 以上を推奨)

- 本機にイーサネットケーブルは付属していません。
- STP タイプまたは ScTP タイプのシールド LAN ケーブルをお使いください。
- イーサネットケーブルは、シールド付きのストレートケーブル(ノーマルタイプ)をおすすめします。フラットタイプのケーブルやシールドされていないケーブルを使用すると、ノイズがほかの機器に影響をおよぼす可能性があります。

❑本機のネットワーク接続の確認をおこなう

接続終了後、GUI メニューの“ネットワーク”-“接続テスト”でインターネット接続のテストをおこなってください。(☞41 ページ)

- テストに於いて、" ネットワークは失敗です。" と表示された場合、GUI メニューの“ネットワーク”-“情報”で IP アドレスを確認し、“DHCP”を”手動”にして再設定をしてください。(☞41 ページ)

- 本機は DHCP 機能を使用して、自動的にネットワークの設定ができます。
- ネットワークの設定を手動でおこなうタイプの回線で、プロバイダー契約を結んでいる場合は、GUI メニューの“ネットワーク”(☞41 ページ)をおこなってください。
- DHCP 機能のないネットワークに本機を接続してお使いになる場合は、GUI メニューの“ネットワーク”(☞41 ページ)で、IP アドレスなどの設定をおこなってください。
- 本機は PPPoE に対応していません。PPPoE で設定するタイプの回線契約を結んでいる場合は、PPPoE 対応のルータが必要です。
- 手動で設定する場合は、設定内容をネットワーク管理者に確認してください。

❑接続している機器のネットワークの登録をおこなう

ネットワーク接続している機器に保存されているファイルを再生するには、あらかじめ機器が本機を登録(許可)している必要があります。

- 登録方法に関してはサーバーの取扱説明書をご覧ください。

インターネットの接続については、ISP(インターネットサービスプロバイダー)またはパソコン関連販売店にお問い合わせください。

ご注意

- イーサーネット端子は直接パソコンの LAN ポート/イーサーネット端子と接続しないでください。
- インターネットに接続するには、ISP と契約する必要があります。すでにブロードバンド回線を利用してインターネットに接続されている場合は、新たに契約する必要はありません。
- ISP 業者によって使用できるルータの種類が異なります。詳しくは、ISP 業者またはパソコン関連販売店にお問い合わせください。
- 当社では、お客様のネットワーク環境および接続機器に関する通信エラーや不具合については一切責任を負いかねます。

再生のしかた（応用操作）

ここでは、DVD、CD または USB メモリーに保存されているファイルの再生やホームメニューの操作を説明します。

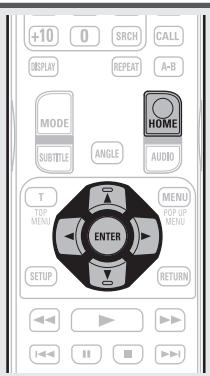
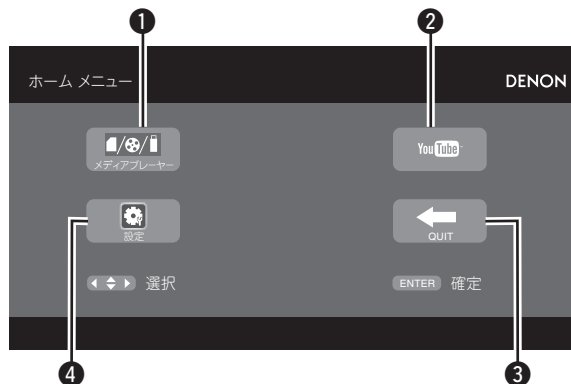
ホームメニュー画面

本機はフロントパネルに接続した USB メモリー、およびネットワーク接続したサーバーに保存した音楽・写真・動画ファイルを再生することができます。再生する際、ホームメニュー画面を使って、各々の操作をおこないます。

ホームメニュー画面を表示する

1 **HOME を押す。**
テレビ画面にホームメニューを表示します。

2 **△▽◁ ▷ を押して、使用したいメニューの項目にカーソルを移動する。**

3 **ENTER を押す。**

❏ホームメニュー画面

❶ MEDIA PLAYER（☞33ページ）
本機はネットワーク接続した機器、および本機に接続した USB メモリーに保存した音楽・写真・動画ファイルを再生することができます

❷ YouTube（☞36ページ）
YouTube のコンテンツを再生します。

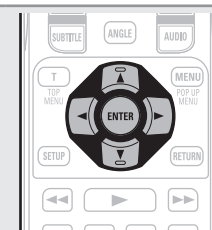
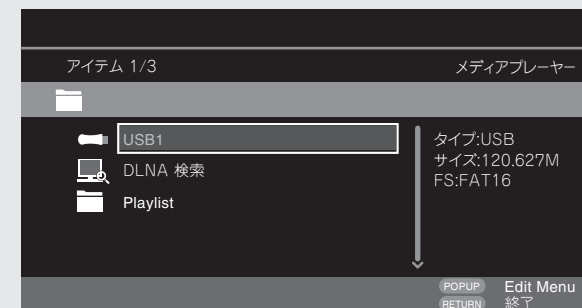
❸ QUIT
ホームメニューを終了します

❹ SETUP（☞37ページ）
GUI メニュー設定画面を表示し、本機の設定をおこないます。

ファイルを再生する（メディアプレーヤー）

USB メモリー、ディスク（CD-R/DVD-R）および本機と接続しているサーバーのファイルを本機のメディアプレーヤー を使って再生します。

- ご使用になる前に、パソコンのサーバーソフト（Windows メディアプレーヤー等）を起動し、ファイルをネットワーク経由で再生できるようサーバーコンテンツの設定をおこなってください。
- 詳しくはサーバーソフトの取扱説明書をご覧ください。

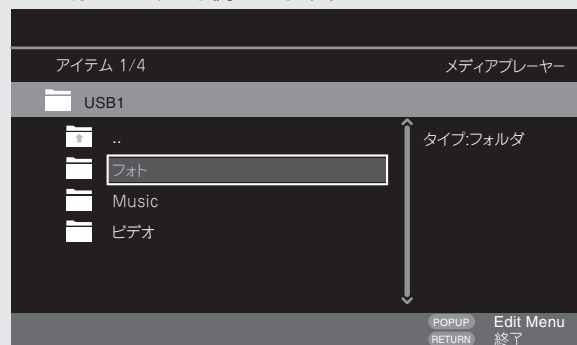
1 **ホームメニュー画面で“メディアプレーヤー”を △▽◁ ▷ を使って選択し、ENTER を押す。**
本機と接続している機器がメディアプレーヤーのメニュー画面に表示します。

2 **再生したいファイルが保存されている機器を △▽ で選択し、ENTER を押す。**

- 接続しているサーバーがメディアプレーヤーのメニュー画面に表示しない場合、画面にある DLNA 検索を △▽ で選択し、**ENTER** を押して、サーバーの検索を行なってください。
- 検索をおこなっても、表示しない場合は再度、機器との接続を確認してください。
- 接続している DLNA サーバーにファイルを追加や削除などの操作をしたとき、DLNA サーバーの情報が表示されない場合があります。このときは、本機の電源を再度入れなおしてください。
- 本機と接続する際、サーバーによっては本機と接続できない場合があります。

アイコンはそれぞれの操作に対して対応しているコンテンツのカテゴリーを示します。 映像   音声 写真

それぞれのアイコンに対応したメディアの詳細は“再生できるメディア”（☞50 ページ）を参照。

3 △▽◁ を押して、再生したいフォルダを選択し、ENTER を押す。

- ファイルの種類別に振り分けたフォルダがメニュー画面に表示されます。
- ファイルの振り分けは以下のとおりです。
  - ビデオ : DivX, MPEG, AVI, WMV
  - ミュージック : MP3, WMA, AAC, LPCM
  - フォト : JPEG

ここでは"フォト"を例にします。

4 再生したいファイルを画面のファイルリストから △▽◁ で選択し、ENTER を押す。

再生がはじまります。

- スライドショーがはじまり、1〜10秒間隔で切り替わります。

- 再生する画像ファイル容量が大きい場合、再生するまでに、少し時間がかかる場合があります。
- 再生できるファイルは"ファイル"（☞51 ページ）を参照してください。

再生する静止画を切り替える

⏮, ⏭ を押す。
再生中の前、または次の画像を表示します。

表示を一時停止する

❚❚ を押す。

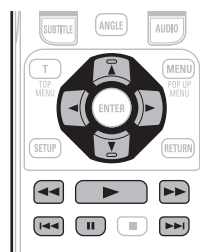
- 一時停止を解除するときは、▶ を押す。

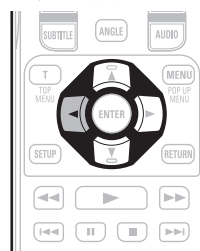
スライドショーの間隔を切り替える

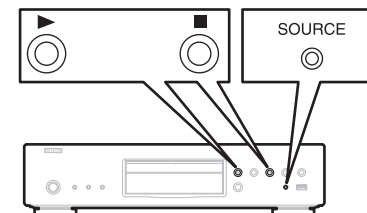
◀◀, ▶▶ を押す。

静止画の向きを変える

△▽◁ ▷ を押す。

△……反転
▽……ミラー
◁……反時計周りに回転
▷……時計周りに回転

❑再生するファイルのメディアを切り替える

再生するファイルを別のメディアのファイルに切り替えたいとき、◁ ボタンを押してステップ 2 まで戻り、再生したいメディアを選択してください。

ディスクモード

USB メモリー またはサーバーのファイル再生からディスクのファイル再生に切り替えしたいときは、下記の手順でもおこなうことができます。

1 ■ を押す。
USB メモリーまたはサーバーのファイルの再生が停止します。

- ディスプレイの"▶"表示が点滅しているときはレジューム機能（☞22 ページ「レジューム機能について」）が動作しています。レジューム機能が動作している場合は、もう一度■を押して"▶"表示を消してください。

2 SOURCE を押す。
本機の再生モードがディスクモードに切り替わります。

3 ▶ を押す。
再生がはじまります。

アイコンはそれぞれの操作に対して対応しているコンテンツのカテゴリーを示します。 映像 音声 写真

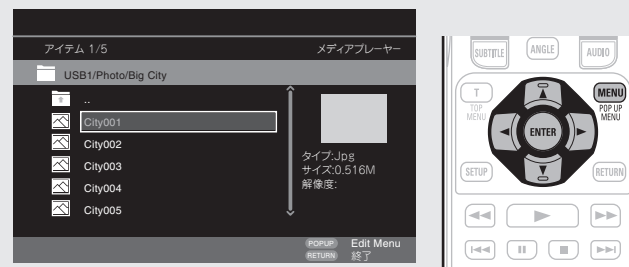
それぞれのアイコンに対応したメディアの詳細は"再生できるメディア"（☞50 ページ）を参照。

❑ 再生情報の表示について（☞18 ページ）
❑ 再生を一時停止する（☞22 ページ）
❑ 再生を停止する（☞22 ページ）
❑ 見たいチャプター / トラック / ファイルにスキップする（☞22 ページ）
❑ 早送り / 早戻しをする（☞22 ページ）
❑ サーチモードを使って、見たい / 聴きたい場所を探す（☞23 ページ）
❑「再び再生したい箇所を記憶させる（マーカー機能）」（☞23 ページ）
❑ くり返し再生をする（リピート再生）（☞24 ページ）
❑ 指定した部分をくり返し再生する（A-B リピート再生）（☞24 ページ）
❑ 画面をコマ送り再生する（☞24 ページ）
❑ 画面をスローで再生する（☞24 ページ）
❑ 第 1 音声を切り替える（☞24 ページ）
❑ 第 1 字幕を切り替える（☞25 ページ）
❑ アングル（角度）を切り替える（☞25 ページ）

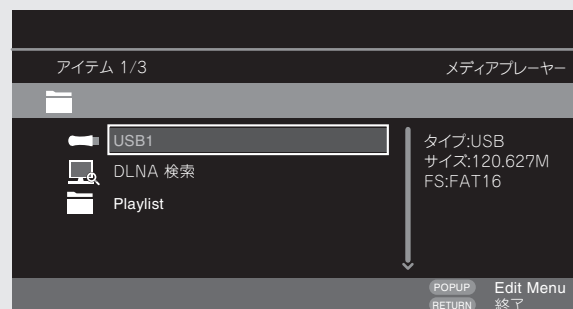
- 本機とネットワーク接続している機器との環境によっては再生中に映像が途切れたり、再生できないことがあります。
- 本機で再生できないファイルでも接続した機器側で形式を変換し再生できる場合があります。
- 接続した機器から本機を再生することはできません。
- 再生するファイルのサイズによっては再生されるまでに少し時間がかかる場合があります。
- 再生できるファイルの種類については「メディアについて」"ファイル"（☞51 ページ）をご覧ください。

❑プレイリストを再生する

プレイリストを使って、USB メモリー、ディスクに保存されているお気に入りのファイルを再生します。

1 画面ファイルリストから、再生したいファイルを △▽ から選択し、▷ を押す。

2 POP UP MENU を押す。
プレイリストメニューを表示します。

3 ENTER を押す。
プレイリストにファイルが追加されます。

4 再生したいファイルが保存されているプレイリストを △▽ ◁ で選択する。

5 ファイルを再生する。
"ファイルを再生する（メディアプレーヤー）"（☞33 ページ）を再生する。

- 本機をスタンバイにすると、プレイリストは消去されます。

❑コダックピクチャー CD を再生する

本機はコダックピクチャーCD に保存されている JPEG ファイルを再生することができます。
これらの CD を再生することで、写真の画像をテレビで楽しむことができます。
ピクチャー CD に関する詳細はコダック（株）の現像サービスをお取り扱いの店頭にお問い合わせください。

1 コダックピクチャーCD を本機のディスクトレイに挿入すると、画面にスライドショーを開始します。

2 ■ を押すと、スライドショーは終了し、画面にサムネイルが表示されます。

3 △▽◁ ▷ で見たい画像を選択し、ENTER を押す。
選択した画像から再生が始まり、次の画像に移動します。

4 画面にサムネイルを表示しているときに POP UP MENU を押すと、再生時の操作を説明した画面を表示します。

アイコンはそれぞれの操作に対して対応しているコンテンツのカテゴリーを示します。 映像 音声 写真 それぞれのアイコンに対応したメディアの詳細は"再生できるメディア"（☞50 ページ）を参照。

再生する静止画を切り替える

⏮, ⏭ を押す。
再生中の前、または次の画像を表示します。

表示を一時停止する

❚❚ を押す。
- 一時停止を解除するときは、▶ を押す。

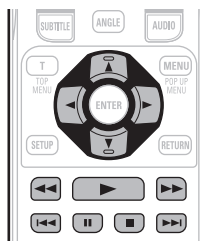
スライドショーの間隔を切り替える

◀◀, ▶▶ を押す。

静止画の向きを変えるとき

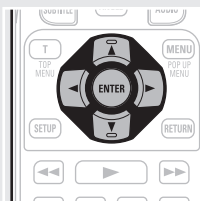
△▽◁ ▷ を押す。
△ ………………………………………… 反転
▽ ………………………………………… ミラー
◁ ……………………………… 反時計周りに回転
▷ ……………………………… 時計周りに回転

サムネイル表示画面に戻る

■ を押す。

YouTube のビデオを再生する

ここでは動画サイト YouTube の操作を説明します。

1 **△▽◁ ▷ を押してホームメニューの“YouTube”を選び、ENTER を押す。**
YouTube に接続します。

2 **△▽◁ ▷ を押して再生したいコンテンツを選び、ENTER を押す。**
再生をはじめます。

YouTube について

- YouTube とは YouTube 社が運営・管理している動画共有サービスです。
- 本機で YouTube にアップロードされている動画を表示することができます。
- YouTube および YouTube ロゴは Google Inc. の登録商標です。
- YouTube のコンテンツは YouTube,LLC により独自に運営されています。
- YouTube のコンテンツには、お客様が不適切であると感じるような情報が含まれている場合があります。

- YouTube を使用する場合には、インターネット接続が必要になります。スムースな動画の視聴のためには、本機と YouTube サーバーとの間で HD 動画コンテンツの場合で 6Mbps 以上、SD 動画コンテンツの場合で 2Mbps 以上の安定した実効速度が必要です。
- FTTH(光ファイバー)、ADSL、CATV などの高速ブロードバンド回線のご使用をおすすめします。
  視聴するのに十分な回線速度の場合でも、使用環境、通信環境、接続回線の状態、ネットワークの混雑状況などによって、動画の再生が途切れたり、スロー再生になるなど、正しく再生できなくなる場合があります。
- プロキシを経由して、YouTube に接続することはできません。
- 2011 年 6 月現在、YouTube は日本語表示に対応していません。メニューは英語で表示します。

ご注意

- YouTube をご覧になる際、△▽◁ ▷ または **ENTER** 以外のボタンを押すと、動作しない場合や、違う機能が動作する場合があります。
- 一部のコンテンツは、本機で再生できない場合があります。
- サービス内容や画面は、予告なく変更および終了する場合があります。
- 当社は YouTube が提供するコンテンツに関して一切の責任を負いません。
- YouTube の不明点は、YouTube のホームページをご覧ください。
  http://www.youtube.com

アイコンはそれぞれの操作に対して対応しているコンテンツのカテゴリーを示します。 映像 音声 写真

それぞれのアイコンに対応したメディアの詳細は“再生できるメディア”（☞50 ページ）を参照。

詳細設定のしかた

メニュー 一覧

SETUP を押すと、GUI メニューを表示します。このメニューから各種設定に移動できます。

全般設定（☞39 ページ）

画面表示他、各種設定をおこないます。

システム

- ❏ スクリーンセーバー
- ❏ 自動パワーモード
- ❏ 低消費電力設定
- ❏ HDMI コントロール
- ❏ HDMI パワーオフコントロール
- ❏ 初期化
- ❏ ファームウェアアップデート
- ❏ アップデート ノーティフィケーション
- ❏ BD データ管理

言語

- ❏ GUI 言語
- ❏ メニュー言語
- ❏ 音声言語
- ❏ 字幕言語

視聴制限設定

- ❏ パスワード変更
- ❏ BD 視聴制限レベル
- ❏ DVD 視聴制限レベル
- ❏ 視聴制限国コード

ネットワーク

- ❏ インターネット接続
- ❏ 情報
- ❏ 接続テスト
- ❏ DHCP
- ❏ BD-LIVE ネットワーク接続
- ❏ プロキシ設定

その他

- ❏ クローズド・キャプション
- ❏ アングルマーク
- ❏ PIP マーク
- ❏ セカンダリー オーディオマーク
- ❏ DivX® 登録コード
- ❏ リモコン ID
- ❏ レガシーリモコン受信設定

ビデオ設定（☞42 ページ）

テレビおよび HDMI の設定をおこないます。

TV

- ❏ TV アスペクト
- ❏ 壁紙
- ❏ プログレッシブモード

HDMI

- ❏ 映像出力信号方式
- ❏ HDMI ディープカラー

オーディオ設定（☞43 ページ）

音声出力の設定をおこないます。

オーディオ出力

- ❏ Coaxial
- ❏ HDMI
- ❏ ダウンサンプリング
- ❏ DRC

システム情報（☞44 ページ）

MAC Adress を表示します。

MAC アドレスを表示します。

GUI メニュー操作

1 **SETUP を押す。**
テレビ画面に GUI メニューを表示します。

- ホームメニュー上の **SETUP** を選択しても GUI メニューを表示できます。

2 **△▽ ◁ ▷ を押して、設定したいメニューにカーソルを移動する。**

- 前の項目に戻る場合は、◁ を押してください。

3 **ENTER を押して、設定を確定する。**

GUI メニューの選択項目の文字の色は次のとおりです。

- 白：選択できます。
- 灰：選択できません。

ご注意

GUI メニューの設定操作は、ディスクや USB メモリーを装着していない状態でおこなってください。レジューム機能が動作しているときなど、正しく設定されない場合があります。

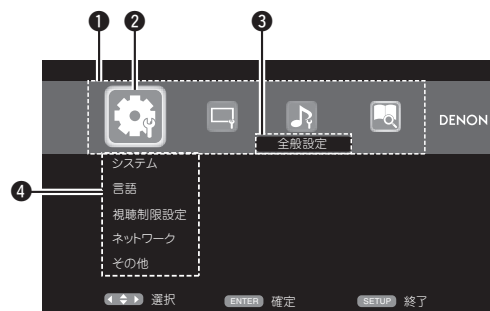
GUI メニューを終了するとき

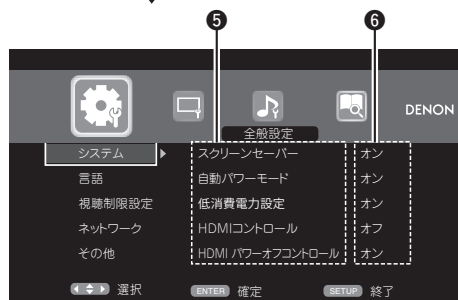
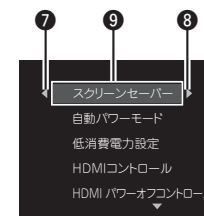
GUI メニューの表示中に **SETUP** を押す。

- GUI メニュー表示が消えます。

GUI メニュー画面の表示例

代表例を説明します。

❏メニュー選択画面（トップメニュー）

❶ GUI メニューの設定アイコン一覧
❷ 選択中の設定アイコン
❸ 選択中の設定項目
❹ 選択中の設定内容一覧

◁ ▷ を押して" "を選択し、▽ を押す。
（または ENTER を押す）

❺ 選択中の項目の詳細設定項目一覧
❻ 選択中の項目の詳細設定

❏選択項目

❼ 前の項目に戻る。または ◁ で切り替える。
❽ 次の項目に進む。▷ で切り替える。
❾ 選択中。選択項目は △▽ で切り替える。

全般設定

システム、言語、視聴制限、ネットワーク及びその他の設定をします。

システム

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

下記の設定をします。
- スクリーンセーバーの設定
- 消費電力モードの設定
- HDMI コントロール機能の設定
- 初期状態の設定
- インターネットから最新のファームウェアをダウンロード
- BD-LIVE メモリーの切り替えの設定

設定項目	設定内容
スクリーンセーバー スクリーンセーバーの設定をします。	**オン**：停止や一時停止の状態が約 3 分間続くと、スクリーンセーバー機能が動作します。 **オフ**：スクリーンセーバーを使用しません。
自動パワーモード 自動的に電源をスタンバイにする設定をします。	**オン**：次の状態が約 30 分間続くと、自動的に電源をスタンバイにします。 • ディスクが入っていない • 再生が停止している • レジューム機能により停止している **オフ**：自動パワー機能を使用しません。
低消費電力設定 スタンバイ時の低消費電力モードを設定します。	**低消費電力スタンバイ**：消費電力が最も少ないモードです。スタンバイ時に HDMI コントロールの操作が受け付けません。 スタンバイモード時の電源表示：消灯 **通常スタンバイ**：スタンバイ時に HDMI コントロールの操作を受け付けます。このとき、消費電力はやや高くなります。 スタンバイモード時の電源表示：赤色に点灯
HDMI コントロール HDMI ケーブルで接続した HDMI コントロール対応機器と本機を連動して操作できます。	**オン**：HDMI に接続している機器と連動します。 **オフ**：HDMI コントロール機能を無効にします。 • HDMI コントロール機能の動作には、本機または本機と接続している機器を HDMI 対応テレビに HDMI 接続することが必要です。 • HDMI コントロール機能については、"HDMI コントロール機能"（☞26 ページ）をご覧ください。 • " HDMI コントロール" の設定を変更した場合は、変更後必ず接続している機器の電源を切り、電源を入れ直してください。
HDMI パワーオフ コントロール HDMI ケーブルで接続した HDMI コントロール対応機器と本機の電源を連動して操作できます。	**オン**：本機の電源をテレビに連動してスタンバイにします。 **オフ**：本機の電源をテレビに連動してスタンバイにしません。

設定項目	設定内容
初期化 音声モードや画質設定を含むすべての設定を、お買い上げ時の設定にします。	**取消**：初期化をおこないません。 **実行**：初期化を実行します。
ファームウェアアップデート インターネット経由で本機のファームウェアをアップデートします。	**アップデート確認**：最新のファームウェアが存在するか確認します。また、**ENTER** を押すとアップデートする場合のおよそのアップデート時間を確認できます。 最新ファームウェアがアップデートされている場合、**ENTER** を押すと、ファームウェアの更新を開始します。 アップデートを開始すると、画面上にプログレスバーおよび残り時間を表示します。 アップデートが完了すると、再度電源がオンとなり、通常の状態に戻ります。
アップデート ノーティフィケーション 電源を入れた直後、アップデートのお知らせメッセージをテレビ画面に表示します。	**オン**：アップデートのお知らせメッセージをテレビ画面に表示します。 **オフ**：アップデートのお知らせメッセージをテレビ画面に表示しません。
BD データ管理 BD-Live に使用した内蔵メモリーもしくは外部メモリーの BD データを初期化します。	**BD データ情報**：BD-Live で使用した BD データの初期化をします。 残りのデータ領域を表示します **FMT BD Data**：BD-Live で使用した BD データの領域を初期化をします。 この操作では、すべてのデータが消去されます。MP3 や JPEG などのデータが入った USB メモリーを挿入している場合、この操作はおこなわないでください。 **BD-Live メモリー**：BD-Live で使用するメモリーに対して、内蔵メモリーもしくは外部メモリーを選択します。 • **内部**：本機に内蔵されたメモリーを使用します。 • **外部**：本機に挿入された USB メモリーを使用します。 BD-Live が使用するファイルの容量が本機に内蔵しているメモリーの空き容量を超える場合は、"External" を選択してください（☞20 ページ）。

ご注意

"ファームウェアアップデート"（☞39 ページ）をおこなったあとに次のメッセージを表示したときは、メッセージに従って操作してください。

"コンセントから本機の電源プラグを抜き、約 30 秒後に再びプラグを差し込んでからお使いください。"

言語

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

再生音声、字幕、メニュー表示の言語を設定します。

設定項目	設定内容
GUI 言語 GUI に表示する言語を設定します。	<u>**日本語**</u>／**English**
メニュー言語 BD や DVD のメニューに表示する言語を設定します。	<u>**日本語**</u>／他 *
音声言語 BD や DVD を再生するときの音声言語を設定します。	<u>**日本語**</u>／他 *
字幕言語 BD や DVD を再生するときの字幕言語を設定します。	<u>**オフ**</u>／**英語**／**フランス語**／**中国語**／**スペイン語**／**ドイツ語**／**イタリア語**／**オランダ語**／**ポルトガル語**／**デンマーク語**／**スウェーデン語**／**フィンランド語**／**ノルウェー語**／**ロシア語**／**韓国語**／**日本語**／他 * • **オフ**：字幕を表示しません。

* 表記している以外の言語を選択したいときは、他を押してください。

視聴制限設定

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

BD や DVD の視聴設定やパスワードを設定します。

設定項目	設定内容
パスワード変更 BD や DVD の視聴制限レベルや視聴制限国コードを変更するときのパスワードを設定します。	**変更**：パスワードを変更します。 **0** ～ **9** で入力し、**ENTER** で確定します。 お買い上げ時の設定は、“0000” です。
BD 視聴制限レベル BD 再生時の視聴制限レベルを設定します。	**レベル 0～254**：視聴できる年齢を設定します。視聴制限に該当しているディスクを再生した場合、再生を制限します。 <u>**制限なし**</u>：BD の再生を制限しません。
DVD 視聴制限レベル DVD 再生時の視聴制限レベルを設定します。	**レベル 1～8**：DVD 再生時の視聴制限レベルを設定します。 **全制限**：すべての DVD の再生を制限します。 <u>**制限なし**</u>：DVD の再生を制限しません。
視聴制限国コード 視聴制限の基準国を設定します。設定した国の視聴制限レベルを適応します。	初期設定は日本です。その他の視聴制限国コードは、△▽ で選択してください。

ネットワーク

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

インターネットに接続する設定、BD-LIVE の設定をします。

設定項目	設定内容
インターネット接続 インターネット接続の使用するか使用しないかを設定します。	**有効**：インターネット接続を使用します。 **無効**：インターネット接続を使用しません。
情報 IP アドレス、サブネットマスクなどのネットワーク情報を表示します。	下記のネットワーク情報を表示します。 • アドレスタイプ • IP アドレス（BD-Live、アップデート用） • サブネットマスク • デフォルトゲートウェイ • プライマリー DNS • セカンダリー DNS
接続テスト ネットワークの接続テストをおこないます。	インターネット接続のテストをおこないます。 • 初めてインターネット接続するときや、IP アドレスやネットワークの設定を変えたときに接続テストをおこなうことをおすすめします。 • 接続が完了しない場合、メッセージを表示します。接続設定及び接続環境を確認してください。
DHCP IP アドレスなどのネットワーク設定を自動でおこなうか手動でおこなうかを設定します。 お買い上げ時の設定は"オート"になっていますので、ブロードバンドルータの DHCP サーバーを"有効"に設定している場合は IP アドレスなどの設定は必要ありません。 必要に応じてプロキシサーバーの設定をおこなってください。	**自動**：DHCP 機能によりネットワークの設定を自動でおこないます。 **手動**：DHCP 機能のないネットワークに接続する場合、手動で次のネットワークの設定をおこなってください。 設定の内容はプロバイダーまたはネットワーク管理者にご確認ください。 ▽ を使って設定値をクリアにしたのち、設定を **0** ～ **9** で入力し、**ENTER** で入力を確定します。 • **I P アドレス（BD-LIVE、アップデート）**：BD-LIVE やファームウェアアップデート用の IP アドレスを手動で設定します。 • **サブネットマスク**：xDSL モデムやターミナルアダプタを直接本機に接続している場合は、プロバイダーから書面などで通知されたサブネットマスクを入力します。通常は"255.255.255.0"になります。 • **デフォルトゲートウェイ**：ゲートウェイ（ルータ）に接続している場合は、その IP アドレスを入力してください。 • **プライマリー DNS**：プライマリー DNS を入力してください。 • **セカンダリー DNS**：セカンダリー DNS を入力してください。
BD-Live 接続 BD-LIVE 接続時にコンテンツに対するアクセス制限をします。	**許可**：BD-LIVE コンテンツからのすべてのインターネットアクセスを許可します。 **一部許可**：証明書をもつ BD-LIVE コンテンツからのインターネットアクセスのみを許可します。 **禁止**：BD-LIVE コンテンツからのすべてのインターネットアクセスを禁止します。
プロキシ設定 インターネットにプロキシサーバーを経由して接続する場合に設定します。	**無効**：プロキシサーバーを使用しません。 **有効**：プロキシサーバーを使用します。 • プロキシホスト：プロキシ設定において有効を選択した場合、プロキシホストを仮想キーボードで入力し、**ENTER** で確定します。 • プロキシポート：プロキシ設定において有効を選択した場合、プロキシポートを **0 ~ 9** で入力し、**ENTER** で確定します。 **ネットワークプロキシ画面（仮想キーボード）**

その他

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

その他の機能を設定します。

設定項目	設定内容
クローズド・キャプション デコーダへ字幕信号を出力する設定をします。（別売り）	**オフ**：クローズド・キャプション（字幕）信号を出力しません。 **オン**：クローズド・キャプション（字幕）信号を出力します。
アングルマーク 再生中に表示するアングルマークの表示の設定をおこないます。	再生したディスクに複数のアングルが収録されている場合、アングルが収録されているシーンを再生しているときにアングルマークを表示します。 **オフ**：アングルマークを表示しません。 **オン**：アングルマークを表示します。
PIP マーク 再生中に表示する PIP マークの表示の設定をおこないます。	再生したディスクにセカンダリービデオが収録されている場合、セカンダリービデオが収録されているシーンを再生しているときに PIP マークを表示します。 **オフ**：PIP マークを表示しません。 **オン**：PIP マークを表示します。
セカンダリー オーディオマーク 再生中に表示するセカンダリーオーディオマークの表示の設定をおこないます。	再生したディスクにセカンダリーオーディオが収録されている場合、セカンダリーオーディオが収録されているシーンを再生中にセカンダリー音声マークが表示されます。 **オフ**：セカンダリ - オーディオマークを表示しません。 **オン**：セカンダリ - オーディオマークを表示します。
DivX® 登録コード DivX® の登録コードを表示します。	**コード表示**：DivX® 登録コードを表示します。
リモコン ID（本機） リモコン ID を設定します（☞49 ページ）	本機のリモコンでほかの DENON 製 BD プレーヤーが動作してしまうときにリモコン ID を切り替えます。 **DENON 1**：DENON 1 を選択します。リモコン側の設定も“DENON 1”に設定してください。 **DENON 2**：DENON 2 を選択します。リモコン側の設定も“DENON 2”に設定してください。
レガシーリモコン受信設定（本機） レガシーリモコンの受信設定をします。	DENON 製 DVD プレーヤーなどのリモコン信号を受け付けない設定をします。 **オン**：受け付けます。 **オフ**：受け付けません。

ビデオ設定

テレビの接続、HDMI 接続および 3D 映像ソフトを再生するときに設定します。

TV

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

接続しているテレビに合わせて、映像出力信号を設定します。

設定項目	設定内容
TV アスペクト（縦横比） テレビの画面タイプと表示モードを設定します。	**ワイド 自動スクィーズ**：ワイド画面のテレビに出力します。4：3 映像のときは、画面中央に比率を変えずに表示します。*1 **ワイド**：ワイド画面のテレビに出力します。 **4:3 パンスキャン**：4：3 画面のテレビに出力します。ワイド映像の場合、映像の左右をカットして 4：3 で表示します。*2 **4:3 レターボックス**：4：3 画面のテレビに出力します。ワイド映像をすべて表示します。
壁紙 再生停止中などに背景に表示する壁紙を設定します。	**ピクチャー**：DENON のロゴタイプを表示します。 **黒**：背景を黒にします。 **灰色**：背景を灰色にします。 **青**：背景を青色にします。
プログレッシブモード *3 ソースの映像素材に最適なプログレッシブ変換モードを設定します。	**自動**：映像素材のタイプを検出して自動的にモードを切り替えます。通常はこの設定にしてください。 **ビデオ**：ビデオ素材のディスク再生に適しています。 **フィルム**：フィルム素材のディスク再生に適しています。

*1 映像出力端子には効果がありません。
*2 映像コンテンツによっては、 4 ：3パンスキャンに設定しても、レターボックスで出力される場合があります。
*3 このモードは映像ソースが 480i/576i のときのみ有効です。

HDMI

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

HDMI の出力信号を設定します。

設定項目	設定内容
映像出力信号方式 HDMI 端子から出力する映像信号の方式を設定します。	**YCbCr**：色差形式の映像方式（16（黒）〜 235（白））で出力します。 **RGB**：RGB の映像方式（16（黒）〜 235（白））で出力します。
HDMI ディープカラー HDMI 端子のディープカラー出力を設定します。HDMI 映像信号の色深度（使用する色）を拡張し、自然に近い色を再生します。	**自動**：接続している HDMI 機器がディープカラーに対応している場合、自動的にディープカラーで出力します。 **オフ**：ディープカラーで出力しません。

リモコン操作ボタン	SETUP メニューを表示する / メニューを削除する	カーソルを移動する（上 / 下 / 左 / 右）	ENTER 設定を確定する	RETURN ひとつ前のメニューに戻る

3D

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

3D 映像ソフトを再生するときに設定します。

設定項目	設定内容
3D 出力設定 3D 映像を再生するときの映像出力を設定します。 (HDMI 出力のみ)	**自動**：3D 映像ソフトと 2D 映像ソフトを自動で判別して再生します。 • 3D 映像を再生する際、3D 映像部分は 3D で再生し、2D 映像部分は 2D で再生します。 • 通常はこの設定にします。 **オフ**：常に 2D 映像信号を出力します。
TV スクリーンサイズ設定 お使いの 3D 映像対応テレビの画面サイズを設定します。	△▽◁ ▷ または **0 ~ 9** で、お使いのテレビの画面サイズを設定画面上の 3 桁の数字に入力し、**ENTER** で確定します。 • お買い上げ時の設定は“046”(46 インチのテレビ画面サイズ) です。 ご注意 正しいサイズに設定しない場合、適切な 3D 映像を表示できないことがあります。

ディスクによって 3D 映像の再生操作の方法が異なる場合があります。ディスクに付属の取扱説明書をご覧ください。

ご注意

本機から出力する 3D 映像信号を、AV レシーバーを通して 3D 映像対応テレビに出力する場合、AV レシーバーも 3D 映像信号の入出力に対応していることが必要です。

3D 映像の視聴には 3D 映像対応テレビをお使いください。

- 本機と 3D 映像対応テレビを接続するときは、ハイスピード HDMI ケーブルをお使いください。
- 3D 映像の再生中は、“映像解像度”(☞27 ページ)、“HDMI の映像出力を設定する”(☞27 ページ)、および“画質を調整する”(☞28 ページ)の各種調節はできません。
- 3D 映像を視聴する前に本機の HDMI 映像解像度を Auto に設定してください(☞27 ページ)。

オーディオ設定

各種音声の出力設定をします。

オーディオ出力

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

音声出力を設定します。

設定項目	設定内容
Coaxial デジタル音声出力端子から出力するフォーマットを選択します。	**ビットストリーム**：本機と接続する機器がドルビーデジタルや DTS デジタルサラウンドに対応しているときに選択します。 **PCM**：本機と接続する機器がドルビーデジタルや DTS デジタルサラウンドに非対応のときに選択します。 **オフ**：本機のデジタル音声出力端子から音声信号を出力しません。 各音声信号の変換については、“デジタル信号音声出力について”(☞54 ページ) をご覧ください。
HDMI HDMI 出力端子から出力フォーマットを選択します。	**ビットストリーム**：本機と接続する機器がドルビー TrueHD ／ドルビーデジタルプラス／ドルビーデジタルや DTS-HD ／ DTS デジタルサラウンドに対応しているときに選択します。接続している HDMI 機器の対応している音声フォーマットやチャンネル数にあわせて自動で出力フォーマットを変更します。 **PCM**：本機と接続する機器がドルビー TrueHD ／ドルビーデジタルプラス／ドルビーデジタルや DTS-HD ／ DTS デジタルサラウンドに対応していないときに選択します。 **オフ**：本機の HDMI 出力端子から音声信号を出力しません。 各音声信号の変換については、“デジタル信号音声出力について”(☞52 ページ)を参照してください。 ご注意 リモコンの **MODE** で、“BD オーディオモード” を “HD Audio Output” に設定すると、ブルーレイディスクのサブ音声(セカンダリーオーディオ)、インターラクティブオーディオは出力されません。

設定項目	設定内容
ダウンサンプリング デジタル音声出力端子から出力するサンプリングレートを選択します。	本機と接続する機器の取扱説明書をご覧いただき、接続機器にあわせて設定してください。 **<u>48 kHz</u>／96 kHz／192 kHz** ご注意 • 著作権保護のあるコンテンツでは、音声信号を 48kHz、16bit にダウンサンプリングして出力します。 • 接続する機器がサンプリングレート 96kHz／192kHz に対応していないとき、本機の設定を 96kHz／192kHz に設定すると接続された機器から大きなノイズを出すことがあります。
DRC ドルビー TrueHD／ドルビーデジタルプラス／ドルビーデジタル音声のダイナミックレンジを圧縮します。	**オフ**：ダイナミックレンジの圧縮をしません。 **オン**：ダイナミックレンジの圧縮をします。 **<u>自動</u>**：ドルビー TrueHD 音声のダイナミックレンジを素材によって自動的に圧縮します。ドルビー TrueHD 以外は音声圧縮をしません。 この設定をおこなうことにより、夜間など大きな音で視聴できないときに、大きな音は小さく、小さな音は大きくなるように補正します。

システム情報

MAC アドレスの表示をします。

設定項目	設定内容
MAC アドレス MAC アドレスの表示をします。	MAC アドレスの表示をします。

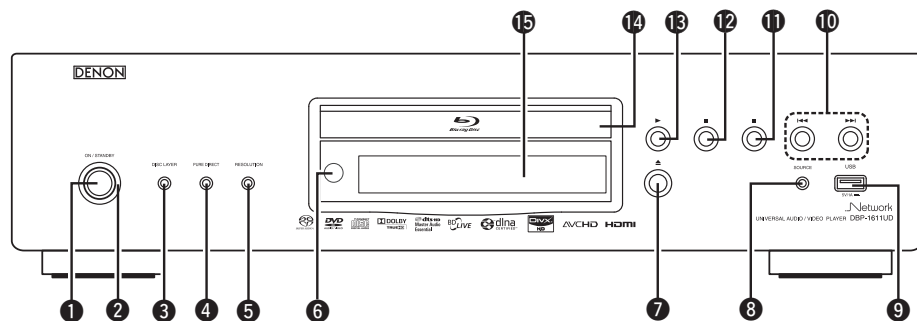
Information

情報編

ここでは本機に関するさまざまな情報を記載しています。
必要に応じてご覧ください。

各部の名前

フロントパネル

各部のはたらきなど詳しい説明については、( )内のページをご覧ください。

❶ **電源ボタン(ON/STANDBY)** ····(10、12)
本機の電源をオンまたはオフ(スタンバイ)にします。

❷ **電源表示** ··········(10、12)

❸ **ディスクレイヤーボタン(DISC LAYER)** ··········(19〜21)

❹ **ピュアダイレクトボタン(PURE DIRECT)** ··········(26)

❺ **レゾリューションボタン(RESOLUTION)** ··········(16、27)

❻ **リモコン受光部** ··········(49)

❼ **ディスクトレイ開閉ボタン(⏏)** ··········(11、19〜21)

❽ **ソース切り替えボタン(SOURCE)** ··········(34)

❾ **USBポート** ··········(31)

❿ **スキップボタン(⏮, ⏭)** ··········(22)

⓫ **ストップボタン(■)** ··········(22)

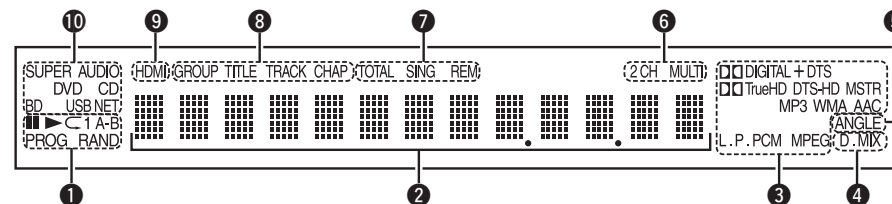
⓬ **ポーズ/コマ送りボタン(❚❚)** ··········(22)

⓭ **プレイボタン(▶)** ··········(11、19〜21)

⓮ **ディスクトレイ** ··········(11)

⓯ **ディスプレイ** ··········(46)

電源がスタンバイのときに ❼ または ⓭ を押すと電源がオンになります。

ディスプレイ

❶ **再生モード表示**
▶ : 再生中
❚❚ : 一時停止中またはコマ送り再生中
PROG : プログラム再生中
RAND : ランダム再生中
⊂1 A-B : リピート再生中

❷ **インフォメーションディスプレイ**
ディスクの各種情報や再生経過時間などを表示します。

❸ **再生フォーマット表示**

❹ **ダウンミックス表示**
ダウンミックスが許可されている音声信号を再生しているときに表示します。

❺ **アングル情報表示**
再生中のディスクにアングルが収録されているときに表示します。

❻ **音声チャンネル表示**
再生している音声信号のチャンネル数を表示します。
2CH : 2 チャンネルを再生中
MULTI : マルチチャンネルを再生中

❼ **時間モード表示**
TOTAL : スーパーオーディオ CD や CD の総時間
SING : 再生中のタイトル/チャプター/トラック/ファイルの経過時間
REM : 再生中のタイトル/チャプター/トラック/ファイルの残り時間

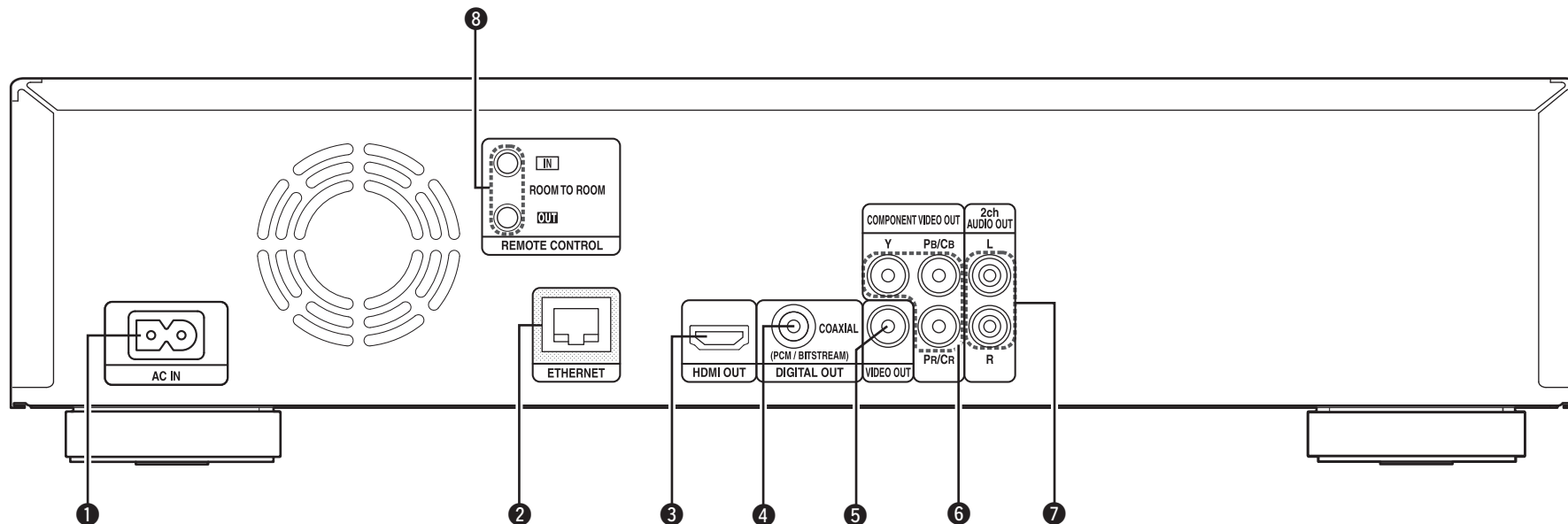
❽ **グループ/タイトル/トラック/チャプター表示**

❾ **HDMI出力表示**
HDMI の映像および音声信号が出力されているときに表示します。

HDMI ケーブルが正しく接続されていない場合や接続機器が認識されない場合は表示しません。

❿ **メディア表示**
BD : BD
DVD : DVD ビデオ、DVD-R/+R/-RW/+RW
DVD AUDIO : DVD オーディオ
SUPER AUDIO CD : スーパーオーディオ CD
CD : CD
USB : USB メモリー
NET : NETWORK
ネットワーク経由でコンテンツを再生しているときに表示します。

リアパネル

各部のはたらきなど詳しい説明については、( )内のページをご覧ください。

❶ 電源入力端子（AC IN）……（10）

❷ イーサネット端子（ETHERNET）……（32）

❸ HDMI出力端子（HDMI OUT）……（9）

❹ デジタル音声出力端子
（DIGITAL OUT COAXIAL）……（14、17）

❺ 映像出力端子（VIDEO OUT）……（14〜17）

❻ コンポーネント映像出力端子
（COMPONENT VIDEO OUT）……（14〜17）

❼ アナログ2チャンネル音声出力端子
（2ch AUDIO OUT）……（15〜17）
マルチチャンネルで収録されているソフトを再生すると、2チャンネルにダウンミックスしたアナログ音声を出力します。

❽ ワイヤードリモコン入出力端子
（ROOM TO ROOM IN／OUT）
将来的な拡張用端子です。

ご注意

- 端子内部のピンには絶対に触れないでください。静電気を引き起こし、故障の原因になることがあります。
- ファン開口部に指や異物を入れないでください。けがや故障の原因になることがあります。

リモコン

各部のはたらきなど詳しい説明については、( )内のページをご覧ください。

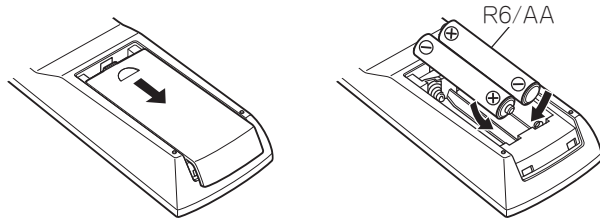
❶ リモコン信号送信窓 ……………………………………(49)
❷ ディスクトレイ開閉ボタン
(OPEN／CLOSE ／ ⏏) ……………………(11、19〜21)
❸ リモコン信号 送信／状態 表示 ……………………(49)
❹ レゾリューション(解像度)切り替えボタン
(RES.) ……………………………………………(16、27)
❺ HDMIモード切り替えボタン(HDMI MODE) ……(27)
❻ 数字ボタン(0〜9, +10) …………………………(23、25)
❼ 表示切り替えボタン(DISPLAY) ……………………(18)
❽ モードボタン(MODE) ………………………………(11、29)
❾ 字幕切り替えボタン(SUBTITLE) …………………(25)
❿ エンターボタン(ENTER) ……………………(23、25、38)
⓫ トップメニューボタン(T ／ TOP MENU) ………(19)
⓬ セットアップボタン(SETUP) ………………………(38)
⓭ 早戻し／スローボタン(◀◀) ………………………(22)
⓮ スキップボタン(I◀◀)) ……………………………(22)
⓯ ポーズ／コマ送りボタン(❚❚) ……………………(22)
⓰ A／B／C／Dボタン
⓱ 画質調整ボタン(PICT) ……………………………(28)
⓲ ページ切り替えボタン(PAGE+) …………………(21)
⓳ 電源ボタン(POWER OFF/ON) ……………………(10)
⓴ ディマーボタン(DIMMER) …………………………(26)
㉑ プログラム／ダイレクトボタン(PROG／DIRECT) …(25)
㉒ ランダムボタン(RAND) ……………………………(25)
㉓ クリアボタン(CLEAR) ……………………………(23、25)
㉔ コールボタン(CALL) ………………………………(25)
㉕ サーチボタン(SRCH) ………………………………(23)
㉖ A-B間リピートボタン(A-B) ………………………(24)
㉗ リピートボタン(REPEAT) …………………………(24)
㉘ ホーム切り替えボタン(HOME) ……………………(33)
㉙ 音声切り替えボタン(AUDIO) ………………………(24)
㉚ アングル切り替えボタン(ANGLE) …………………(25)
㉛ メニュー／ポップアップメニューボタン
(MENU ／ POP UP MENU) …………………………(19)
㉜ カーソルボタン(△▽◁ ▷) ……………………(19、38)
㉝ リターンボタン(RETURN) ……………………(34、35)
㉞ プレイボタン(▶) ……………………………(10、19〜21)
㉟ 早送り／スローボタン(▶▶) ………………………(22)
㊱ スキップボタン(▶▶I) ………………………………(22)
㊲ ストップボタン(■) …………………………………(22)
㊳ ピュアダイレクトボタン(PURE) ……………………(26)
㊴ ディスクレイヤー切り替えボタン(D.L.) ………(19〜21)

ご注意

- 電源がスタンバイのときに ❷ および ㉞ を押すと電源がオンになります。
- ⓰ は BD のポップアップメニュー画面を操作するときなどに使用する場合があります。

乾電池の入れかた

① 裏ぶたを矢印の方法へスライドさせて取り外す。

② 乾電池（2本）を乾電池収納部の表示に合わせて正しく入れる。

③ 裏ぶたを元通りにする。

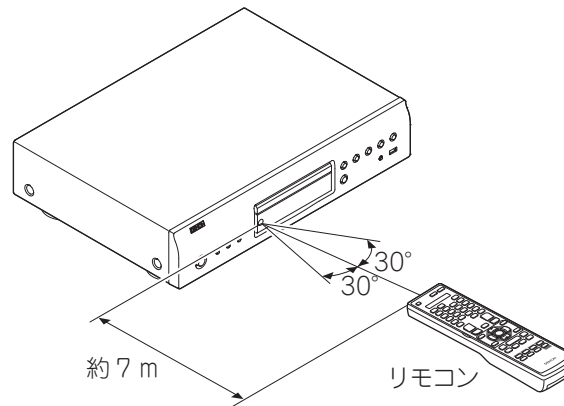
乾電池が消耗すると、ボタンを押したときにリモコンの信号送信／状態表示が 5 回点滅します。
このとき、電池の交換を早めにおこなってください。

- 乾電池が完全に消耗すると、リモコン信号送信／状態表示は点灯しなくなります。

ご注意

- リモコンには単 3 形乾電池をご使用ください。
- リモコンを本機の近くで操作しても本機が動作しないときは、新しい乾電池と交換してください。（付属の乾電池は動作確認用です。早めに新しい乾電池と交換してください。）
- 乾電池は、リモコンの乾電池収納部の表示通りに ⊕ 側・⊖ 側を合わせて正しく入れてください。
- 破損・液漏れの恐れがありますので、
  - 新しい乾電池と使用済みの乾電池を混ぜて使用しないでください。
  - 違う種類の乾電池を混ぜて使用しないでください。
  - 乾電池は充電しないでください。
  - 乾電池をショートさせたり、分解や加熱または火に投入させたりしないでください。
  - 電池を直射日光のあたるところや暖房器具の近くなど高温になるところに置かないでください。
- 万一、乾電池の液漏れがおこったときは、乾電池収納部内についた液をよく拭き取ってから新しい乾電池を入れてください。
- リモコンを長期間使用しないときは、乾電池を取り出してください。
- 不要になった乾電池を廃棄するときは、お住まいの地域の条例にしたがって処理をしてください。

リモコンの使いかた

リモコンはリモコン受光部に向けてご使用ください。

ご注意

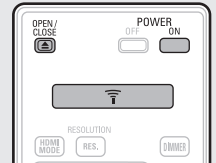
リモコン受光部に、直射日光やインバーター式蛍光灯の強い光または赤外線が当たると、誤動作をしたり、リモコンが操作できなくなったりする場合があります。

リモコンの設定（リモコン側）

リモコン操作する際、他の DENON 製 BD プレーヤーが同時に動作してしまうときは、この設定でリモコンコードを切り替えてください。

リモコンコードは本体側も同時に設定してください（☞42 ページ “リモコン ID（本機)”）。

1 **POWER ON と OPEN/CLOSE を同時に押す。**
ボタンを押している間に、リモコン信号送信／状態表示が 2 回点滅すると、リモコンは設定モードに入ります。

2 **数字ボタン“1”を押すと、“リモコン ID”は “DENON1” に設定します。**
数字ボタン“2”を押すと、“リモコン ID”は “DENON2” に設定します。

数字ボタンの入力が完了し、リモコン信号送信／状態表示が 2 回点滅すると、リモコンの設定は完了します。

本体側とリモコン側のリモコンコードが一致しない場合、本体側で設定されているリモコンコードをディスプレイに表示します。

【例】
本体側の設定が“DENON 1”で、リモコン側の設定が“2”の場合は、ディスプレイに“PLAYER 1”を表示します。

ご注意

- リモコンの設定を間違えた場合、リモコンの送信信号／状態表示が 2 秒点滅し、そのあと消灯します。このとき、設定は正しくされていないので、再度設定をやり直してください。
- 本体側とリモコン側のリモコンコードを一致させてください。リモコンコードが異なると、リモコンで本機の操作ができなくなります。
- リモコンコードを変えても、本機が DENON 製の他のリモコンで動作するときは、GUI メニューの“その他” - “レガシーリモコン受信設定”で設定を“オフ” にしてください（☞42 ページ）。

メディアについて

再生できるメディア

ディスク

再生できるメディア		再生できるフォーマット	再生できるリージョンコード	本書内の表示
BD ビデオ *1,*2		-	Discs with (A)	
BD-R *3		-		
BD-RE *3				
DVD オーディオ *1		-	-	
DVD ビデオ *1,*2			Include region ALL 2	
DVD-R, DVD+R		ビデオモード AVCHD AVCREC フォーマット	-	
DVD-RW, DVD+RW				
スーパーオーディオ CD		-	-	
CD		-	-	
CD-R				
CD-RW				

ご注意

- BD ／ DVD レコーダーで記録されたディスクの記録状態によっては、ディスクを受け付けなかったり、映像や音声が途切れたりなど、正常に再生できないことがあります。
- ファイナライズをおこなっていない BD-R/-RE、DVD-R/-RW/+R/+RW、CD-R/-RW は、再生できないことがあります。ファイナライズをおこなってから再生してください。

次のディスクは再生できません。

- Ver. 1.0（カートリッジタイプ）の BD-RE
- 動画、画像、音声などのファイルが記録されている BD-ROM/BD-R/BD-RE
- BDXL
- HD DVD
- DVD-RAM
- CDV（オーディオパートのみ再生可能）
- CD-G（音声のみ再生可能）
- 規格外の CD（コピープロテクション付き CD など）
- 無許可のディスク（海賊版のディスク）
- 記録領域が少ないディスク（直径 55mm 以下）
- VSD/CVD/ ビデオ CD/ スーパービデオ CD/CD-I/ フォト CD

*1 BD ビデオ /DVD オーディオ /DVD ビデオには、メニューの構造によって本書の説明どおりに動作しないディスクがあります。

*2 BD プレーヤーと BD ビデオ、または DVD プレーヤーと DVD ビデオは、それぞれリージョンコード（地域ごとに割り当てられたコード）を持っています。そのコードが一致しないと、再生ができません。

*3 ブルーレイディスクの互換性について
ブルーレイディスクは新しい規格で日々進化を続けているため、ディスクの種類やバージョンによっては再生できない場合があります。
本機のファームウェアは随時、更新しております。最新ファームウェアを更新してご使用ください。

USB メモリー

- 本機は FAT16、および FAT32 のファイルシステムに対応しています。NTFS ファイルシステムには対応していません。
- 本機で表示できるフォルダやファイルの制限数は次のとおりです。（制限数にはルートフォルダを含みます。）

フォルダの階層数	8 段階
フォルダ数	999
ファイル数	999
ファイル名、フォルダ名	32
アーティスト名、曲名など	60

- 1 行で表示しきれない文字はスクロール表示されます。
- ファイル名／タイトル名／アーティスト名／アルバム名はメニュー画面に表示されます。

ご注意

- USB メモリーの抜き差しは、電源がスタンバイのときにおこなってください。電源がオンのときに抜き差しすると、記録されているファイルを読み取れなかったり、破壊してしまうことがあります。
- MP3 プレーヤー、デジタルカメラや携帯電話の USB 装置との互換性はありません。
- 本機は USB 機器を充電することはできません。
- 本機はハイスピード USB（USB2.0 準拠）に対応しています。
- カードリーダー、USB 延長ケーブルまたは USB ハブには対応していません。
- 本機に接続した USB メモリーに保存している AVCHD のコンテンツも再生できます。

ファイル

再生できるファイル（拡張子）	再生できるメディア			ファイルの仕様	本書内の表示
	DVD-R/-RW/ +R/+RW CD-R/-RW	USB メモリー	ネットワーク		
MP3 (.mp3)	○	○	○	• サンプリング周波数：32kHz,44.1kHz、48kHz • ビットレート：64kbps ～ 320kbps • 音声タイプ：MPEG1 オーディオレイヤー3	
WMA* (.wma)	○	○	○	• サンプリング周波数：32kHz,44.1kHz、48kHz • ビットレート：48kbps ～ 192kbps • 音声タイプ：WMA バージョン 9	
AAC* (.m4a)	○	○	○	• サンプリング周波数：32kHz,44.1kHz、48kHz • ビットレート：16kbps ～ 192kbps • 音声タイプ：MPEG4、AAC	
LPCM (.wav)	○	○	○	• サンプリング周波数：44.1kHz、48kHz • ビット数：16bit • チャンネル数：2ch	
JPEG (.jpg/.jpeg)	○	○	○	• 最大解像度：4,096 x 4,096 ピクセル • 最小解像度：32 × 32 ピクセル • 最大ファイル容量：12MB	
DivX® (.avi/.divx/.mkv)	○	○	○	• 対応バージョン：DivX® PLUS HD まで（CD-R/-RW は除く） • 最大容量：2GB	
MPEG (.mpg/.mpeg /.mp4/.ts/.m2t)	×	○	○	• ビデオ：MPEG1、MPEG2、MPEG4 • オーディオ：MP3、AAC、WMA、AC-3	
WMV (.wmv)	×	○	○	• ビデオ：WMV9、WMV9AP(VC-1) • オーディオ：WMA、AAC、AC-3、DTS	
AVI (.avi)	×	○	○	• ビデオ：MPEG1、MPEG2、MPEG4 • オーディオ：PCM、MP3、AAC、AC-3	

* デジタル著作権管理（DRM）されたファイルは、DivX® 及びネットワーク上の機器の WMDRM で保護されているファイル以外再生できません。

- 記録したときの条件によっては、上記のファイルでも再生できないことがあります。
- ファイル名 / タイトル名 / アーティスト名 / アルバム名にメニュー画面で対応していない文字が含まれている場合は、正しく表示されません。
- プログレッシブ形式で記録された JPEG 形式の画像は再生できません。
- 可変ビットレート（VBR：Variable Bit Rate）には対応していません。（再生できる場合、ディスプレイの時間表示が速いまたは遅くなります。）

❑DivX® の Video-on-Demand(VOD)について

- DivX® の公式サイトにある DivX® Video-On-Demand（VOD）サービスから DivX® ファイルを新規で購入またはレンタルするときは、本機の登録番号が必要です。詳しくは、「DivX® 登録コード」（☞42 ページ）をご覧ください。
- 本機の登録番号と異なる番号で登録された DivX® VOD ファイルの再生はできません。
- DivX® VOD ファイルによっては、再生回数に制限があるものがあります。その場合、DivX® VOD の表示画面に再生できる回数を表示します。
- 再生するときは、◁ ▷ で"はい"を、再生しないときは"いいえ"を選択し、**ENTER** を押してください。

ご注意

- DivX PLUS™ HD について： DivX® は、DivX 社が作成したデジタルビデオフォーマットです。これは、1080p とプレミアムコンテンツまでの DivX Plus™ ビデオ（H.264/.MKV）を含む DivX ビデオを再生する公式の DivX Certified® デバイスです。ファイルを DivX ビデオに変換するための詳細情報およびソフトウェアツールについては、www.divx.com をご覧ください。
- DIVX ビデオオンデマンドについて： この DivX Certified® デバイスは、DivX ビデオオンデマンド（VOD）コンテンツ再生のため登録が必要です。登録コードの作成については、デバイスセットアップ・メニューの DivX VOD セクションをご覧ください。このコードを使用して vod.divx.com で登録プロセスを完了し、DivX VOD に関する詳細をお読みください。

❑ディスクやファイルについて

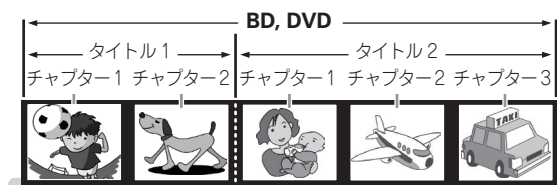
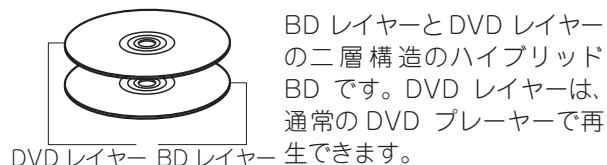
BD ビデオ、DVD ビデオ

BD/DVD ビデオは、いくつかの大きな区切り（タイトル）と小さな区切り（チャプター）に分けられています。それぞれの区切りには番号が割り当てられ、これらの番号をタイトル番号、チャプター番号と呼びます。

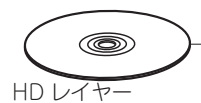
【 例 】

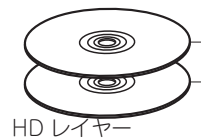
ハイブリッド BD

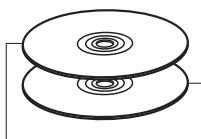
• ハイブリッド・ディスク

BD レイヤーと DVD レイヤーの二層構造のハイブリッド BD です。DVD レイヤーは、通常の DVD プレーヤーで再生できます。

スーパーオーディオ CD

【 スーパーオーディオ CD の種類 】

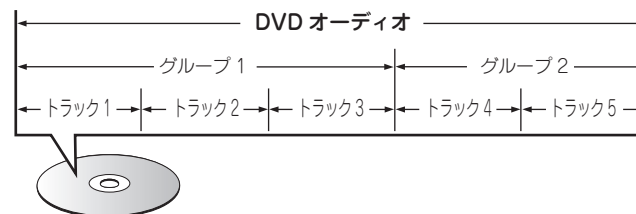
• シングルレイヤー・ディスク

HD レイヤー ＊のみで構成される一層のスーパーオーディオ CD です。

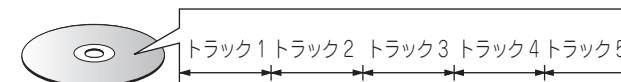
• デュアルレイヤー・ディスク

HD レイヤー ＊が二層構造のスーパーオーディオ CD であり、高音質での長時間再生ができます。

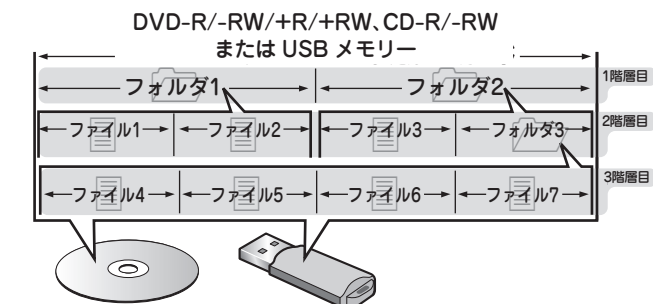
• ハイブリッド・ディスク

HD レイヤー＊と CD レイヤーの二層構造のスーパーオーディオ CD です。CD レイヤーは、通常の CD プレーヤーで再生できます。

＊ スーパーオーディオ CD の HD 音声（ハイデンシティ音声）は、HD レイヤーに収録されています。そのレイヤーの中にはステレオチャンネルエリアとマルチチャンネルエリアの一方または両方を持つことができます。

DVD オーディオ

DVD オーディオは、いくつかの大きな区切り（グループ）と小さな区切り（トラック）に分けられています。それぞれの区切りには番号が割り当てられ、これらの番号をグループ番号、トラック番号と呼びます。

CD

CD は、楽曲ごとなどのいくつかの区切り（トラック）に分けられています。この区切りには番号が割り当てられ、これらの番号をトラック番号と呼びます。

ファイル

DVD-R/-RW/+R/+RW、CD-R/-RW や USB メモリーに記録された MP3/WMA/AAC/LPCM や JPEG、DivX® ファイルは、いくつかの大きな区切り（フォルダ）と小さな区切り（ファイル）に分けられています。ファイルはフォルダに、フォルダはいくつかの階層に分けて記録させることができます。本機は 8 階層まで認識できます。

MP3/WMA/AAC や JPEG、DivX® などのファイルを CD-R/-RW に書き込む場合、ライティングソフトのフォーマットは「ISO9660」でおこなってください。他のフォーマットで記録された場合、正常に再生できないことがあります。詳しくは、ご使用のライティングソフトの説明書をご覧ください。

メディア使用時のご注意

ディスクの入れかた

- 記録面を下にして入れてください。
- ディスクトレイが完全に開いた状態でディスクを入れてください。
- ディスクは、トレイガイドに合わせて、水平に載せてください。

再生できないディスクを入れた場合、またはディスクを裏返しに入れた場合は、本機のディスプレイに"NO DISC"を表示します。

ご注意

- ディスクは 1 枚だけ入れてください。2 枚以上重ねて入れると故障の原因になり、ディスクを傷つけることにもなります。
- ひび割れや変形、または接着剤などで補修したディスクは使用しないでください。
- レンタルディスクのラベルやセロハンテープなどの糊がはみ出したものや、剥がした痕があるディスクは使用しないでください。そのまま使用すると、ディスクが取り出せなくなり、故障の原因になることがあります。
- 特殊形状のディスクの再生は、故障の原因になりますので使用しないでください。

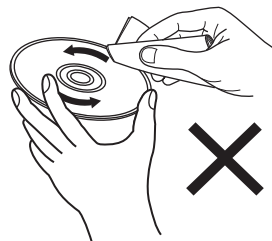
- 電源がスタンバイ状態で、ディスクトレイを手で押し込まないでください。故障の原因となります。

メディアの取り扱いについて

- 指紋・油・ゴミなどを付けないでください。
- ディスクに傷をつけないよう、特にケースからの出し入れにはご注意ください。
- 曲げたり、熱を加えたりしないでください。
- ディスクの中心の穴を大きくしないでください。
- ディスクのレーベル面（印刷面）にボールペンや鉛筆などで文字を書いたり、ラベルなどを貼り付けたりしないでください。
- ディスクを屋外など寒いところから急に暖かいところへ移すと、ディスクの表面に水滴がつくことがありますが、ヘアードライヤーなどで乾かさないでください。
- USB メモリーの再生中に USB メモリーを抜いたり、本機の電源をスタンバイにしないでください。ファイルが壊れて、故障の原因になることがあります。
- USB メモリーは分解したり、修理したりしないでください。
- 静電気によって、USB メモリーやファイルが壊れることがあります。USB メモリーの金属端子部を指などで触らないでください。
- 変形した USB メモリーを使用しないでください。
- ご使用後は、必ずディスクや USB メモリーを取り出し、ほこりや傷、変形などを避けるため、必ず専用のケースに入れてください。
- 次のような場所に置かないでください。
  1. 直射日光が長時間当たるところ
  2. 湿気・ほこりなどが多いところ
  3. 暖房器具などの熱が当たるところ

ディスクのお手入れのしかた

- ディスクに指紋や汚れが付いたときは、汚れをふき取ってからご使用ください。
- ふき取りには、市販のディスククリーニングセットまたは柔らかい布などをご使用ください。

内周から外周方向へ軽くふく。

円周に沿ってはふかない。

ご注意

レコードスプレー・帯電防止剤や、ベンジン・シンナーなどの揮発性の薬品は、使用しないでください。

著作権について

- ディスクを無断で複製、放送、公開演奏、レンタルすることは法律により禁止されています。
- 本項目は、著作権保護技術を採用しており、米国特許および Rovi 株式会社のその他の知的財産権によって保護されています。分解したり、改造したりすることも禁じられています。
- 本製品の一部は、ARIS/SOLANA/4C の許諾のもと提供され、著作権法によって保護されています。

その他の情報

デジタル信号音声出力について

本機はメディアに収録されているデジタル音声信号のフォーマットを変換して出力できます。接続する機器の仕様に合わせて、デジタル音声信号を設定してください。

- プロジェクターなどの HDMI モニターによっては音声信号入力に対応していない場合があります。
  そのような機器と本機を接続した場合、音声出力は HDMI 端子から出力されません。

<table>
<tr><th rowspan="2">メディア／ファイル</th><th rowspan="2">音声フォーマット</th><th>アナログ音声出力端子</th><th colspan="2">デジタル音声出力端子(同軸)</th><th colspan="2">HDMI 出力端子 (*1,*2,*4)</th></tr>
<tr><th>ミックス 2 チャンネル</th><th>ビットストリーム (*2)
（初期設定）</th><th>PCM</th><th>ビットストリーム (*2)
（初期設定）</th><th>PCM</th></tr>
<tr><td rowspan="6">BD</td><td>ドルビーデジタル</td><td rowspan="23">2ch リニア PCM</td><td rowspan="3">ドルビーデジタル</td><td rowspan="19">2ch リニア PCM</td><td>ドルビーデジタル</td><td rowspan="18">マルチリニア PCM(*3)</td></tr>
<tr><td>ドルビーデジタル プラス</td><td>ドルビーデジタル プラス</td></tr>
<tr><td>ドルビー TrueHD</td><td>ドルビー TrueHD</td></tr>
<tr><td>DTS</td><td rowspan="2">DTS デジタルサラウンド</td><td>DTS デジタルサラウンド</td></tr>
<tr><td>DTS-HD</td><td>DTS-HD</td></tr>
<tr><td>リニア PCM</td><td>2ch リニア PCM</td><td>マルチリニア PCM</td></tr>
<tr><td rowspan="3">BD-R/-RE</td><td>ドルビーデジタル</td><td>ドルビーデジタル</td><td>ドルビーデジタル</td></tr>
<tr><td>MPEG-2 AAC</td><td>MPEG-2 AAC(*7)</td><td>MPEG-2 AAC(*6)</td></tr>
<tr><td>リニア PCM</td><td>2ch リニア PCM</td><td>マルチリニア PCM</td></tr>
<tr><td rowspan="2">AVCHD</td><td>ドルビーデジタル</td><td>ドルビーデジタル</td><td>ドルビーデジタル</td></tr>
<tr><td>2ch リニア PCM</td><td>2ch リニア PCM</td><td>マルチリニア PCM</td></tr>
<tr><td rowspan="3">DVD ビデオ</td><td>ドルビーデジタル</td><td>ドルビーデジタル</td><td>ドルビーデジタル</td></tr>
<tr><td>DTS デジタルサラウンド</td><td>DTS デジタルサラウンド</td><td>DTS デジタルサラウンド</td></tr>
<tr><td>リニア PCM</td><td rowspan="2">2ch リニア PCM</td><td>2ch リニア PCM</td></tr>
<tr><td>DVD オーディオ</td><td>リニア PCM / P.PCM</td><td>マルチリニア PCM</td></tr>
<tr><td rowspan="2">DivX®(*8)</td><td>ドルビーデジタル</td><td>ドルビーデジタル</td><td>ドルビーデジタル</td></tr>
<tr><td>MP3, MP2</td><td>2ch リニア PCM</td><td>2ch リニア PCM</td></tr>
<tr><td rowspan="3">スーパーオーディオ CD</td><td>マルチエリア</td><td rowspan="2">音声出力しない</td><td rowspan="2">DSD(*5)</td></tr>
<tr><td>ステレオエリア</td><td>2ch リニア PCM</td></tr>
<tr><td>CD レイヤー</td><td colspan="4" rowspan="2">2ch リニア PCM</td></tr>
<tr><td colspan="2">CD, MP3, WMA</td></tr>
<tr><td colspan="2">AAC</td><td colspan="2"></td><td>AAC(*6)</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">DTS-CD</td><td>DTS デジタルサラウンド</td><td>2ch リニア PCM</td><td>DTS デジタルサラウンド</td><td>マルチリニア PCM</td></tr>
</table>

*1： 接続している HDMI 機器の対応している音声フォーマットやチャンネル数にあわせて自動で出力フォーマットを変更します。

*2： “BD オーディオモード”を“MIX Audio Output” に設定したとき、第 2 音声とインタラクティブオーディオが混合されて出力されます。（☞ ページ 11, 29）

*3： DTS-HD MA の 5.1ch/192kHz のコンテンツは 5.1ch/96kHz で出力されます。

*4： 接続している HDMI 機器がドルビーデジタルプラス、ドルビー TrueHD、または DTS-HD に対応していないときは、ドルビーデジタル、または DTS デジタルサラウンドのビットストリームで出力します。ドルビーデジタル、または DTS デジタルサラウンドのビットストリームに対応していないときは、マルチリニア PCM、または 2ch リニア PCM で出力されます。

*5： 接続している HDMI 機器が DSD に対応していないときは、リニア PCM 出力されます。
HDMI 出力端子から DSD 信号を出力しているとき、アナログ音声出力端子からの出力をミュートします。

*6： AAC 信号に対応していない HDMI 機器と接続した場合、出力信号はリニア PCM として出力されます。

*7： AAC 信号に対応していない HDMI 機器と接続した場合、出力信号は出力されません。

*8： HE-AAC 信号に対応していない HDMI 機器と接続した場合、出力信号は出力されません。

著作権保護システムについて

HDMI 接続を通して BD ビデオや DVD ビデオなどのデジタル映像と音声を再生するためには、プレーヤーとテレビや AV レシーバーなどの双方が HDCP（High-bandwidth Digital Content Protection System）と呼ばれる著作権保護システムに対応している必要があります。HDCP はデータの暗号化と相手機器の認証からなるコピープロテクション技術です。本機は HDCP に対応しています。

ご注意

HDCP に対応していない機器を接続した場合は、映像と音声を正しく出力しません。お手持ちのテレビや AV レシーバーなどについては取扱説明書をご覧ください。

登録商標について

本製品は、次の技術を採用しています。（順不同）

Blu-ray Disc™	“Blu-ray Disc™” および “Blu-ray Disc” ロゴは Blu-ray Disc Association の商標です。
Blu-ray 3D™	“Blu-ray 3D™” および “Blu-ray 3D™” ロゴは、Blu-ray Disc Association の商標です。
BD LIVE™	“BD-LIVE” ロゴは Blu-ray Disc Association の商標です。
BONUS VIEW™	“BONUSVIEW” は Blu-ray Disc Association の商標です。
AVCREC™	”AVCREC” および ”AVCREC” ロゴは、Blu-ray Disc Association の商標です。
DVD	DVD フォーマットロゴライセンシング（株）の商標です。
HDMI	HDMI、HDMI ロゴおよび High-Definition Multimedia Interface は、米国内や他の国における HDMI Licensing, LCC の商標または登録商標です。
Java POWERED	Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. の商標または登録商標です。
DOLBY TRUE HD	ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー、Pro Logic およびダブル D 記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。
dts-HD Master Audio Essential	本機は DTS, Inc. からのライセンス契約に基づき製造されています。米国特許第 5,451,942 号、5,956,674 号、5,974,380 号、5,978,762 号、6,226,616 号、6,487,535 号、7,392,195 号、7,272,567 号、7,333,929 号、7,212,872 号、その他、米国内および国外特許もしくは特許出願物。DTS のロゴ、シンボル、DTS-HD および DTS-HD Master Audio | Essential は、DTS, Inc. の商標です。本機はソフトウェアが含まれます。DTS, Inc. 版権所有。

Plays Windows Media™	Windows、Windows Media は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
DivX PLUS HD	DivX®、DivX Certified®、DivX Plus™ HD および関連するロゴは、DivX, Inc. の商標です。これらの商標は、DivX, Inc. の使用許諾を得て使用しています。
AVCHD	“AVCHD” および “AVCHD” ロゴはパナソニック株式会社とソニー株式会社の商標です。
x.v.Color	“x.v.Color” および “x.v.Color” ロゴはソニー株式会社の商標です。
Kodak Picture CD COMPATIBLE	Kodak Picture CD COMPATIBLE はイーストマン・コダック社の登録商標です。
dlna CERTIFIED™	DLNA®、DLNA ロゴ、および DLNA CERTIFIED® は Digital Living Network Alliance の商標、サービスマーク、または認証マークです。 製品のカテゴリー：DMP（デジタルメディアプレーヤー） DLNA Certified® 製品機能：FINDS, PLAYS コンテンツタイプ：音声、画像、映像（サポートされたメディア形式を確認してください） DLNA 顧客向けウェブサイト：www.dlna.org コンテンツによっては他の DLNA Certified® 製品と互換性を持たない場合があります（例：オプションのメディア形式）。
YouTube	YouTube および YouTube ロゴは、Google Inc. の登録商標です。

用語の解説

数字

4：3 パンスキャン
4：3 のテレビと本機を接続しワイド（16：9）ディスクを再生したときに、ディスクの制御情報にしたがって再生画像の左右をカットし 4：3 のサイズにする機能です。

4：3 レターボックス
4：3 のテレビと本機を接続しワイド（16：9）ディスクを再生したときに、上下に黒い帯のある画像で再生される機能です。

アルファベット

AAC（アドバンストオーディオコーディング）
MPEG-2 AAC は、日本のデジタル放送（BS、CS、地上波）で採用されている音声高圧縮率符号化技術です。MPEG4 AAC は、携帯型のメディアプレーヤーで多く利用されている音声圧縮符号技術です。

AVCHD
AVCHD は、ビデオカメラで撮影した高精細なハイビジョン映像を 8cmDVD 記録用ディスクまたは SD カード上に記録できる、新しいフォーマットの名称です。

AVCREC
AVCREC は、ハイビジョン映像を DVD に記録するための規格の名称です。

BD-J (Java)（ビーディージェイ）
BD ビデオでは、Java アプリケーションを利用した、よりインタラクティブな機能（ゲームなど）を楽しめるソフトがあります。

BD-LIVE（ビーディーライブ）
本機をインターネットに接続して、特別映像や字幕などの追加コンテンツや、ネットワーク対戦ゲームなどさまざまな機能を楽しむことができます。

Bonus View（ボーナスビュー）
BD ビデオの特典映像です。映画監督のコメントや、同時進行のサブストーリー、別アングルの映像などがあります。

Deep Color（ディープカラー）
従来の 8 ビットの色数を超える色調表現が可能な技術で、色縞のない、より自然に近い色を再現することができます。

Default Gateway（デフォルトゲ - トウェイ）
このデバイスは、内部ネットワークと外部ネットワーク（インターネットなど）との間の出入り口です。

DHCP（ダイナミックホストコンフィグレーションプロトコル）
本機やパソコン、ブロードバンドルータのようなネットワーク機器に、自動的に IP アドレスなどのネットワーク設定をおこなう仕組みのこと。

DivX
DivX, Inc. が開発したビデオコーデック（動画圧縮伸張ソフトウェア）です。「MPEG-4 Part 2」（「MPEG-4 ASP」として知られている）をベースにした圧縮技術です。
高い画像品質を保ちながら、長時間のビデオを小さいファイルに圧縮できます。無料の「DivX」と、有料の「DivX PRO」の 2 種類があります。

DLNA
Digital Living Network Alliance の略語。
ホームネットワークにおける AV 機器とコンピューターの相互接続や音楽、静止画、および動画の各データの相互利用の仕様を策定するために設立された業界団体です。
本機は、「DLNA Home Networked Device Interoperability Guidelines」に準拠しています。
本機は著作権保護規格の DTCP-IP に対応しています。著作権保護されたデジタル放送などの録画映像をネットワーク経由で視聴することができます。

DNS (Domain Name System)
インターネット上のホスト名と IP アドレスとを照合するシステム。

Dolby Digital (5.1-ch Surround)
ドルビーデジタル (5.1ch サラウンド)。
ドルビーラボラトリーズによって開発された立体音響効果。最大 5.1 チャンネルで構成される、独立型マルチチャンネル音声システムです。

DTCP-IP
DTCP-IP (Digital Transmission Content Protection over Internet Protocol) とは、著作権保護付きのデジタル放送などのデータ配信をするための規格です。デジタル放送などの録画映像をネットワーク経由で視聴する際には、DTCP-IP に対応したサーバーが必要になります。

DTS（ディーティーエス）
Digital Theater System の略で、DTS 社が開発した、デジタル音声システムです。DTS 対応レシーバーなどと接続して再生すると、映画館のような正確な音場定位と臨場感のある音響効果が得られます。

DTS-HD（ディーティーエスエイチディー）
ブルーレイ・ディスクのオプション音声として採用された、従来の DTS をさらに高音質・高機能化したデジタル音声技術です。多チャンネル、高データ転送速度、高サンプリング周波数や、ロスレス・オーディオ再生をサポートしています。ブルーレイ・ディスクでは、最大 7.1 チャンネルまで対応しています。

HDCP（エイチディーシーピー）
機器間でデジタル信号を送受信する際に、信号を暗号化し、コンテンツが不正にコピーされるのを防止する著作権保護技術の一つです。

HDMI（エイチディーエムアイ）
High-Definition Multimedia Interface の略で、テレビやレシーバーなどと接続できる AV 用のデジタルインターフェースです。映像信号と音声信号を 1 本のケーブルで接続できます。

IP アドレス
各ネットワークデバイスに割り当てられる識別番号。

JPEG (Joint Photo graphic Experts Group)
静止画像データの圧縮方式のひとつです。ファイル容量を小さくできる割に画質の低下が少ないため、デジタルカメラの保存方式などで広く使われています。

LAN (Local Area Network)
デバイス間を接続する有線または無線のネットワーク。

LFE（エルエフイー）
Low Frequency Effect の略で、低音部の効果音を強調するための出力チャンネルです。20Hz ～ 120Hz の重低音を出力することで、サラウンド音声に迫力を加えることができます。

MAC アドレス
LAN カードなどのネットワークデバイスの固有識別番号。

MP3 (MPEG AudioPlayer 3)
音声データ圧縮方式のひとつで、国際的な標準規格です。映像圧縮方式の「MPEG-1」に採用されています。音楽 CD 並の音質を保ったままデータ量を約 1/11 に圧縮できます。

MPEG（エムペグ）
Moving Picture Experts Group の略で、動画音声圧縮方式の国際標準です。BD や DVD の映像は、この方式で収録されています。

Proxy（プロキシ）
内部ネットワークからインターネット接続をおこなう際、高速なアクセスおよび安全な通信を確保するための中継機器です。

WMA（Windows Media Audio）
米国 Microsoft Corporation によって開発された音声圧縮技術です。
WMA データは、Windows Media® Player Ver.7、7.1、Windows Media®Player for Windows® XP、またはWindows Media® Player 9 Series を使用してエンコード（符号化）することができます。
WMA ファイルは、米国 Microsoft Corporation より認証を受けたアプリケーションを使用してエンコードしてください。もし、認証されていないアプリケーションを使用すると、正常に動作しないことがあります。
x.v.Color
色の表現がより正確になり、自然で生き生きとした映像を表現することが可能になります。"x.v.Color" はソニーの登録商標です。
YouTube
YouTube 社が運営する動画コンテンツ共有サイトです。

ア行

アスペクト比（縦横比）
テレビ画面の縦横比率です。従来のテレビ画面の比率は 4：3 で、ワイドスクリーンテレビの画面の比率は 16：9 です。
インターレース（飛び越し走査）テレビに映像を映すときに従来から行われている方式で、映像の 1 フレームを 2 つのフィールドとして半分ずつ表示します。
インタラクティブオーディオ
BD ビデオのタイトルなどに収録されている、操作しているときのクリック音などの音声です。
音声コメント
DVD-Video や BD-Video の特典としてつけられる音声プログラムです。マルチ音声機能を利用して、スタッフ等が実際の映像に対して解説や実況中継した音声を収録しています。

サ行

視聴制限
視聴者の年齢に合わせ、暴力シーンなどを含む BD ビデオや DVD ビデオの再生を制限する機能です。本機では、BD ビデオは 0～254、DVD ビデオは 1～8 のレベルで視聴制限を設定できます。
セカンダリーオーディオ（第 2 音声）
BD ビデオのボーナスビューに収録されている映画監督のコメントなどの音声信号です。
セカンダリーサブタイトル
BD ビデオのボーナスビューに収録されている映画監督のコメントなどの字幕です。
サンプリング周波数
サンプリングとは、音の波（アナログ信号）を一定時間の間隔で刻み、刻まれた波の高さを数値化（デジタル信号化）することです。
1 秒間に刻む回数をサンプリング周波数といい、この数値が大きいほど原音に近い音を再現できます。
サブネットマスク
ネットワークを識別するためにネットワークアドレス用に予約された IP アドレスのビットを定義する 32 ビットの値

タ行

タイトル
BD ビデオや DVD ビデオのチャプターから構成されるコンテンツ単位です。BD や DVD ビデオには複数のタイトルを含むものがあります。
ダイナミックレンジ
機器が出すノイズに埋もれてしまわない最小音と、音割れしない最大音との音量差のことです。
ダウンミックス
サラウンド音声のチャンネル数を、より少ないチャンネル数に変換して再生する機能です。
チャプター
BD ビデオや DVD ビデオのタイトルを構成している制作者が意図した区切りです。チャプターサーチ機能ではこの区切りの先頭にサーチします。
ドルビー TrueHD
ブルーレイ・ディスクのオプション音声として採用されたロスレス符号化技術で、7.1 チャンネルに対応しています。
ドルビーデジタル（5.1ch サラウンド）
ドルビーラボラトリーズが開発した立体音響効果のことです。最大 5.1 チャンネルの独立したマルチチャンネルオーディオシステムです。
ドルビーデジタルプラス
ドルビーデジタルの拡張版で、ブルーレイ・ディスクのオプション音声として採用された高音質デジタル音声技術です。

ハ行

ピクチャー・イン・ピクチャー
主映像で本編を視聴しながら、副映像でメイキングやコメンタリーなどの映像を視聴する BD ビデオの機能です。
ビットレート
ディスクに収録された映像・音声のデータを 1 秒間に読み込む量をあらわします。
ファイナライズ
BD/DVD/CD などのレコーダーで収録したディスクを、ほかのプレーヤーで再生できるようにするための処理です。
プライマリーオーディオ（第 1 音声）
BD ビデオの本編などに収録されている音声信号です。
プライマリーサブタイトル（第 1 字幕）
BD ビデオの本編などに収録されている字幕です。
プライマリービデオ
BD ビデオの本編などに収録されている映像信号です。
ブルーレイ・ディスク
片面 1 層のディスクで 25GB の容量を持つ、ハイビジョン映像の映画やゲームなどの収録に対応したディスクです。
プログレッシブ（順次走査）
映像の 1 フレームを 1 つの画像として表示する映像信号の走査方式です。インターレース方式に比べ画像のちらつきやにじみが少ない映像を再生できます。
ポップアップメニュー
BD ソフトに収録されているメニューです。BD の再生中に画面手前に表示してメニューを操作できます。

ラ行

リージョンコード
BD ビデオや DVD ビデオを再生できる国や地域を示すコードです。
リニア PCM
圧縮していない PCM（Pulse Code Modulation）信号です。CD の音声と同じ方式ですが、BD や DVD では 192kHz、96kHz、48kHz などのサンプリング周波数を用いており、CD よりも高音質の音声が楽しめます。

故障かな？と思ったら

1. 各接続は正しいですか
2. 取扱説明書に従って正しく操作していますか
3. その他の機器は正しく動作していますか

本機が正常に動作しないときは、次の表に従ってチェックしてみてください。
なお、この表の各項にも該当しない場合は本機の故障とも考えられますので、お買い上げの販売店にご相談ください。もし、お買い上げの販売店でお分かりにならない場合は、当社のお客様相談センターまたはお近くの修理相談窓口にご連絡ください。

【 共通 】

症　状	原　因 / 対　策	関連ページ
電源が入らない。	• 電源コードは本体背面にしっかりと接続されていますか。 • 電源プラグを電源コンセントへしっかりと差し込んでください。 • 安全保護装置が働いていることがあります。このときは一度電源プラグをコンセントから抜き、5 ～ 10 秒後に再びコンセントに差し込んでください。	10 10 10
▶ を押しても、再生が始まらない。または、すぐに停止する。	• 本機内部またはディスクに結露が発生していませんか。（電源を切ったまま、1 ～ 2 時間放置してください。） • ディスクに傷があったり、指紋などで汚れたりしている場合は、正常に再生できない場合があります。ディスクを清掃するか、傷のないディスクと取り替えて再生してください。 • ディスクが裏返しに入っていませんか。再生したい記録面を下にして正しく入れ直してください。 • 再生できないディスクが入っていませんか。 • ディスクが入っていません。ディスクを入れてください。	10 53 11 50 11
ディスクを取り出しても壁紙の画面が表示されない。	• 内部エラーが発生している可能性があります。一度電源をスタンバイにして、しばらく経ってから再び電源を入れてください。	10
各ボタン操作ができない。または、本機が反応しない。	• ディスクによってはその操作を禁止している場合があります。 • 安全保護装置が働いていることがあります。このときは、一度電源プラグをコンセントから抜き、5 ～ 10 秒後に再びコンセントに差し込んでください。 • ディスクの説明書をお読みください。	18 10 –
アングルを変えて見ることができない。	• 複数のアングルが収録されていない BD ビデオまたは DVD ビデオは、アングルを切り替えられません。また、複数のアングルは特定の場面のみ収録されているものがあります。	25
タイトルを選択しても再生が始まらない。	• 視聴制限によって再生を禁止している可能性があります。GUI メニューの“視聴制限設定”の設定を確認してください。	40
視聴制限で設定したパスワードを忘れた。	• GUI メニューの“システム”⇨“初期化”を実行してください。	39

【 映像 】

症　状	原　因 / 対　策	関連ページ
映像が映らない。	• テレビの入力切り替えを本機の入力に切り替えていますか。 • ピュアダイレクト機能が "Pure Direct 1" または "Pure direct 2" になっていませんか。“オフ”にしてください。 • 映像 / コンポーネント映像ケーブルの接続を確認してください。 • リモコンの **HDMI MODE** を押して、“24p Output On” に設定していますか？設定されていると、特定ディスクの再生中、映像端子やコンポーネント映像端子からは映像を出力しません。 • 解像度の設定が、接続先の機器の解像度に合っていますか。 • リモコンの **RESOLUTION** を押して、接続先の機器が対応している解像度に設定していますか。解像度を設定してください。 • 映像ケーブルがしっかりと接続されていません。映像ケーブルをしっかりと接続してください。 • HDMI 出力端子の接続先が機器の DVI 入力端子に接続していませんか？ DVI 接続では HDCP に対応していないため、映像を正しく出力しません。	9-10 25-26 14、15 26 27 27 14～16 16、55
映像が映らない。または、映像が乱れる。BD ビデオや DVD ビデオの映像が、白黒画像になる。	• 早送り / 早戻しをした直後などでは、多少画像が乱れることがありますが、故障ではありません。 • 本機の映像 / コンポーネント映像出力は直接テレビに接続するか、AV レシーバーを経由してテレビに接続してください。VTR（ビデオテープレコーダー）経由で接続しないでください。ディスクによってはコピー禁止信号が入っているものがあり、そのようなディスクを VTR を通して再生するとコピーガードシステムにより、画面が乱れることがあります。 • 本機が対応していないディスクや、異なるリージョンコードのディスクが入っていませんか。（本機が対応しているリージョンコードは、BD ビデオは「A」、DVD ビデオは「2」または「ALL」です。）	22 16 20
再生中に画像が動かなくなる。	• ディスクに傷があったり、指紋などで汚れたりしている場合は、正常に再生できない場合があります。ディスクを清掃するか、傷のないディスクと取り替えて再生してください。 • ディスクに記録されたデータの中に、問題がある可能性があります。	53 50
字幕が出ない	• 字幕の入っていない BD ビデオ、DVD ビデオまたは DivX® ファイルは字幕が表示されません。 • 字幕の設定が“オフ” になっていませんか。ディスクメニューかまたは **SUBTITLE** で表示させる字幕を設定してください。	25 25

【音声】

症　状	原　因 / 対　策	関連ページ
HD オーディオ音声を出力しない。	• "BD オーディオモード" を "HD Audio Output" に設定してください	11、29
音声が出ない。または、聞きづらい。	• 音声接続をしている機器やスピーカーの接続を確認してください。 • 音声接続をしている機器の電源は入っていますか。また、入力切り替えを本機の入力に切り替えていますか。 • 音声出力の選択は正しくおこなわれていますか。	14～17 10 11、24、54
音声が出ない。	• 早送り、早戻し、スロー再生、一時停止のときは、音声が出力しません。通常再生に戻してください。 • HDMI 出力端子の接続先が機器の DVI 入力端子に接続していませんか？ DVI 接続では HDCP に対応していないため、音声を正しく出力しません。 • ピュアダイレクト機能が "Pure Direct 1" または "Pure direct 2" になっていませんか。"オフ" にしてください。	24 16、55 26
インターラクティブ音声が出力されない。	• MODE 設定で "BD オーディオモード" を "Mix Audio Ouput" に設定してください。	11、29
マルチチャンネル音声が出力されない。	• マルチチャンネルの音声を選択していますか？リモコンの **AUDIO** を押して、ディスクの音声をマルチチャンネルに音声に切り替えてください。	24
デジタル音声出力端子から 192 kHz のデジタル音声が出力できない。	• GUI メニュー設定で、"オーディオ出力" - "ダウンサンプリング" が 192kHz に設定されていません。192 kHz に設定してください。 • 再生するディスクの収録されているコンテンツの著作権が保護されています。ダウンサンプリングを 192 kHz に設定しても、デジタル音声出力端子からは 48 kHz で出力されます。	43 43

【HDMI】

症　状	原　因 / 対　策	関連ページ
HDMI 接続で映像や音声が出力されない。	• HDMI ケーブルの接続を確認してください。 • 本機のディスプレイの "HDMI" 表示が点灯していますか。 • ピュアダイレクト機能が "Pure Direct 1" または "Pure direct 2" になっていませんか。"オフ" にしてください。 • 本機を接続したテレビや AV レシーバーなどは HDCP に対応していますか。HDCP に対応していない機器を接続した場合は、正常に映像が出力されません。お手持ちのテレビや AV レシーバーなどについては取扱説明書をご覧ください。 • HDMI 映像解像度の設定が、接続先の機器で対応している解像度か確認してください。"Auto" にすると本機が自動で設定します。	9 46 26 55 27
HDMI 接続で映像や音声が出力されない。	• 本機の電源をオフにし、再度オンにしてください。 • 接続先の電源をオフにし、再度オンにしてください。 • HDMI ケーブルを抜き、再度接続してください。 • AV レシーバーと接続している場合、直接 TV に接続して映像および音声の出力を確認してください。問題なく出力したとき、再度 AV レシーバーと接続し、AV レシーバーの設定を確認してください。	9、10 9、10 9、10 –

【USB メモリー】

症　状	原　因 / 対　策	関連ページ
USB メモリーが読み込まれない。	• USB メモリーのフォーマットが本機の対応していないフォーマットになっている。または互換性のない USB メモリーを使用している。 • 再生メディアモードは "USB MODE" になっていますか。**SOURCE** で "USB" を選択してください。	39 33、34
USB メモリーのデータが表示されない（読めない）	• 対応のフォーマットで初期化されていますか？（FAT16/FAT32） • ハブを使用していませんか？使用している場合、直接本機の USB ポートに USB メモリーを接続してください。 • 延長ケーブルを使用していませんか？使用している場合、直接本機の USB ポートに USB メモリーを接続してください。 • 本機で対応するコンテンツで保存していますか？ "ファイル" で対応するコンテンツを確認してください。 • 192MB 以下の USB メモリーを FAT32 でフォーマットすると読み込めない場合があります。その場合は FAT16 でフォーマットしてください。 • 暗号化などの処理が行われている USB メモリーには対応していません。	31、39 31 31、50 51 31、50 –
USB メモリーが認識されない	• USB メモリーによっては本機から供給する電力で動作できない場合があります。USB 本機から USB メモリーに供給する電力は 5V/1A です。本機の仕様に合った USB メモリーをご使用ください。 • USB メモリーが USB ポートにしっかり接続されているか確認してください。	– 31
"." で始まるファイルが再生できない。	• Mac の OSX 等で作成したコンテンツを USB メモリーにコピーした場合、隠しファイルも同時にコピーされます。このファイルは拡張子はコンテンツの拡張子と同じ表示をしますが、実際はコンテンツではありません。 Windows PC 等でファイルを削除してください。	–
BD-LIVE/ ボーナスビュー再生ができない。	• USB メモリーの空き容量が 1GB 以上ありますか。 • 本機で USB メモリーを初期化していますか。 • 電源を入れた状態で USB メモリーを装着していませんか。（スタンバイ状態で USB メモリーを装着してください。）	20 39 31

【 ディスク 】

症　状	原　因 / 対　策	関連ページ
再生可能ディスクが読み込まれない。	• ピックアップレンズが汚れている可能性があります。修理に出される前に、市販のレンズクリーナーでレーザーピックアップを清掃してください。（ハケ付きのクリーナーはレンズに傷を付ける恐れがありますので使用しないでください。）	–
ディスク再生できない。	• 録画後のファイナライズが正しくされていない。ファイナライズをおこなってください。	50

【 ネットワーク 】

症　状	原　因 / 対　策	関連ページ
ネットワークにつながらない。	• LAN ケーブルが接続されていない。ネットワークの接続を見直してください。 • IP アドレスが正しくない。ネットワークの接続を見直してください。 • ファイアウォールによって接続が制限されている。本機との通信を許可してください。	32 41 32
サーバーが見つからない。	• サーバーが起動していない。サーバーを起動してください。 • サーバーが本機を認証していない。サーバー側で本機を認証してください。 • 本機がサーバーを認識していない。サーバーリストの再取得を行ってください。	33 32 34
メディアプレーヤーが応答しない。	• リストのファイル数が多く処理に時間がかかっている。処理が終わるまでお待ちください。 • 複数のサーバーが起動中または情報更新中である。処理が終わるまでお待ちください。 • メディアプレーヤーが操作を受け付けない。メディアプレーヤー画面で DLNA サーチを選択してください。	51 – 33
ファイルリストを取得できない。	• サーバーがファイルリストを構築している。サーバーがファイルリストを構築するまでに時間がかかるものがあります。その場合は構築が終了するまでお待ちください。 • サーバーが登録可能なファイル数を超えている。サーバーが登録可能な範囲にファイル数・ファイル形式を制限してください。詳しくはサーバーの説明書を参照してください。 • サーバーが対応していない文字をファイル名などに使用している。サーバーが登録可能な範囲にファイル数・ファイル形式を制限してください。詳しくはサーバーの説明書を参照してください。	– – –
著作権保護されたファイルが再生できない。	• 著作権保護されたファイルを再生するには、サーバー側が DTCP-IP 規格に対応している必要があります。ご使用中のサーバーが DTCP-IP に対応しているかご確認ください。 • Windows DRM のコンテンツには対応していません。	51 51
再生や次のファイルに切り替わるまで時間がかかる。	• ファイルのサイズが大きい。故障ではありません。 • DRM 保護コンテンツを再生している。故障ではありません。	51 51
ファイルリストが表示されるまで時間がかかる。	• リスト内のファイル数が多い。ランダムプレイ中 サーバー内のファイルが多いほどリスト取得まで時間がかかります。接続するサーバー数を減らすか、サーバーに登録しているファイルを減らしてください。	50
再生可能ファイル形式なのに再生できない。	• サーバーがそのファイル形式に対応していない。再生可能なファイルは本機の対応形式とサーバーの対応形式両方に依存します。サーバーの説明書を参照してください。 • ネットワーク帯域の不足により、ネットワーク内の通信が混雑している場合があります。他の機器の通信を停止させるか、ネットワーク環境を見直してください。	51 32、36
再生が途切れる。	• ファイルのビットレートが高すぎる。ネットワーク内の通信が混雑している場合があります。他の機器の通信を停止させるか、ネットワーク環境を見直してください。	51

【BD-Live】

症　状	原　因 / 対　策	関連ページ
BD-Live 機能が動作しない。	• 接続テストをおこなってください。“ネットワークは失敗です。” の場合はネットワークケーブルの接続状態、設定を確認してください。 • BD-Live 機能を使用する際、使用しているブロードバンドのスピードが十分でない。Internet Service Provider (ISP) に確認し、ブロードバンドの推奨スピードに変更してください。 • ディスクが BD-Live™ に対応しているか確認してください。 • USB メモリー にデータをダウンロードしても、動作しない場合は、本機で USB メモリーをフォ - マットし直してください。 • “ネットワーク” の “BD-Live 接続” の設定で “禁止” になっている。“許可” に設定してください。	41 20 – 39 41
BD-Live の映像が再生できない。	• 内蔵メモリーまたは USB メモリー にダウンロードしたコンテンツは BD ビデオのコンテンツの一部としてディスク製作者により、提供されています。USB メモリー に BD-Live™ の映像や音声のコンテンツをコピーし、（本機以外の）USB メモリー だけでは再生できません。	20

【YouTube】

症　状	原　因 / 対　策	関連ページ
ストリーミングビデオサービス再生中に再生が時々止まる。	• YouTube 機能を使用する際、使用しているブロードバンドのスピードが十分でない。Internet Service Provider (ISP) に確認し、ブロードバンドの推奨スピードに変更してください。	32

【 リモコン 】

症　状	原　因 / 対　策	関連ページ
リモコンで操作できない。	• リモコン受光部に向けて操作していますか。 • リモコン受光部との距離が 7m 以内のところで操作してください。 • リモコン受光部との間にある障害物を取り除いてください。 • 乾電池が消耗していますので、新しい乾電池に交換してください。 • 乾電池は、⊕ ⊖ を確かめて正しく入れてください。 • リモコンと本体のリモコンコードは合っていますか。 • 受光部に直接日光やインバーターの蛍光灯の強い光が当たっていませんか？受光部に光が当たらないようにしてください。	49 49 49 49 49 49 49
他の DENON 製機器のリモコンで動作する。	• 本機は他の DENON 製品のリモコンで動作させることができます。 • 他の機器のリモコンで動作させたくない場合は、GUI メニューの “その他” ⇨ “レガシーリモコン受信設定” を “オフ” に設定してください。	42 42

- 機能によっては一部の操作状態で使用できないことがありますが、これは故障ではありません。正しい操作方法については、本文の説明をよくお読みください。
- ディスクにより音量が異なることがありますが、ディスクの記録方式の違いによるもので故障ではありません。
- プログラム再生中は、ランダム再生や希望するトラックまたはファイルからの再生はできません。
- ディスクによっては使えない機能もあります。

保障と修理について

❑保証書について

この製品には保証書が添付されております。保証書は、必ず「販売店名・購入日」などの記入を確かめて販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの上、大切に保管してください。

保証期間はご購入日から 1 年間です。

保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。
詳しくは保証書をご覧ください。

ご注意

保証書が添付されない場合は、有料修理になりますので、ご注意ください。

保証期間経過後の修理

修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により、有料修理致します。
有料修理の料金については、「製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内」に記載の、お近くの修理相談窓口へお問い合わせください。

❑修理を依頼されるとき

修理を依頼される前に

- 取扱説明書の「故障かな？と思ったら」の項目をご確認ください。
- 正しい操作をしていただけずに修理を依頼される場合がありますので、この取扱説明書をお読みいただき、お調べください。

修理を依頼されるとき

- 添付の「製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内」に記載の、お近くの修理相談窓口へご相談ください。
- 修理を依頼されるときのために、梱包材は保存しておくことをおすすめします。

❑依頼の際に連絡していただきたい内容

- お名前、ご住所、お電話番号
- 製品名 ……. 取扱説明書の表紙に表示しています。
- 製造番号 … 保証書と製品背面に表示しています。
- できるだけ詳しい故障または異常の内容

❑補修部品の保有期間

本機の補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後 8 年です。

❑お客様の個人情報の保護について

- お客様にご記入いただいた保証書の控えは、保証期間内のサービス活動およびその後の安全点検活動のために記載内容を利用させていただく場合がございますので、あらかじめご了承ください。
- この商品に添付されている保証書によって、保証書を発行している者（保証責任者）およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

主な仕様

❏ 本体

信号形式：	NTSC, PAL
対応ディスク / メモリーデバイス：	(1) BD ビデオディスク： 12cm 片面 1 層、12cm 片面 2 層 (2) DVD ビデオ /DVD オーディオ： 12cm/8cm 片面 1 層、12cm/8cm 片面 2 層、 12cm/8cm 両面 2 層（片面 1 層） (3) スーパーオーディオ CD： 12cm1 層、12cm2 層、12cm ハイブリッド (4) コンパクトディスク（CD-DA）： 12cm/8cm ディスク (5) メモリーデバイス： USB メモリー
映像出力：	出力レベル：1Vp-p（75 Ω） 出力端子：ピンジャック 1 系統
コンポーネント映像出力：	Y 出力レベル：1Vp-p（75 Ω） PB/CB、PR/CR 出力レベル：0.7Vp-p（75 Ω） 出力端子：ピンジャック 1 系統
HDMI 出力：	出力端子：19 ピン HDMI 端子 1 系統 HDMI Ver. 1.4a（ディープカラー、ドルビーデジタルプラス、 ドルビー TrueHD、DTS-HD 対応、3D）
アナログ音声出力：	出力レベル：2Vrms（10k Ω） 2 チャンネル出力端子：ピンジャック 1 系統
音声出力特性：	(1) 周波数特性： ① BD（リニア PCM）：2Hz～22kHz（48kHz サンプリング） ：2Hz～44kHz（96kHz サンプリング） ：2Hz～88kHz（192kHz サンプリング） ② DVD（リニア PCM）：2Hz～22kHz（48kHz サンプリング） ：2Hz～44kHz（96kHz サンプリング） ：2Hz～88kHz（192kHz サンプリング） ③ スーパーオーディオ CD：2Hz～40kHz ④ 音楽用 CD：2Hz～20kHz (2) S/N 比：115dB (3) 全高調波歪率：1kHz、0.0025 ％ (4) ダイナミックレンジ：100 dB（BD）
デジタル音声出力：	出力端子：同軸端子 1 系統

❏ 総合

電源：	AC100V　50/60Hz
消費電力：	25W（電気用品安全法による）
（“低消費電力設定”（☞39 ページ））	• 低消費電力スタンバイ時：0.3W • 通常スタンバイ時：0.5W
最大外形寸法：	434（幅）× 107（高さ）× 319（奥行き）mm
質量：	4.2kg

❏ リモコン（RC-1151）

リモコン方式：	赤外線パルス式
乾電池：	単 3 形乾電池 2 本使用
最大外形寸法：	53（幅）× 28（高さ）× 224（奥行き）mm
質量：	155g（乾電池を含む）

※仕様および外観は改良のため、予告なく変更することがあります。

※本機を使用できるのは日本国内のみで、外国では使用できません。

※本機は国内仕様です。
必ず AC100V のコンセントに電源プラグを差し込んでご使用ください。AC100V 以外の電源には絶対に接続しないでください。

索引

ライセンス

ここでは、本機に使われているソフトウェアの利用許諾(ライセンス)について記載しています。
正確な内容を保有するため、原文(英語)を記載しています。

❑ Exhibit-A

GNU GENERAL PUBLIC LICENSE

Version 2, June 1991
Copyright (C) 1989, 1991
Free Software Foundation, Inc., 51 Franklin Street, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301 USA
Everyone is permitted to copy and distribute verbatim copies of this license document, but changing it is not allowed.

Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public License is intended to guarantee your freedom to share and change free software--to make sure the software is free for all its users. This General Public License applies to most of the Free Software Foundation´s software and to any other program whose authors commit to using it. (Some other Free Software Foundation software is covered by the GNU Library General Public License instead.) You can apply it to your programs, too.

When we speak of free software, we are referring to freedom, not price. Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish), that you receive source code or can get it if you want it, that you can change the software or use pieces of it in new free programs; and that you know you can do these things.

To protect your rights, we need to make restrictions that forbid anyone to deny you these rights or to ask you to surrender the rights. These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the software, or if you modify it.

For example, if you distribute copies of such a program, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that you have. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. And you must show them these terms so they know their rights.

We protect your rights with two steps: (1) copyright the software, and (2) offer you this license which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the software.

Also, for each author’s protection and ours, we want to make certain that everyone understands that there is no warranty for this free software. If the software is modified by someone else and passed on, we want its recipients to know that what they have is not the original, so that any problems introduced by others will not reflect on the original authors’ reputations.

Finally, any free program is threatened constantly by software patents. We wish to avoid the danger that redistributors of a free program will individually obtain patent licenses, in effect making the program proprietary. To prevent this, we have made it clear that any patent must be licensed for everyone’s free use or not licensed at all.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow.

GNU GENERAL PUBLIC LICENSE
TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0. This License applies to any program or other work which contains a notice placed by the copyright holder saying it may be distributed under the terms of this General Public License. The “Program”, below, refers to any such program or work, and a “work based on the Program” means either the Program or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Program or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated into another language. (Hereinafter, translation is included without limitation in the term “modification”.) Each licensee is addressed as “you”.
   Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License; they are outside its scope. The act of running the Program is not restricted, and the output from the Program is covered only if its contents constitute a work based on the Program (independent of having been made by running the Program). Whether that is true depends on what the Program does.
1. You may copy and distribute verbatim copies of the Program’s source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and give any other recipients of the Program a copy of this License along with the Program.
   You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.
2. You may modify your copy or copies of the Program or any portion of it, thus forming a work based on the Program, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:
   a) You must cause the modified files to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.
   b) You must cause any work that you distribute or publish, that in whole or in part contains or is derived from the Program or any part thereof, to be licensed as a whole at no charge to all third parties under the terms of this License.
   c) If the modified program normally reads commands interactively when run, you must cause it, when started running for such interactive use in the most ordinary way, to print or display an announcement including an appropriate copyright notice and a notice that there is no warranty (or else, saying that you provide a warranty) and that users may redistribute the program under these conditions, and telling the user how to view a copy of this License.
   (Exception: if the Program itself is interactive but does not normally print such an announcement, your work based on the Program is not required to print an announcement.)

   These requirements apply to the modified work as a whole. If identifiable sections of that work are not derived from the Program, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works. But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Program, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.
   Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Program.
   In addition, mere aggregation of another work not based on the Program with the Program (or with a work based on the Program) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.
3. You may copy and distribute the Program (or a work based on it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you also do one of the following:
   a) Accompany it with the complete corresponding machine-readable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,
   b) Accompany it with a written offer, valid for at least three years, to give any third party, for a charge no more than your cost of physically performing source distribution, a complete machine-readable copy of the corresponding source code, to be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,
   c) Accompany it with the information you received as to the offer to distribute corresponding source code. (This alternative is allowed only for noncommercial distribution and only if you received the program in object code or executable form with such an offer, in accord with Subsection b above.)

   The source code for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. For an executable work, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the executable.
   However, as a special exception, the source code distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable.
   If distribution of executable or object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place counts as distribution of the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.
4. You may not copy, modify, sublicense, or distribute the Program except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense or distribute the Program is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.
5. You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Program or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Program (or any work based on the Program), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Program or works based on it.
6. Each time you redistribute the Program (or any work based on the Program), the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute or modify the Program subject to these terms and conditions. You may not impose any further restrictions on the recipients’ exercise of the rights granted herein.
   You are not responsible for enforcing compliance by third parties to this License.
7. If, as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Program at all. For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Program by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Program.
   If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply and the section as a whole is intended to apply in other circumstances.
   It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system, which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice.
   This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.

8. If the distribution and/or use of the Program is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Program under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.
9. The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns.
   Each version is given a distinguishing version number. If the Program specifies a version number of this License which applies to it and "any later version", you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Program does not specify a version number of this License, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.
10. If you wish to incorporate parts of the Program into other free programs whose distribution conditions are different, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

NO WARRANTY

11. BECAUSE THE PROGRAM IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE PROGRAM, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE PROGRAM "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE PROGRAM IS WITH YOU. SHOULD THE PROGRAM PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.
12. IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE PROGRAM AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE PROGRAM (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE PROGRAM TO OPERATE WITH ANY OTHER PROGRAMS), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

END OF TERMS AND CONDITIONS

How to Apply These Terms to Your New Programs

If you develop a new program, and you want it to be of the greatest possible use to the public, the best way to achieve this is to make it free software which everyone can redistribute and change under these terms.

To do so, attach the following notices to the program. It is safest to attach them to the start of each source file to most effectively convey the exclusion of warranty; and each file should have at least the "copyright" line and a pointer to where the full notice is found.

<one line to give the program's name and a brief idea of what it does.>

Copyright (C) <year> <name of author>

This program is free software; you can redistribute it and/or modify it under the terms of the GNU General Public License as published by the Free Software Foundation; either version 2 of the License, or (at your option) any later version.

This program is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU General Public License for more details.

You should have received a copy of the GNU General Public License along with this program; if not, write to the Free Software Foundation, Inc., 51 Franklin Street, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301 USA

Also add information on how to contact you by electronic and paper mail.

If the program is interactive, make it output a short notice like this when it starts in an interactive mode:

Gnomovision version 69, Copyright (C) year name of author

Gnomovision comes with ABSOLUTELY NO WARRANTY; for details type 'show w'. This is free software, and you are welcome to redistribute it under certain conditions; type 'show c' for details.

The hypothetical commands 'show w' and 'show c' should show the appropriate parts of the General Public License. Of course, the commands you use may be called something other than 'show w' and 'show c'; they could even be mouse-clicks or menu items--whatever suits your program.

You should also get your employer (if you work as a programmer) or your school, if any, to sign a "copyright disclaimer" for the program, if necessary. Here is a sample; alter the names:

Yoyodyne, Inc., hereby disclaims all copyright interest in the program 'Gnomovision' (which makes passes at compilers) written by James Hacker.

<signature of Ty Coon>, 1 April 1989

Ty Coon, President of Vice

This General Public License does not permit incorporating your program into proprietary programs. If your program is a subroutine library, you may consider it more useful to permit linking proprietary applications with the library. If this is what you want to do, use the GNU Library General Public License instead of this License.

❑ Exhibit-B

GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE

Version 2.1, February 1999

Copyright (C) 1991, 1999 Free Software Foundation, Inc.
51 Franklin Street, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301 USA

Everyone is permitted to copy and distribute verbatim copies of this license document, but changing it is not allowed.

[This is the first released version of the Lesser GPL. It also counts as the successor of the GNU Library Public License, version 2, hence the version number 2.1.]

Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public Licenses are intended to guarantee your freedom to share and change free software--to make sure the software is free for all its users.

This license, the Lesser General Public License, applies to some specially designated software packages--typically libraries--of the Free Software Foundation and other authors who decide to use it. You can use it too, but we suggest you first think carefully about whether this license or the ordinary General Public License is the better strategy to use in any particular case, based on the explanations below.

When we speak of free software, we are referring to freedom of use, not price. Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish); that you receive source code or can get it if you want it; that you can change the software and use pieces of it in new free programs; and that you are informed that you can do these things.

To protect your rights, we need to make restrictions that forbid distributors to deny you these rights or to ask you to surrender these rights. These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the library or if you modify it.

For example, if you distribute copies of the library, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that we gave you. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. If you link other code with the library, you must provide complete object files to the recipients, so that they can relink them with the library after making changes to the library and recompiling it. And you must show them these terms so they know their rights. We protect your rights with a two-step method: (1) we copyright the library, and (2) we offer you this license, which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the library.

To protect each distributor, we want to make it very clear that there is no warranty for the free library. Also, if the library is modified by someone else and passed on, the recipients should know that what they have is not the original version, so that the original author's reputation will not be affected by problems that might be introduced by others.

Finally, software patents pose a constant threat to the existence of any free program. We wish to make sure that a company cannot effectively restrict the users of a free program by obtaining a restrictive license from a patent holder. Therefore, we insist that any patent license obtained for a version of the library must be consistent with the full freedom of use specified in this license.

Most GNU software, including some libraries, is covered by the ordinary GNU General Public License. This license, the GNU Lesser General Public License, applies to certain designated libraries, and is quite different from the ordinary General Public License. We use this license for certain libraries in order to permit linking those libraries into non-free programs.

When a program is linked with a library, whether statically or using a shared library, the combination of the two is legally speaking a combined work, a derivative of the original library. The ordinary General Public License therefore permits such linking only if the entire combination fits its criteria of freedom. The Lesser General Public License permits more lax criteria for linking other code with the library.

We call this license the "Lesser" General Public License because it does Less to protect the user's freedom than the ordinary General Public License. It also provides other free software developers Less of an advantage over competing non-free programs. These disadvantages are the reason we use the ordinary General Public License for many libraries. However, the Lesser license provides advantages in certain special circumstances.

For example, on rare occasions, there may be a special need to encourage the widest possible use of a certain library, so that it becomes a de-facto standard. To achieve this, non-free programs must be allowed to use the library. A more frequent case is that a free library does the same job as widely used non-free libraries. In this case, there is little to gain by limiting the free library to free software only, so we use the Lesser General Public License.

In other cases, permission to use a particular library in non-free programs enables a greater number of people to use a large body of free software. For example, permission to use the GNU C Library in non-free programs enables many more people to use the whole GNU operating system, as well as its variant, the GNU/Linux operating system.

Although the Lesser General Public License is Less protective of the users' freedom, it does ensure that the user of a program that is linked with the Library has the freedom and the wherewithal to run that program using a modified version of the Library.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow. Pay close attention to the difference between a "work based on the library" and a "work that uses the library".

The former contains code derived from the library, whereas the latter must be combined with the library in order to run.

GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE
TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0. This License Agreement applies to any software library or other program which contains a notice placed by the copyright holder or other authorized party saying it may be distributed under the terms of this Lesser General Public License (also called "this License"). Each licensee is addressed as "you".
   A "library" means a collection of software functions and/or data prepared so as to be conveniently linked with application programs (which use some of those functions and data) to form executables.
   The "Library", below, refers to any such software library or work which has been distributed under these terms. A "work based on the Library" means either the Library or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Library or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated straightforwardly into another language. (Hereinafter, translation is included without limitation in the term "modification".)
   "Source code" for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. For a library, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the library.
   Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License; they are outside its scope. The act of running a program using the Library is not restricted, and output from such a program is covered only if its contents constitute a work based on the Library (independent of the use of the Library in a tool for writing it). Whether that is true depends on what the Library does and what the program that uses the Library does.
1. You may copy and distribute verbatim copies of the Library's complete source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and distribute a copy of this License along with the Library.
   You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.
2. You may modify your copy or copies of the Library or any portion of it, thus forming a work based on the Library, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:
   a) The modified work must itself be a software library.
   b) You must cause the files modified to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.
   c) You must cause the whole of the work to be licensed at no charge to all third parties under the terms of this License.
   d) If a facility in the modified Library refers to a function or a table of data to be supplied by an application program that uses the facility, other than as an argument passed when the facility is invoked, then you must make a good faith effort to ensure that, in the event an application does not supply such function or table, the facility still operates, and performs whatever part of its purpose remains meaningful.
      (For example, a function in a library to compute square roots has a purpose that is entirely well-defined independent of the application. Therefore, Subsection 2d requires that any application-supplied function or table used by this function must be optional: if the application does not supply it, the square root function must still compute square roots.)
   These requirements apply to the modified work as a whole. If identifiable sections of that work are not derived from the Library, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works. But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Library, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.
   Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Library.
   In addition, mere aggregation of another work not based on the Library with the Library (or with a work based on the Library) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.
3. You may opt to apply the terms of the ordinary GNU General Public License instead of this License to a given copy of the Library. To do this, you must alter all the notices that refer to this License, so that they refer to the ordinary GNU General Public License, version 2, instead of to this License. (If a newer version than version 2 of the ordinary GNU General Public License has appeared, then you can specify that version instead if you wish.) Do not make any other change in these notices.
   Once this change is made in a given copy, it is irreversible for that copy, so the ordinary GNU General Public License applies to all subsequent copies and derivative works made from that copy.
   This option is useful when you wish to copy part of the code of the Library into a program that is not a library.
4. You may copy and distribute the Library (or a portion or derivative of it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you accompany it with the complete corresponding machine-readable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange.
   If distribution of object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place satisfies the requirement to distribute the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.
5. A program that contains no derivative of any portion of the Library, but is designed to work with the Library by being compiled or linked with it, is called a "work that uses the Library". Such a work, in isolation, is not a derivative work of the Library, and therefore falls outside the scope of this License.
   However, linking a "work that uses the Library" with the Library creates an executable that is a derivative of the Library (because it contains portions of the Library), rather than a "work that uses the library". The executable is therefore covered by this License.
   Section 6 states terms for distribution of such executables.
   When a "work that uses the Library" uses material from a header file that is part of the Library, the object code for the work may be a derivative work of the Library even though the source code is not.
   Whether this is true is especially significant if the work can be linked without the Library, or if the work is itself a library. The threshold for this to be true is not precisely defined by law.
   If such an object file uses only numerical parameters, data structure layouts and accessors, and small macros and small inline functions (ten lines or less in length), then the use of the object file is unrestricted, regardless of whether it is legally a derivative work. (Executables containing this object code plus portions of the Library will still fall under Section 6.)
   Otherwise, if the work is a derivative of the Library, you may distribute the object code for the work under the terms of Section 6. Any executables containing that work also fall under Section 6, whether or not they are linked directly with the Library itself.
6. As an exception to the Sections above, you may also combine or link a "work that uses the Library" with the Library to produce a work containing portions of the Library, and distribute that work under terms of your choice, provided that the terms permit modification of the work for the customer's own use and reverse engineering for debugging such modifications.
   You must give prominent notice with each copy of the work that the Library is used in it and that the Library and its use are covered by this License. You must supply a copy of this License. If the work during execution displays copyright notices, you must include the copyright notice for the Library among them, as well as a reference directing the user to the copy of this License. Also, you must do one of these things:
   a) Accompany the work with the complete corresponding machine-readable source code for the Library including whatever changes were used in the work (which must be distributed under Sections 1 and 2 above); and, if the work is an executable linked with the Library, with the complete machine-readable "work that uses the Library", as object code and/or source code, so that the user can modify the Library and then relink to produce a modified executable containing the modified Library. (It is understood that the user who changes the contents of definitions files in the Library will not necessarily be able to recompile the application to use the modified definitions.)
   b) Use a suitable shared library mechanism for linking with the Library. A suitable mechanism is one that (1) uses at run time a copy of the library already present on the user's computer system, rather than copying library functions into the executable, and (2) will operate properly with a modified version of the library, if the user installs one, as long as the modified version is interface-compatible with the version that the work was made with.
   c) Accompany the work with a written offer, valid for at least three years, to give the same user the materials specified in Subsection 6a, above, for a charge no more than the cost of performing this distribution.
   d) If distribution of the work is made by offering access to copy from a designated place, offer equivalent access to copy the above specified materials from the same place.
   e) Verify that the user has already received a copy of these materials or that you have already sent this user a copy.
   For an executable, the required form of the "work that uses the Library" must include any data and utility programs needed for reproducing the executable from it. However, as a special exception, the materials to be distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable.
   It may happen that this requirement contradicts the license restrictions of other proprietary libraries that do not normally accompany the operating system. Such a contradiction means you cannot use both them and the Library together in an executable that you distribute.
7. You may place library facilities that are a work based on the Library side-by-side in a single library together with other library facilities not covered by this License, and distribute such a combined library, provided that the separate distribution of the work based on the Library and of the other library facilities is otherwise permitted, and provided that you do these two things:
   a) Accompany the combined library with a copy of the same work based on the Library, uncombined with any other library facilities. This must be distributed under the terms of the Sections above.
   b) Give prominent notice with the combined library of the fact that part of it is a work based on the Library, and explaining where to find the accompanying uncombined form of the same work.
8. You may not copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.

9. You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Library or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Library (or any work based on the Library), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Library or works based on it.
10. Each time you redistribute the Library (or any work based on the Library), the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute, link with or modify the Library subject to these terms and conditions. You may not impose any further restrictions on the recipients' exercise of the rights granted herein. You are not responsible for enforcing compliance by third parties with this License.
11. If, as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Library at all. For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Library by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Library. If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply, and the section as a whole is intended to apply in other circumstances.
    It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice.
    This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.
12. If the distribution and/or use of the Library is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Library under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.
13. The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the Lesser General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns.
    Each version is given a distinguishing version number. If the Library specifies a version number of this License which applies to it and "any later version", you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Library does not specify a license version number, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.
14. If you wish to incorporate parts of the Library into other free programs whose distribution conditions are incompatible with these, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

NO WARRANTY

15. BECAUSE THE LIBRARY IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE LIBRARY, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE LIBRARY "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE LIBRARY IS WITH YOU. SHOULD THE LIBRARY PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.
16. IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE LIBRARY AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE LIBRARY (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE LIBRARY TO OPERATE WITH ANY OTHER SOFTWARE), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

END OF TERMS AND CONDITIONS

How to Apply These Terms to Your New Libraries

If you develop a new library, and you want it to be of the greatest possible use to the public, we recommend making it free software that everyone can redistribute and change. You can do so by permitting redistribution under these terms (or, alternatively, under the terms of the ordinary General Public License).

To apply these terms, attach the following notices to the library. It is safest to attach them to the start of each source file to most effectively convey the exclusion of warranty; and each file should have at least the "copyright" line and a pointer to where the full notice is found.

<one line to give the library's name and a brief idea of what it does.>
Copyright (C) <year> <name of author>

This library is free software; you can redistribute it and/or modify it under the terms of the GNU Lesser General Public License as published by the Free Software Foundation; either version 2.1 of the License, or (at your option) any later version.

This library is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU Lesser General Public License for more details.

You should have received a copy of the GNU Lesser General Public License along with this library; if not, write to the Free Software Foundation, Inc., 51 Franklin Street, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301 USA

Also add information on how to contact you by electronic and paper mail.

You should also get your employer (if you work as a programmer) or your school, if any, to sign a "copyright disclaimer" for the library, if necessary. Here is a sample; alter the names:

Yoyodyne, Inc., hereby disclaims all copyright interest in the library 'Frob' (a library for tweaking knobs) written by James Random Hacker.
<signature of Ty Coon>, 1 April 1990
Ty Coon, President of Vice

That's all there is to it!

❏ Exhibit-C

/* zlib.h -- interface of the 'zlib' general purpose compression library version 1.2.3, July 18th, 2005

Copyright (C) 1995-2005 Jean-loup Gailly and Mark Adler

This software is provided 'as-is', without any express or implied warranty. In no event will the authors be held liable for any damages arising from the use of this software.

Permission is granted to anyone to use this software for any purpose, including commercial applications, and to alter it and redistribute it freely, subject to the following restrictions:

1. The origin of this software must not be misrepresented; you must not claim that you wrote the original software. If you use this software in a product, an acknowledgment in the product documentation would be appreciated but is not required.
2. Altered source versions must be plainly marked as such, and must not be misrepresented as being the original software.
3. This notice may not be removed or altered from any source distribution.
   Jean-loup Gailly jloup@gzip.org
   Mark Adler madler@alumni.caltech.edu

*/

❏ Exhibit-D

Copyright (c) 1998, 1999, 2000 Thai Open Source Software Center Ltd and Clark Cooper
Copyright (c) 2001, 2002, 2003, 2004, 2005, 2006 Expat maintainers.

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the Software), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT.

IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

❏ Exhibit-E

The FreeType Project LICENSE

2006-Jan-27
Copyright 1996-2002, 2006 by
David Turner, Robert Wilhelm, and Werner Lemberg

Introduction

The FreeType Project is distributed in several archive packages; some of them may contain, in addition to the FreeType font engine, various tools and contributions which rely on, or relate to, the FreeType Project.

This license applies to all files found in such packages, and which do not fall under their own explicit license. The license affects thus the FreeType font engine, the test programs, documentation and makefiles, at the very least.

This license was inspired by the BSD, Artistic, and IJG (Independent JPEG Group) licenses, which all encourage inclusion and use of free software in commercial and freeware products alike. As a consequence, its main points are that:

- We don't promise that this software works. However, we will be interested in any kind of bug reports. ('as is' distribution)
- You can use this software for whatever you want, in parts or full form, without having to pay us. ('royalty-free'usage)
- You may not pretend that you wrote this software. If you use it, or only parts of it, in a program, you must acknowledge somewhere in your documentation that you have used the FreeType code. ('credits')

We specifically permit and encourage the inclusion of this software, with or without modifications, in commercial products.
We disclaim all warranties covering The FreeType Project and assume no liability related to The FreeType Project.
Finally, many people asked us for a preferred form for a credit/disclaimer to use in compliance with this license. We thus encourage you to use the following text:
" " "
Portions of this software are copyright c <year> The FreeType Project (www.freetype.org). All rights reserved.
" " "
Please replace <year> with the value from the FreeType version you actually use.

Legal Terms

0. Definitions

Throughout this license, the terms 'package', 'FreeType Project', and 'FreeType archive' refer to the set of files originally distributed by the authors (David Turner, Robert Wilhelm, and Werner Lemberg) as the 'FreeType Project', be they named as alpha, beta or final release.
'You' refers to the licensee, or person using the project, where 'using' is a generic term including compiling the project's source code as well as linking it to form a 'program' or 'executable'.
This program is referred to as 'a program using the FreeType engine'.
This license applies to all files distributed in the original FreeType Project, including all source code, binaries and documentation, unless otherwise stated inthe file in its original, unmodified form a distributed in the original archive.
If you are unsure whether or not a particular file is covered by this license, you must contact us to verify this.
The FreeType Project is copyright (C) 1996-2000 by David Turner,
Robert Wilhelm, and Werner Lemberg. All rights reserved except as specified below.

1. No Warranty

THE FREETYPE PROJECT IS PROVIDED 'AS IS' WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. IN NO EVENT WILL ANY OF THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY DAMAGES CAUSED BY THE USE OR THE INABILITY TO USE, OF THE FREETYPE PROJECT.

2. Redistribution

This license grants a worldwide, royalty-free, perpetual and irrevocable right and license to use, execute, perform, compile, display, copy, create derivative works of, distribute and sublicense the FreeType Project (in both source and object code forms) and derivative works thereof for any purpose; and to authorize others to exercise some or all of the rights granted herein, subject to the following conditions:

- Redistribution of source code must retain this license file ('FTL.TXT') unaltered; any additions, deletions or changes to the original files must be clearly indicated in accompanying documentation. The copyright notices of the unaltered, original files must be preserved in all copies of source files.
- Redistribution in binary form must provide a disclaimer that states that the software is based in part of the work of the FreeType Team, in the distribution documentation. We also encourage you to put an URL to the FreeType web page in your documentation, though this isn't mandatory.

These conditions apply to any software derived from or based on the FreeType Project, not just the unmodified files. If you use our work, you must acknowledge us. However, no fee need be paid to us.

3. Advertising

Neither the FreeType authors and contributors nor you shall use the name of the other for commercial, advertising, or promotional purposes without specific prior written permission.
We suggest, but do not require, that you use one or more of the following phrases to refer to this software in your documentation or advertising materials: 'FreeType Project', 'FreeType Engine', 'FreeType library', or 'FreeType Distribution'.
As you have not signed this license, you are not required to accept it. However, as the FreeType Project is copyrighted material, only this license, or another one contracted with the authors, grants you the right to use, distribute, and modify it.
Therefore, by using, distributing, or modifying the FreeType Project, you indicate that you understand and accept all the terms of this license.

4. Contacts

There are two mailing lists related to FreeType:

- freetype@freetype.org
  Discusses general use and applications of FreeType, as well as future and wanted additions to the library and distribution.
  If you are looking for support, start in this list if you haven't found anything to help you in the documentation.
- freetype-devel@nongnu.org
  Discusses bugs, as well as engine internals, design issues, specific licenses, porting, etc.

Our home page can be found at

http://www.freetype.org

--- end of FTLTXT ---

❏ Exhibit-F

LICENSE ISSUES

The OpenSSL toolkit stays under a dual license, i.e. both the conditions of the OpenSSL License and the original SSLeay license apply to the toolkit.
See below for the actual license texts. Actually both licenses are BSD-style Open Source licenses. In case of any license issues related to OpenSSL please contact openssl-core@openssl.org.

OpenSSL License

/*===
Copyright (c) 1998-2008 The OpenSSL Project. All rights reserved.
Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgment:
   "This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit. (http://www.openssl.g/)"
4. The names "OpenSSL Toolkit" and "OpenSSL Project" must not be used to endorse or promote products derived from this software without prior written permission. For written permission, please contact openssl-core@openssl.org.
5. Products derived from this software may not be called "OpenSSL" nor may "OpenSSL" appear in their names without prior written permission of the OpenSSL Project.
6. Redistributions of any form whatsoever must retain the following acknowledgment:
   "This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit (http://www.openssl.org/)"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE OpenSSL PROJECT "AS IS" AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED.
IN NO EVENT SHALL THE OpenSSL PROJECT OR ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE
===
This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@cryptsoft.com). This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).
*/

Original SSLeay License

/*
Copyright (C) 1995-1998 Eric Young (eay@cryptsoft.com)
All rights reserved.
This package is an SSL implementation written by Eric Young (eay@cryptsoft.com).
The implementation was written so as to conform with Netscapes SSL.
This library is free for commercial and non-commercial use as long as the following conditions are aheared to. The following conditions apply to all code found in this distribution, be it the RC4, RSA, lhash, DES, etc., code; not just the SSL code. The SSL documentation included with this distribution is covered by the same copyright terms except that the holder is Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).
Copyright remains Eric Young's, and as such any Copyright notices in the code are not to be removed.
If this package is used in a product, Eric Young should be given attribution as the author of the parts of the library used.
This can be in the form of a textual message at program startup or in documentation (online or textual) provided with the package.
Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgement:
   "This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@cryptsoft.com)"
   The word 'cryptographic' can be left out if the rouines from the library being used are not cryptographic related :-).
4. If you include any Windows specific code (or a derivative thereof) from the apps directory (application code) you must include an acknowledgement:
   "This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com)

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY ERIC YOUNG "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.
"The licence and distribution terms for any publically available version or derivative of this code cannot be changed. i.e. this code cannot simply be copied and put under another distribution licence [including the GNU Public Licence.]

❑ Exhibit-G

LibJPEG

In plain English:

1. We don't promise that this software works. (But if you fi nd any bugs, please let us know!)
2. You can use this software for whatever you want. You don't have to pay us.
3. You may not pretend that you wrote this software. If you use it in a program, you must acknowledge somewhere in your documentation that you've used the IJG code.

In legalese:
The authors make NO WARRANTY or representation, either express or implied, with respect to this software, its quality, accuracy, merchantability, or fitness for a particular purpose.
This software is provided "AS IS", and you, its user, assume the entire risk as to its quality and accuracy.
This software is copyright (C) 1991-1998, Thomas G. Lane. All Rights Reserved except as specifi ed below.

Permission is hereby granted to use, copy, modify, and distribut this software (or portions thereof) for any purpose, without fee, subject to these conditions:
(1) If any part of the source code for this software is distributed, then this README file must be included, with this copyright and no-warranty notice unaltered; and any additions, deletions, or changes to the original files must be clearly indicated in accompanying documentation.
(2) If only executable code is distributed, then the accompanying documentation must state that "this software is based in part on the work of the Independent JPEG Group".
(3) Permission for use of this software is granted only if the user accepts full responsibility for any undesirable consequences; the authors accept NO LIABILITY for damages of any kind.

These conditions apply to any software derived from or based onthe IJG code, not just to the unmodified library. If you use our work, you ought to acknowledge us. Permission is NOT granted for the use of any IJG author's name or company name in advertising or publicity relating to this software or products derived from it.
This software may be referred to only as "the Independent JPEG Group's software".
We specifically permit and encourage the use of this software as the basis of commercial products, provided that all warranty or liability claims are assumed by the product vendor.

ansi2knr.c is included in this distribution by permission of L. Peter Deutsch, sole proprietor of its copyright holder, Aladdin Enterprises of Menlo Park, CA.
ansi2knr.c is NOT covered by the above copyright and conditions, but instead by the usual distribution terms of the Free Software Foundation; principally, that you must include source code if you redistribute it. (See the file ansi2knr.c for full details.)
However, since ansi2knr.c is not needed as part of any program generated from the IJG code, this does not limit you more than the foregoing paragraphs do.

The Unix configuration script "configure" was produced with GNU Autoconf.
It is copyright by the Free Software Foundation but is freely distributable.
The same holds for its supporting scripts (config. guess, config.sub, ltconfig, ltmain.sh). Another support script, install-sh, is copyright by M.I.T. but is also freely distributable.

It appears that the arithmetic coding option of the JPEG spec is covered by patents owned by IBM, AT&T, and Mitsubishi.
Hence arithmetic coding cannot legally be used without obtaining one or more licenses.
For this reason, support for arithmetic coding has been removed from the free JPEG software.
(Since arithmetic coding provides only a marginal gain over the unpatented Huffman mode, it is unlikely that very many implementations will support it.)
So far as we are aware, there are no patent restrictions on the remaining code.

The IJG distribution formerly included code to read and write GIF files.
To avoid entanglement with the Unisys LZW patent, GIF reading support has been removed altogether, and the GIF writer has been simplified to produce uncompressed GIFs.
This technique does not use the LZW algorithm; the resulting GIF files are larger than usual, but are readable by all standard GIF decoders.

We are required to state that
"The Graphics Interchange Format(c) is the Copyright property of CompuServe Incorporated.
GIF(sm) is a Service Mark property of CompuServe Incorporated."

❑ Exhibit-H

COPYRIGHT AND PERMISSION NOTICE

Copyright (c) 1996 - 2008, Daniel Stenberg, <daniel@haxx.se>.
All rights reserved.
Permission to use, copy, modify, and distribute this software for any purpose with or without fee is hereby granted, provided that the above copyright notice and this permission notice appear in all copies.
THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT OF THIRD PARTY RIGHTS. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.
Except as contained in this notice, the name of a copyright holder shall not be used in advertising or otherwise to promote the sale, use or other dealings in this Software without prior written authorization of the copyright holder.

❑ Exhibit-I

ICU License - ICU 1.8.1 and later

COPYRIGHT AND PERMISSION NOTICE
Copyright (c) 1995-2010 International Business Machines Corporation and others
All rights reserved.

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, provided that the above copyright notice(s) and this permission notice appear in all copies of the Software and that both the above copyright notice(s) and this permission notice appear in supporting documentation.
THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT OF THIRD PARTY RIGHTS. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDER OR HOLDERS INCLUDED IN THIS NOTICE BE LIABLE FOR ANY CLAIM, OR ANY SPECIAL INDIRECT OR CONSEQUENTIAL DAMAGES, OR ANY DAMAGES WHATSOEVER RESULTING FROM LOSS OF USE, DATA OR PROFITS, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, NEGLIGENCE OR OTHER TORTIOUS ACTION, ARISING OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE USE OR PERFORMANCE OF THIS SOFTWARE.
Except as contained in this notice, the name of a copyright holder shall not be used in advertising or otherwise to promote the sale, use or other dealings in this Software without prior written authorization of the copyright holder.
All trademarks and registered trademarks mentioned herein are the property of their respective owners.

❑ Exhibit-J

Alternatively, this software may be distributed, used, and modified under the terms of BSD license:
Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:
1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. Neither the name(s) of the above-listed copyright holder(s) nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.
THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS AS IS AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT OWNER OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

❑ Exhibit-K

COPYRIGHT
Copyright 1992, 1993, 1994, 1997 Henry Spencer. All rights reserved.
This software is not subject to any license of the American Telephone and Telegraph Company or of the Regents of the University of California.
Permission is granted to anyone to use this software for any purpose on any computer system, and to alter it and redistribute it, subject to the following restrictions:
1. The author is not responsible for the consequences of use of this software, no matter how awful, even if they arise from flaws in it.
2. The origin of this software must not be misrepresented, either by explicit claim or by omission. Since few users ever read sources, credits must appear in the documentation.
3. Altered versions must be plainly marked as such, and must not be misrepresented as being the original software. Since few users ever read sources, credits must appear in the documentation.
4. This notice may not be removed or altered

❑ Exhibit-L

/**
The author of this software is David M. Gay.
Copyright (c) 1991, 2000, 2001 by Lucent Technologies.
Permission to use, copy, modify, and distribute this software for any purpose without fee is hereby granted, provided that this entire notice is included in all copies of any software which is or includes a copy or modification of this software and in all copies of the supporting documentation for such software.
THIS SOFTWARE IS BEING PROVIDED "AS IS", WITHOUT ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTY. IN PARTICULAR, NEITHER THE AUTHOR NOR LUCENT MAKES ANY REPRESENTATION OR WARRANTY OF ANY KIND CONCERNING THE MERCHANTABILITY OF THIS SOFTWARE OR ITS FITNESS FOR ANY PARTICULAR PURPOSE.
***/

ソフトウェアなど関する重要なお知らせ

GPL、LGPL ライセンスについて

本製品では、GNU-General Public License（以下 GPL）、GNU Lesser General Public License（以下 LGPL）などが適用されるコードを一部のモジュールで使用しております。
これらのソフトウェアに関しては、各ライセンスに基づきソースコードを入手、改編、配布 することができます。
当社のお客様ご相談センターにお問い合わせいただければ、実費にて GPL、LGPL ライセンスに基づくソースコードをご提供させていただいております。
なお、提供しているソースコードは保証されていません。
また、ソースコードの内容についてのお問い合わせは受け付けておりませんので、あらかじめご了承ください。

DENON

デノンお客様相談センター

☎　044-670-5555

【電話番号はお間違えのないようにおかけください。】

受付時間　9：30 〜 12：00、12：45 〜 17：30
（当社休日および祝日を除く、月〜金曜日）

〒210-8569　神奈川県川崎市川崎区日進町 2 番地 1　D&M ビル 3F

故障・修理・サービス部品についてのお問い合わせ先（サービスセンター）については、次の当社ホームページでもご確認いただけます。

http://denon.jp/jp/support/pages/servicecenter.aspx

後日のために記入しておいてください。

購入店名：	電話（　　-　　-　　）
ご購入年月日：　　年　　月　　日	

株式会社 ディーアンドエムホールディングス

Printed in China　5411 10462 10AD